
2005年度

言語文化学科シラバス

獨協大学

学 則 別 表 (2003年度以降入学者用)

科目郡	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択	
学科基礎科目	外国語	英語Ⅰ	1	4			
		英語Ⅱ	1	4			
		英語Ⅲ	1	4			
		英語Ⅳ	1	4			
		スペイン語Ⅰ	1		4*		
		スペイン語Ⅱ	1		4*		
		スペイン語Ⅲ	1		4*		
		スペイン語Ⅳ	1		4*		
		中国語Ⅰ	1		4*		
		中国語Ⅱ	1		4*		
		中国語Ⅲ	1		4*		
		中国語Ⅳ	1		4*		
		基礎講座	ボランティア論	2	2		
			現代世界論	2	2		
			コンピュータ基礎演習	2	2		
		概論	言語文化概論	2	2		
	比較思想概論		2				
	日本文化論a		2			6	
	日本文化論b		2				
	日本語研究概論a		2				
日本語研究概論b	2						
スペイン・ラテンアメリカ文化論a	2						
スペイン・ラテンアメリカ文化論b	2						
現代中国論a	2						
現代中国論b	2						
学科 共通科目	外国語	英語演習	2	4			
		スペイン語演習	2		4**		
		中国語演習	2		4**		
学科 専門科目	日本研究	日本思想史a	2				
		日本思想史b	2				
		日本文化・芸能論a	2				
		日本文化・芸能論b	2				
		日本近現代史a	2			8***	
		日本近現代史b	2				
		日本文学	2				
		日本経済論a	2				
		日本経済論b	2				
		日本政治外交史a	2				
		日本政治外交史b	2				
		日本研究特殊講義	2				
		日本語教育研究	日本語文法論a	2			
	日本語文法論b		2				
	日本語音声学a		2				
	日本語音声学b		2				
	日本語史a		2				
	日本語史b		2				
	対照言語学a		2				
	対照言語学b		2				
	日本語語彙・意味論		2				8***
	日本語教授法Ⅰa		2				
	日本語教授法Ⅰb		2				
	日本語教授法Ⅱ		2				
	日本語学a		2				
	日本語学b		2				
	日本語教育論		2				
	日本語教育特殊講義		2				
	日本語教育実習		2				

科目群	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
学科専門科目	情報・コミュニケーション研究	自然言語処理a 自然言語処理b プログラミング論a プログラミング論b 通訳翻訳論 異文化間コミュニケーション論a 異文化間コミュニケーション論b マス・コミュニケーション論a マス・コミュニケーション論b 認知科学 人間関係とカウンセリングa 人間関係とカウンセリングb 情報・コミュニケーション研究特殊講義	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		4	20
	地域研究	地域文化論 i a 地域文化論 i b 地域文化論 ii a 地域文化論 ii b 地域文化論 iii a 地域文化論 iii b 地域文化論 iv a 地域文化論 iv b 地域経済論 i a 地域経済論 i b 地域経済論 ii a 地域経済論 ii b 地域経済論 iii a 地域経済論 iii b 比較社会論a 比較社会論b 地域社会文化論特殊講義 比較文化論特殊講義	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		4	
関連科目	国際交流	国際関係概論a 国際関係概論b 国際機構論a 国際機構論b 地球環境論a 地球環境論b 都市・地域計画論a 都市・地域計画論b 国際経済論a 国際経済論b 国際政治論a 国際政治論b 国際交流特殊講義	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		4	
外国語学部共通科目(別表 I-5)						2
全学共通授業科目 (別表 IV)	全学総合科目	カテゴリ-I カテゴリ-II カテゴリ-III カテゴリ-IV カテゴリ-V		4		4
	外国語科目	英語以外の外国語				
卒業論文			4			
演習			2	8		
卒業に必要な単位数合計				40	62	26
				128		

備考

- (1)*および**は外国語部門の「スペイン語」、「中国語」から一言語を選択する。
 - (2)***は「日本研究」および「日本語教育研究」部門から合わせて8単位を修得する。
 - (3)卒業に必要な選択科目のうち、外国語学部共通科目の単位で満たすことができるのは6単位までとする。
また、全学共通授業科目の単位で満たすことができるのは12単位までとする。
 - (4)卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
ただし、このうち12単位までは教職課程授業科目とすることができる。なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。

学則別表（2003年度以降入学者）

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○ 本表は、2003年度入学者から適用する。

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2003年度以降入学生用の「言語文化学科」授業科目と「外国語学部共通科目」、2002年度以前入学生用の「言語文化学科」授業科目シラバスです。

言語文化学科のシラバスは入学年度により、目次が2種類に分けられています。

＜2003年度以降入学生用＞と＜2002年度以前入学生用＞です。

入学年度により履修できる科目が異なるので、各自の入学年度に該当する目次を参照してください。

*入学年度により履修開始時期の表現が異なります。

2003年度以降入学生用目次 : 履修開始 学期

2002年度以前入学生用目次 : 履修開始 学年

*履修不可学科の表記

外：外国語学部
 独：ドイツ語学科
 英：英語学科
 仏：フランス語学科
 言（*1）：言語文化学科、スペイン語履修者
 言（*2）：言語文化学科、中国語履修者
 全：言語文化学科以外

経：経済学部
 法：法学部
 済：経済学科
 律：法律学科
 営：経営学科
 国：国際関係法学科
 言：言語文化学科

①適用年度* (カリキュラム)	② 科目名 科目名	③ 担当者
【 春学期 】	④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
	⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法
①適用年度* (カリキュラム)	② 科目名 科目名	③ 担当者
【 秋学期 】	④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
	⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法

☆上段は、(原則) 春学期科目です。

但し例外もありますので、適用年度後の () 内表記を確認してください。

①②入学年度により科目名が異なります。

カリキュラムによっては開講されない科目もありますので、自分の適用年度が含まれているか必ず確認してください。

③ 担当教員氏名

④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。

⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。

⑦ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

☆下段は、(原則) 秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

適用年度=その科目が開講されるカリキュラム (入学年度による)

[注意]

1. 定員

科目の中には定員制のものがあります。

それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

言語文化学科授業科目 (2003年度以降入学生用)

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
「外国語」部門									
		英語Ⅰ・Ⅱ(LR1)(LR2)	各担当教員			1	1/2	全	1
		英語Ⅰ・Ⅱ(SW1)(SW2)	各担当教員			1	1/2	全	2
		英語Ⅲ・Ⅳ(LR1)(LR2)	各担当教員			1	3/4	全	3
		英語Ⅲ・Ⅳ(SW1)(SW2)	各担当教員			1	3/4	全	4
		スペイン語Ⅰ(総合1)(総合2)	各担当教員			1	1	全	5
		スペイン語Ⅰ(入門)(会話)	各担当教員			1	1	全	6
		スペイン語Ⅱ(総合1)(総合2)	各担当教員			1	2	全	7
		スペイン語Ⅱ(基礎表現)(会話)	各担当教員			1	2	全	8
		スペイン語Ⅲ(総合)(講読)	各担当教員			1	3	全	9
		スペイン語Ⅲ(会話1)(会話2)	各担当教員			1	3	全	10
		スペイン語Ⅳ(総合)(講読)	各担当教員			1	4	全	11
		スペイン語Ⅳ(会話1)(会話2)	各担当教員			1	4	全	12
		中国語Ⅰ・Ⅱ(総合1)(総合2)	各担当教員			1	1/2	全	13
		中国語Ⅰ(入門)(会話)	各担当教員			1	1	全	14
		中国語Ⅱ(基礎表現)(会話)	各担当教員			1	2	全	14
		中国語Ⅲ・Ⅳ(総合)(講読)	各担当教員			1	3/4	全	15
		中国語Ⅲ・Ⅳ(会話1)(会話2)	各担当教員			1	3/4	全	16
		中国語Ⅲ・Ⅳ(会話1)(会話2)	永田 小絵			1	3/4	全	17
「基礎講座」部門									
02188	春	ボランティア論	青柳 多恵子	木4	6-101	2	1		18
08659	秋	現代世界論	佐藤 勤治	木4	1-402	2	1	全	19
		コンピュータ基礎演習	各担当教員			2	1	全	*
「概論」部門									
02273	秋	言語文化概論	下川 浩	火5	6-101	2	1		20
02271	秋	比較思想概論	松丸 壽雄	水1	2-301	2	1		21
01969	春	日本文化論a	小島 幸枝	木2	1-306	2	1		22
01970	秋	日本文化論b	小島 幸枝	木2	1-306	2	2		22
02050	春	日本語研究概論a	浅山 佳郎	金4	1-401	2	1		23
02051	秋	日本語研究概論b	浅山 佳郎	金4	1-401	2	2		23
02104	春	スペイン・ラテンアメリカ文化論a	浦部 浩之	水1	1-204	2	1		24
02105	秋	スペイン・ラテンアメリカ文化論b	浦部 浩之	水1	1-204	2	2		24
01905	春	現代中国論a	上村 幸治	月3	3-209	2	1		25
01906	秋	現代中国論b	上村 幸治	月3	3-209	2	2		25

学科共通科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
09099	春	英語演習(現代社会)	J. ウォールドマン	月1	2-303	2	5	全	26
10630	春	英語演習(現代社会)	J. ウォールドマン	木2	3-204	2	5	全	26
09100	秋	英語演習(現代社会)	J. ウォールドマン	月1	2-303	2	5	全	26
10634	秋	英語演習(現代社会)	J. ウォールドマン	木2	3-204	2	5	全	26
09101	春	英語演習(ビジネス英語)	P. アップス	火1	6-306	2	5	全	27
10631	春	英語演習(ビジネス英語)	P. アップス	水3	6-304	2	5	全	27
09102	秋	英語演習(ビジネス英語)	P. アップス	火1	6-306	2	5	全	27
10635	秋	英語演習(ビジネス英語)	P. アップス	水3	6-304	2	5	全	27
09103	春	英語演習(ビジネス英語)	W. J. ベンフィールド	水3	3-208	2	5	全	28
10632	春	英語演習(ビジネス英語)	W. J. ベンフィールド	木2	3-117	2	5	全	28
09104	秋	英語演習(ビジネス英語)	W. J. ベンフィールド	水3	3-208	2	5	全	28
10636	秋	英語演習(ビジネス英語)	W. J. ベンフィールド	木2	3-117	2	5	全	28

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜日	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
09780	春	英語演習 (日英通訳翻訳)	柴原 智幸	水3	5-402	2	5	全	29
10633	春	英語演習 (日英通訳翻訳)	柴原 智幸	水4	1-308	2	5	全	29
09781	秋	英語演習 (日英通訳翻訳)	柴原 智幸	水3	5-402	2	5	全	29
10637	秋	英語演習 (日英通訳翻訳)	柴原 智幸	水4	1-308	2	5	全	29
09414	春	スペイン語演習	J. I. ドメネク・アロンソ	火3	4-308	2	5	全	30
09415	秋	スペイン語演習	J. I. ドメネク・アロンソ	火3	4-308	2	5	全	30
10638	春	スペイン語演習	G. ヨシカワ	金2	6-408	2	5	全	31
10641	秋	スペイン語演習	G. ヨシカワ	金2	6-408	2	5	全	31
09417	春	スペイン語演習	N. ウエチ	月3	6-306	2	5	全	32
09416	秋	スペイン語演習	N. ウエチ	月3	6-306	2	5	全	32
10639	春	スペイン語演習	兒島 峰	火3	3-204	2	5	全	33
10642	秋	スペイン語演習	兒島 峰	火3	3-204	2	5	全	33
10640	春	スペイン語演習	佐藤 勤治	月3	3-308	2	5	全	34
10643	秋	スペイン語演習	佐藤 勤治	月3	3-308	2	5	全	34
09418	春	スペイン語演習	G. ヨシカワ	木1	3-308	2	5	全	35
09419	秋	スペイン語演習	G. ヨシカワ	木1	3-308	2	5	全	35
10645	春	中国語演習 (中国文化と日本)	易 友人	月2	6-309	2	5	全	36
10648	秋	中国語演習 (中国文化と日本)	易 友人	月2	6-309	2	5	全	36
09771	春	中国語演習 (中国現代社会)	上村 幸治	水1	6-302	2	5	全	37
09772	秋	中国語演習 (中国現代社会)	上村 幸治	水1	6-302	2	5	全	37
10644	春	中国語演習 (通訳・翻訳)	永田 小絵	水1	5-404	2	5	全	38
10647	秋	中国語演習 (通訳・翻訳)	永田 小絵	水1	5-404	2	5	全	38
09420	春	中国語演習 (応用作文と講読)	武信 彰	水2	1-209	2	5	全	39
09421	秋	中国語演習 (応用作文と講読)	武信 彰	水2	1-209	2	5	全	39
09422	春	中国語演習 (ビジネス中国語)	吉田 桂子	木3	6-308	2	5	全	40
09423	秋	中国語演習 (ビジネス中国語)	吉田 桂子	木3	6-308	2	5	全	40
10646	春	中国語演習 (ビジネス中国語)	吉田 桂子	木4	6-308	2	5	全	40
10649	秋	中国語演習 (ビジネス中国語)	吉田 桂子	木4	6-308	2	5	全	40

学科専門科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜日	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
「日本研究」部門									
06317	春	日本思想史a	川村 肇	木3	3-308	2	3	全	41
06318	秋	日本思想史b	川村 肇	木3	3-308	2	4	全	41
06319	春	日本文化・芸能論a	飯島 一彦	水2	1-201	2	3		42
06320	秋	日本文化・芸能論b	飯島 一彦	水2	1-201	2	4		42
06479	春	日本近現代史a	丸浜 昭	木5	4-306	2	3	全	43
06480	秋	日本近現代史b	丸浜 昭	木5	4-306	2	4	全	43
02352	秋	日本文学	飯島 一彦	木3	2-303	2	3		44
07116	春	日本経済論a	波形 昭一	火5	5-211	2	3	経・法	45
07117	秋	日本経済論b	波形 昭一	火5	5-211	2	4	経・法	45
06281	春	日本政治外交史a	福永 文夫	木2	2-402	2	3	法	46
06282	秋	日本政治外交史b	福永 文夫	木2	2-402	2	4	法	46
07119	春	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像a)	瀬尾 菊次	火2	3-305	2	3	全	47
07120	秋	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像b)	瀬尾 菊次	火2	3-305	2	4	全	47
「日本語教育研究」部門									
06321	春	日本語文法論a	浅山 佳郎	火1	4-401	2	3		48
06322	秋	日本語文法論b	浅山 佳郎	火1	4-401	2	4		48
06323	春	日本語音声学a	城田 俊	水1	3-202	2	3		49
06324	秋	日本語音声学b	城田 俊	水1	3-202	2	4		49
06359	春	日本語史a	小島 幸枝	木5	6-305	2	3		50
06360	秋	日本語史b	小島 幸枝	木5	6-305	2	4		50
06325	春	対照言語学a	中西 家栄子	金3	4-306	2	3		51
06326	秋	対照言語学b	中西 家栄子	金3	4-306	2	4		51
06327	春	日本語教授法 I a	中西 家栄子	木5	5-105	2	3		52
06328	秋	日本語教授法 I b	中西 家栄子	木5	5-105	2	4		52

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
01884	春	日本語学a	城田 俊	金3	1-404	2	1	全	55
01885	秋	日本語学b	城田 俊	金3	1-404	2	2	全	55
02163	秋	日本語教育論	中西 家栄子	火4	1-206	2	1	全	56
02353	春	日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論a)	中西 家栄子	火2	1-102	2	3		57
02354	秋	日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論b)	中西 家栄子	火2	1-102	2	4		57
「情報・コミュニケーション研究」部門									
06329	春	自然言語処理a	呉 浩東	金3	図多目	2	3		59
06330	秋	自然言語処理b	呉 浩東	金3	図多目	2	4		59
02291	秋	通訳翻訳論	永田 小絵	火3	3-205	2	3	全	60
07121	春	プログラミング論a(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉 浩東	月2	5-210	2	3	全	61
07122	秋	プログラミング論b(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉 浩東	月2	5-210	2	4	全	61
07127	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	火1	5-100	2	3	経	62
07128	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	火1	5-100	2	4	経	62
07123	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	高柳 敏子	金2	6-401	2	3	経	63
07124	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	高柳 敏子	金2	6-401	2	4	経	63
06331	春	異文化間コミュニケーション論a	岡村 圭子	木1	1-404	2	3	英	64
06332	秋	異文化間コミュニケーション論b	岡村 圭子	木1	1-404	2	4	英	64
02355	春	認知科学	田口 雅徳	水2	1-305	2	3		65
02356	秋	認知科学	田口 雅徳	水2	2-208	2	3		65
06333	春	人間関係とカウンセリングa	瀧本 孝雄	金1	4-403	2	3		66
06334	秋	人間関係とカウンセリングb	瀧本 孝雄	金1	4-403	2	4		66
07129	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(人間行動論a)	青柳 多恵子	水1	3-205	2	3		67
07130	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(人間行動論b)	青柳 多恵子	水1	3-205	2	4		67
08476	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	安井 美代子	水2	5-201	2	3	全	68
08477	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	安井 美代子	水2	5-201	2	3	全	68
07131	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(コーパス言語学入門)	浅山 佳郎	月4	5-101	2	3		69
「地域研究」部門									
07132	春	地域文化論 i a(ラテンアメリカ)	佐藤 勤治	月5	6-203	2	3		70
07133	秋	地域文化論 i b(ラテンアメリカ)	佐藤 勤治	月5	6-203	2	4		70
07134	春	地域文化論 ii a(スペイン)	二宮 哲	月4	6-205	2	3		71
07135	秋	地域文化論 ii b(スペイン)	二宮 哲	月4	6-205	2	4		71
07136	春	地域文化論 iii a(中国)	易 友人	木2	2-309	2	3		72
07137	秋	地域文化論 iii b(中国)	易 友人	木2	2-309	2	4		72
06278	春	地域経済論 i a(ラテンアメリカ)	今井 圭子	火3	3-308	2	3		73
06279	秋	地域経済論 i b(ラテンアメリカ)	今井 圭子	火3	3-308	2	4		73
07140	春	地域経済論 ii a(アジア)	森 健	金3	3-404	2	3	経	74
07141	秋	地域経済論 ii b(アジア)	森 健	金3	3-404	2	4	経	74
07144	春	地域経済論 iii a(中国)	駒形 哲哉	金2	5-403	2	3	経	75
07145	秋	地域経済論 iii b(中国)	全 載旭	金2	5-403	2	4	経	75
07146	春	比較社会論a	井上 兼行	水2	3-202	2	3		76
07147	秋	比較社会論b	井上 兼行	水2	3-202	2	4		76
07148	春	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活a)	犬井 正	金2	6-206	2	3		77
07149	秋	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活b)	犬井 正	金2	6-206	2	4		77
07150	春	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化a)	井上 兼行	木1	5-104	2	3		78
07151	秋	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化b)	井上 兼行	木1	5-104	2	4		78
07154	春	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶものa)	熊谷 哲也	木4	5-211	2	3	全	79
07155	秋	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶものb)	熊谷 哲也	木4	5-211	2	4	全	79
07152	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーa)	佐藤 唯行	木3	1-310	2	3		80
07153	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーb)	佐藤 唯行	木3	1-310	2	4		80
07156	春	地域社会文化論特殊講義(ラテンアメリカの歴史a)	G. ヨシカワ	火5	6-305	2	3		81
07157	秋	地域社会文化論特殊講義(ラテンアメリカの歴史b)	G. ヨシカワ	火5	6-305	2	4		81
07575	春	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術a)	藤原 和彦	月2	6-207	2	3		82
07576	秋	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術b)	藤原 和彦	月2	6-207	2	4		82
07158	秋	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史)	古川 堅治	木5	6-106	2	3		83
07161	春	比較文化論特殊講義(日中文化比較論a)	易 友人	金1	2-309	2	3		84
07162	秋	比較文化論特殊講義(日中文化比較論b)	易 友人	金1	2-309	2	4		84
01822	春	比較文化論特殊講義(グローバル化とローカル文化)	岡村 圭子	水2	1-403	2	3		85
01823	秋	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	岡村 圭子	水2	1-403	2	3		85

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
「国際交流」部門									
07370	春	国際関係概論a	永野 隆行	水2	3-404	2	3		86
07369	秋	国際関係概論b	金子 芳樹	水2	4-403	2	4		86
07366	春	国際関係概論a	金子 芳樹	水2	4-403	2	3		87
07367	秋	国際関係概論b	永野 隆行	水2	3-404	2	4		87
06275	春	国際機構論a	松田 幹夫	金2	5-211	2	3		88
06276	秋	国際機構論b	松田 幹夫	金2	5-211	2	4		88
07163	春	地球環境論a(地理学)	犬井 正	月2	4-403	2	1	全	89
07164	秋	地球環境論b(地理学)	犬井 正	月2	4-403	2	2	全	89
09061	春	地球環境論a(植物学)	加藤 僖重	木2	6-309	2	3		90
01941	秋	地球環境論b(植物学)	加藤 僖重	木2	6-309	2	4		90
07166	春	地球環境論a(太陽系)	福井 尚生	金1	4-401	2	3		91
07167	秋	地球環境論b(太陽系)	福井 尚生	金1	4-401	2	4		91
07168	春	都市・地域計画論a	鈴木 隆	月2	6-404	2	3		92
07169	秋	都市・地域計画論b	鈴木 隆	月2	6-404	2	4		92
07174	春	国際政治論a	星野 昭吉	月2	1-306	2	3		93
07175	秋	国際政治論b	星野 昭吉	月2	1-306	2	4		93

*「コンピュータ基礎演習」のシラバスは、外国語学部共通科目「情報科学各論」の頁を参照のこと。

言語文化学科授業科目 (2002年度以前入学生用)

目次

学科基礎科目

時間割	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位	開始学年	履修不可	ページ
「外国語」部門									
		英語Ⅰ・Ⅱ(LR)	各担当教員			2	1	全	1
		英語Ⅰ・Ⅱ(SW)	各担当教員			2	1	全	2
		英語Ⅲ・Ⅳ(LR)	各担当教員			2	2	全	3
		英語Ⅲ・Ⅳ(SW)	各担当教員			2	2	全	4
		スペイン語Ⅰ(総合)	各担当教員			2	1	全	5
		スペイン語Ⅰ(入門・会話)	各担当教員			2	1	全	6
		スペイン語Ⅱ(総合)	各担当教員			2	1	全	7
		スペイン語Ⅱ(基礎表現・会話)	各担当教員			2	1	全	8
		スペイン語Ⅲ(総合・講読)	各担当教員			2	2	全	9
		スペイン語Ⅲ(会話)	各担当教員			2	2	全	10
		スペイン語Ⅳ(総合・講読)	各担当教員			2	2	全	11
		スペイン語Ⅳ(会話)	各担当教員			2	2	全	12
		中国語Ⅰ・Ⅱ(総合)	各担当教員			2	1	全	13
		中国語Ⅰ・Ⅱ(入門・会話)	各担当教員			2	1	全	14
		中国語Ⅰ・Ⅱ(基礎表現・会話)	各担当教員			2	1	全	14
		中国語Ⅲ・Ⅳ(総合・講読)	各担当教員			2	2	全	15
		中国語Ⅲ・Ⅳ(会話)	各担当教員			2	2	全	16
		中国語Ⅲ・Ⅳ(会話)	永田 小絵			2	2	全	17
02113	春	英語Ⅴ(総合英語)ー現代社会	J. ウォールドマン	月1/木2	2-303/3-204	2	3	全	26
02114	秋	英語Ⅴ(総合英語)ー現代社会	J. ウォールドマン	月1/木2	2-303/3-204	2	3	全	26
02115	春	英語Ⅴ(総合英語)ービジネス英語	P. アップス	火1/水3	6-306/6-304	2	3	全	27
02116	秋	英語Ⅴ(総合英語)ービジネス英語	P. アップス	火1/水3	6-306/6-304	2	3	全	27
02117	春	英語Ⅴ(総合英語)ービジネス英語	W. J. ベンフィールド	水3/木2	3-208/3-117	2	3	全	28
02118	秋	英語Ⅴ(総合英語)ービジネス英語	W. J. ベンフィールド	水3/木2	3-208/3-117	2	3	全	28
02119	春	英語Ⅴ(総合英語)ー日英通訳翻訳	柴原 智幸	水3/水4	5-402/1-308	2	3	全	29
09779	秋	英語Ⅴ(総合英語)ー日英通訳翻訳	柴原 智幸	水3/水4	5-402/1-308	2	3	全	29
01966	春	スペイン語Ⅴ(総合)	J. I. ドメネク・アロンソ/G. ヨシカワ	火3/金2	4-308/6-408	2	3	全	30/31
01967	秋	スペイン語Ⅴ(総合)	J. I. ドメネク・アロンソ/G. ヨシカワ	火3/金2	4-308/6-408	2	3	全	30/31
01898	春	スペイン語Ⅴ(総合)	N. ウエチ/児島 峰	月3/火3	6-306/3-204	2	3	全	32/33
01900	秋	スペイン語Ⅴ(総合)	N. ウエチ/児島 峰	月3/火3	6-306/3-204	2	3	全	32/33
01901	春	スペイン語Ⅴ(総合)	佐藤 勤治/G. ヨシカワ	月3/木1	3-308	2	3	全	34/35
01899	秋	スペイン語Ⅴ(総合)	佐藤 勤治/G. ヨシカワ	月3/木1	3-308	2	3	全	34/35
09768	春	中国語Ⅴ(総合)ー中国文化と日本/中国現代社会	易 友人/上村 幸治	月2/水1	6-309/6-302	2	3	全	36/37
09770	秋	中国語Ⅴ(総合)ー中国文化と日本/中国現代社会	易 友人/上村 幸治	月2/水1	6-309/6-302	2	3	全	36/37
01902	春	中国語Ⅴ(総合)ー通訳・翻訳/応用作文と講読	永田 小絵/武信 彰	水1/水2	5-404/1-209	2	3	全	38/39
01903	秋	中国語Ⅴ(総合)ー通訳・翻訳/応用作文と講読	永田 小絵/武信 彰	水1/水2	5-404/1-209	2	3	全	38/39
02169	春	中国語Ⅴ(総合)ービジネス中国語	吉田 桂子	木3/木4	6-308	2	3	全	40
02170	秋	中国語Ⅴ(総合)ービジネス中国語	吉田 桂子	木3/木4	6-308	2	3	全	40
「基礎講座」部門									
02188	春	ボランティア論	青柳 多恵子	木4	6-101	2	1		18
08659	秋	現代世界論	佐藤 勤治	木4	1-402	2	1		19
「概論」部門									
02273	秋	言語文化概論	下川 浩	火5	6-101	2	1		20
02271	秋	比較思想概論	松丸 壽雄	水1	2-301	2	1		21
01968	通年	日本文化論	小島 幸枝	木2	1-306	4	1		22
02049	通年	日本語研究概論	浅山 佳郎	金4	1-401	4	1		23
02103	通年	スペイン・ラテンアメリカ文化論	浦部 浩之	水1	1-204	4	1		24
01904	通年	現代中国論	上村 幸治	月3	3-209	4	1		25

専攻科目

時間割	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位	開始 学年	履修 不可	ページ
「日本研究」部門									
02264	通年	日本思想史	川村 肇	木3	3-308	4	2		41
01947	通年	日本文化・芸能論	飯島 一彦	水2	1-201	4	2		42
02189	通年	日本近現代史	丸浜 昭	木5	4-306	4	2		43
07118	通年	日本経済論	波形 昭一	火5	5-211	4	2	経・法	45
06280	通年	日本政治外交史	福永 文夫	木2	2-402	4	2	法	46
02015	通年	日本研究特殊講義A(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	火2	3-305	4	2	全	47
「日本語教育研究」部門									
02265	通年	日本語文法論	浅山 佳郎	火1	4-401	4	2		48
02059	通年	日本語音声学	城田 俊	水1	3-202	4	2		49
02195	通年	日本語史	小島 幸枝	木5	6-305	4	2		50
02246	通年	対照言語学	中西 家栄子	金3	4-306	4	2		51
02190	通年	日本語教授法Ⅰ	中西 家栄子	木5	5-105	4	2		52
02192	春	日本語教授法Ⅱ	浅山 佳郎	月4	5-104	2	4		53
02036	春	日本語教授法Ⅱ	中西 家栄子	火4	4-313	2	4		54
02080	春	日本語教授法Ⅱ	中西 家栄子	木3	国2-1	2	4		54
「情報・コミュニケーション研究」部門									
02266	秋	現代思想	松丸 壽雄	金4/金5	6-308/6-302	4	2		58
02247	通年	自然言語処理	呉 浩東	金3	図書館多目的室	4	2		59
02212	通年	異文化間コミュニケーション論	岡村 圭子	木1	1-404	4	2	英	64
02124	通年	カウンセリング論	瀧本 孝雄	金1	4-403	4	2		66
02073	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉 浩東	月2	5-210	4	2	全	61
07126	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	火1	5-100	4	2	経	62
07125	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	高柳 敏子	金2	6-401	4	2	経	63
02060	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(人間行動論)	青柳 多恵子	水1	3-205	4	2		67
08097	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義B(CAEL)	安井 美代子	水2	5-201	2	2	全	68
08098	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義B(CAEL)	安井 美代子	水2	5-201	2	2	全	68
02282	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義B(コーパス言語学入門)	浅山 佳郎	月4	5-101	2	2		69
「地域研究」部門									
01939	通年	地域文化論i(ラテンアメリカ)	佐藤 勤治	月5	6-203	4	2		70
01926	通年	地域文化論ii(スペイン)	二宮 哲	月4	6-205	4	2		71
01927	通年	地域文化論iii(中国)	易 友人	木2	2-309	4	2		72
06277	通年	地域経済論i(ラテンアメリカ)	今井 圭子	火3	3-308	4	2		73
07142	通年	地域経済論ii(アジア)	森 健	金3	3-404	4	2	経	74
07143	通年	地域経済論iii(中国)	駒形 哲哉/全 載旭	金2	5-403	4	2	経	75
02078	通年	比較社会論	井上 兼行	水2	3-202	4	2		76
02249	通年	地域研究特殊講義A(森林地域における風土と生活)	犬井 正	金2	6-206	4	2		77
02125	通年	地域研究特殊講義A(カリブ海域の民俗と文化)	井上 兼行	木1	5-104	4	2		78
02191	通年	地域研究特殊講義A(東西文化を結ぶもの)	熊谷 哲也	木4	5-211	4	2		79
02133	通年	地域研究特殊講義A(英語圏のエスニック・ヒストリー)	佐藤 唯行	木3	1-310	4	2		80
02219	通年	地域研究特殊講義A(ラテンアメリカの歴史)	G. ヨシカワ	火5	6-305	4	2		81
07574	通年	地域研究特殊講義A(アラブ文化・芸術)	藤原 和彦	月2	6-207	4	2		82
02196	秋	地域研究特殊講義B(地中海世界の歴史)	古川 堅治	木5	6-106	2	3		83
01940	通年	比較文化論特殊講義A(日中文化比較論)	易 友人	金1	2-309	4	2		84
07115	通年	比較文化論特殊講義A(グローバル化と文化変容)	岡村 圭子	水2	1-403	4	2		85

関連科目

時間割	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位	開始学年	履修不可	ページ
「国際交流」部門									
07364	通年	国際関係概論	永野 隆行／金子 芳樹	水2	3-402／4-403	4	2	英	86
07363	通年	国際関係概論	金子 芳樹／永野 隆行	水2	4-403／3-404	4	2	英	87
06274	通年	国際機構論	松田 幹夫	金2	5-211	4	2	法	88
07165	通年	地球環境論(地理学)	犬井 正	月2	4-403	4	2	経・法	89
09062	通年	地球環境論(植物学)	加藤 僖重	木2	6-309	4	2		90
01856	通年	地球環境論(太陽系)	福井 尚生	金1	4-401	4	2		91
01876	通年	都市・地域計画論	鈴木 隆	月2	6-404	4	2		92
07173	通年	国際政治論	星野 昭吉	月2	1-306	4	2	法	93

卒業論文

時間割	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位	開始学年	履修不可	ページ
		卒業論文	各担当教員			4	4	全	94
02286	通年	卒業論文	浅山 佳郎			4	4	全	
02278	通年	卒業論文	飯島 一彦			4	4	全	
02279	通年	卒業論文	井上 兼行			4	4	全	
02280	通年	卒業論文	川村 肇			4	4	全	
02281	通年	卒業論文	呉 浩東			4	4	全	
02283	通年	卒業論文	佐藤 勤治			4	4	全	
02284	通年	卒業論文	下川 浩			4	4	全	
02287	通年	卒業論文	瀧本 孝雄			4	4	全	
02288	通年	卒業論文	辻 康吾			4	4	全	
02289	通年	卒業論文	永田 小絵			4	4	全	
02290	通年	卒業論文	中西 家栄子			4	4	全	
02285	通年	卒業論文	二宮 哲			4	4	全	
07830	春	卒業論文*	呉 浩東			4	4	全	
07833	秋	卒業論文*	呉 浩東			4	4	全	
10144	秋	卒業論文*	瀧本 孝雄			4	4	全	
02292	秋	卒業論文*	松丸 壽雄			4	4	全	

*9月入学の外国人学生用

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語Ⅰ(LR1)(LR2) 英語Ⅰ(LR)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で活躍するために必要な実用的な英語の基礎的運用能力を習得することを目標とする。LRは(Listening&Reading)を示し、日本人教員が担当して、受信面での英語力増強を目指す。LR1・2と組み合わせで受講し、週2回の授業を連携させることで、最大限の効果をあげるようプログラムを組んでいる。またアドバンスト・クラスでは、より高度な内容の授業がおこなわれる。</p> <p>英語Ⅱ(秋学期)は春学期の継続である。</p> <p>(02年度以前の再履修者は、LR1・LR2の総合評価となるので注意すること。)</p>		各担当教員が初回の授業で指示する	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教員が指示する。		平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や小テストが加わることがある。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語Ⅱ(LR1)(LR2) 英語Ⅱ(LR)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で活躍するために必要な実用的な英語の基礎的運用能力を習得することを目標とする。LRは(Listening&Reading)を示し、日本人教員が担当して、受信面での英語力増強を目指す。LR1・2と組み合わせで受講し、週2回の授業を連携させることで、最大限の効果をあげるようプログラムを組んでいる。またアドバンスト・クラスでは、より高度な内容の授業がおこなわれる。</p> <p>英語Ⅱ(秋学期)は春学期の継続である。</p> <p>(02年度以前の再履修者は、LR1・LR2の総合評価となるので注意すること。)</p>		各担当教員が初回の授業で指示する	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教員が指示する。		平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や小テストが加わることがある。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語Ⅰ(SW1)(SW2) 英語Ⅰ(SW)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で活躍するために必要な実用的な英語の基礎的運用能力を習得することを目標とする。SWは(Speaking & Writing)を示し、ネイティブ・スピーカーの教員が担当して、発信面での英語力増強を目指す。具体的には、与えられたテーマについて英語で簡単な口頭発表をしたり、初歩的なレポートが書けるようになることを目指す。</p> <p>SW1・2と組み合わせで受講し、週2回の授業を連携させることで、最大限の効果をあげるようプログラムを組んでいる。またアドバンスト・クラスでは、より高度な内容の授業がおこなわれる。</p> <p>秋学期開講の英語Ⅱは英語Ⅰの発展である。</p> <p>(02年度以前の再履修者は、SW1・SW2の総合評価となるので注意すること。)</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教員が指示する。		平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や小テストが加わることがある。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語Ⅱ(SW1)(SW2) 英語Ⅱ(SW)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で活躍するために必要な実用的な英語の基礎的運用能力を習得することを目標とする。SWは(Speaking & Writing)を示し、ネイティブ・スピーカーの教員が担当して、発信面での英語力増強を目指す。具体的には、与えられたテーマについて英語で簡単な口頭発表をしたり、初歩的なレポートが書けるようになることを目指す。</p> <p>SW1・2と組み合わせで受講し、週2回の授業を連携させることで、最大限の効果をあげるようプログラムを組んでいる。またアドバンスト・クラスでは、より高度な内容の授業がおこなわれる。</p> <p>秋学期開講の英語Ⅱは英語Ⅰの発展である。</p> <p>(02年度以前の再履修者は、SW1・SW2の総合評価となるので注意すること。)</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教員が指示する。		平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や小テストが加わることがある。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語Ⅲ(LR1)(LR2) 英語Ⅲ(LR)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で活躍するために必要な実用的な英語の基礎的運用能力をさらに強化することを目標とする。3、4学期では、新聞、雑誌などを主体とした生きた教材を用い、関連した英語ニュースのリスニングをおこなう。</p> <p>LR1・2と組み合わせで受講し、週2回の授業を連携させることで、最大限の効果をあげるようプログラムを組んでいる。またアドバンスト・クラスでは、より高度な内容の授業がおこなわれる。さらに、SWクラスとも関連づけ、受信から発信へと総合的に英語を学んでいく。</p> <p>秋学期開講の英語Ⅳは英語Ⅲの発展である。</p> <p>(02年度以前の再履修者は、LR1・LR2の総合評価となるので注意すること。)</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教員が指示する。		平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や小テストが加わることがある。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語Ⅳ(LR1)(LR2) 英語Ⅳ(LR)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で活躍するために必要な実用的な英語の基礎的運用能力をさらに強化することを目標とする。3、4学期では、新聞、雑誌などを主体とした生きた教材を用い、関連した英語ニュースのリスニングをおこなう。</p> <p>LR1・2と組み合わせで受講し、週2回の授業を連携させることで、最大限の効果をあげるようプログラムを組んでいる。またアドバンスト・クラスでは、より高度な内容の授業がおこなわれる。さらに、SWクラスとも関連づけ、受信から発信へと総合的に英語を学んでいく。</p> <p>秋学期開講の英語Ⅳは英語Ⅲの発展である。</p> <p>(02年度以前の再履修者は、LR1・LR2の総合評価となるので注意すること。)</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教員が指示する。		平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や小テストが加わることがある。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語Ⅲ(SW1)(SW2) 英語Ⅲ(SW)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で活躍するために必要な実用的な英語の運用能力をさらに強化することを目標とする。定型の表現を暗記するだけでなく、自分の考えを論理的にまとめ明解に伝えるSpeakingとWritingの能力の向上に重点を置く。ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、具体的には、英語でディスカッションやディベートをおこない、レポートや論文が書けるようになることを目指す。</p> <p>SW1・2と組み合わせで受講し、週2回の授業を連携させることで、最大限の効果をあげるようプログラムを組んでいる。またアドバンスト・クラスでは、より高度な内容の授業がおこなわれる。さらにLRのクラスとも関連づけ、受信から発信へと総合的に英語を学んでいく。</p> <p>秋学期に開講される英語Ⅳは英語Ⅲの発展である。</p> <p>(02年度以前の再履修者は、SW1・SW2の総合評価となるので注意すること。)</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教員が指示する。		平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や小テストが加わることがある。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語Ⅳ(SW1)(SW2) 英語Ⅳ(SW)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で活躍するために必要な実用的な英語の運用能力をさらに強化することを目標とする。定型の表現を暗記するだけでなく、自分の考えを論理的にまとめ明解に伝えるSpeakingとWritingの能力の向上に重点を置く。ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、具体的には、英語でディスカッションやディベートをおこない、レポートや論文が書けるようになることを目指す。</p> <p>SW1・2と組み合わせで受講し、週2回の授業を連携させることで、最大限の効果をあげるようプログラムを組んでいる。またアドバンスト・クラスでは、より高度な内容の授業がおこなわれる。さらにLRのクラスとも関連づけ、受信から発信へと総合的に英語を学んでいく。</p> <p>秋学期に開講される英語Ⅳは英語Ⅲの発展である。</p> <p>(02年度以前の再履修者は、SW1・SW2の総合評価となるので注意すること。)</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教員が指示する。		平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や小テストが加わることがある。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語 I (総合1) スペイン語 I (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (総合 1) は、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(総合) は、スペイン語 I の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 I (総合 2) とのペア授業である。</p>		<p>① 発音・アクセント ② 名詞の性・数、冠詞 ③ 形容詞 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ 代名詞の用法 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語 I (総合2) スペイン語 I (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (総合 2) は上記のスペイン語 I (総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 I (総合 1) と同(総合 2) のふたつを同時に履修することになる。</p> <p>02年度以前に関してもスペイン語 I (総合) は週 2 コマの授業で構成されている。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スペイン語 I (総合 1) (総合) に同じ。</p>		<p>03年度以降のスペイン語 I (総合 1) と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。 02年度以前に関しては従来どおり週 2 コマでひとつの成績が出る。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語Ⅰ(入門) スペイン語Ⅰ(入門・会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(入門)では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ(総合1, 2)(総合)の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文の練習をする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ(総合1, 2)(総合)の項目と同じであるが、(入門)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅰ(総合1, 2)(総合)の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては入門・会話2コマでひとつの成績が出る。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語Ⅰ(会話) スペイン語Ⅰ(入門・会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(会話)では、スペイン語Ⅰ(総合1, 2)(総合)での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。(会話)の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ(総合1, 2)(総合)の項目と同じであるが、(会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅰ(総合1, 2)(総合)の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては入門・会話2コマでひとつの成績が出る。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語Ⅱ(総合1) スペイン語Ⅱ(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅱ(総合1)は、スペイン語Ⅰ(総合1, 2)(総合)の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(総合)は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p>		<p>① 動詞の活用 --- 直説法点過去 ② 動詞の活用 --- 直説法線過去 ③ 点過去と線過去の違い ④ 比較表現 ⑤ 過去分詞と現在分詞 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形 ⑦ 動詞の活用 --- 現在進行形 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑩ 命令表現</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語Ⅱ(総合2) スペイン語Ⅱ(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅱ(総合2)は上記のスペイン語Ⅱ(総合1)とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅱ(総合1)と同(総合2)のふたつを同時に履修することになる。</p> <p>02年度以前に関してもスペイン語Ⅱ(総合)は週2コマの授業で構成されている。</p>		<p>スペイン語Ⅱ(総合1)に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
スペイン語Ⅱ(総合1)に同じ。		03年度以降のスペイン語Ⅱ(総合1)と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。02年度以前に関しては従来どおり週2コマでひとつの成績が出る。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語Ⅱ(基礎表現) スペイン語Ⅱ(基礎表現・会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ(入門)(会話)の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(基礎表現)では、(総合1, 2)の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ(総合1, 2)(総合)の項目と同じであるが、(基礎表現)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅱ(総合1, 2)(総合)の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>02年度以前に関しては基礎表現・会話2コマでひとつの成績が出る。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語Ⅱ(会話) スペイン語Ⅱ(基礎表現・会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(会話)では、スペイン語Ⅱ(総合1, 2)(総合)での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。(会話)の担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ(総合1, 2)(総合)の項目と同じであるが、(会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅱ(総合1, 2)(総合)の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>02年度以前に関しては基礎表現・会話2コマでひとつの成績が出る。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語Ⅲ(総合) スペイン語Ⅲ(総合・講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		各担当者が4月の最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては総合・講読の2コマでひとつの成績となる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語Ⅲ(講読) スペイン語Ⅲ(総合・講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなうとともに、総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		各担当者が4月の最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては総合・講読の2コマでひとつの成績となる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語Ⅲ(会話1) スペイン語Ⅲ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(会話1)(会話2)のいずれかの担当教員がLLの授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。</p> <p>(会話)の授業では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。</p> <p>(LL)の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。</p>		各担当者が4月の最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては2コマでひとつの成績となる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語Ⅲ(会話2) スペイン語Ⅲ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
上記、スペイン語Ⅲ(会話1)(会話)を参照。		各担当者が4月の最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては2コマでひとつの成績となる。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語Ⅳ(総合) スペイン語Ⅳ(総合・講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅲ(総合)の継続である。</p> <p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては総合・講読の2コマでひとつの成績となる。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語Ⅳ(講読) スペイン語Ⅳ(総合・講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅲ(講読)の継続である。</p> <p>講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなうとともに、総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては総合・講読の2コマでひとつの成績となる。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語Ⅳ(会話1) スペイン語Ⅳ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(会話1)(会話2)のいずれかの担当教員がLLの授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。</p> <p>(会話)の授業では、総合での文法項目に沿った口答練習とともに、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目にそって口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。</p> <p>(LL)の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、Ⅲに引き続いて、聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。</p>		各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては2コマでひとつの成績となる。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語Ⅳ(会話2) スペイン語Ⅳ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
上記、スペイン語Ⅳ(会話1)(会話)を参照。		各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては2コマでひとつの成績となる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語Ⅰ(総合1)(総合2) 中国語Ⅰ(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>入門基礎のクラスです。必須基礎文法事項をおさえ、それを応用して簡単な文を作り、やさしい文章を読み、常套句を覚え、中国語がどのような言語であるかを身をもって学び取ることを目指します。</p> <p>中国語Ⅰ(総合1)・中国語Ⅰ(総合2)は同じ日本人教員が週1回、2時限連続で担当します。</p> <p>まず「ピンイン字母(中国語表音ローマ字)」のつづりの規則と中国語の発音を同時進行で学び、かつ簡略化された漢字(簡体字)にも慣れながら、必須基礎文法事項を逐次学んでいく。課文によって文章読解力を、練習によって作文力を養成する。</p>		<p>1 ガイダンス・“拼音字母”(中国語表音ローマ字)と発音練習</p> <p>2 “拼音字母”(中国語表音ローマ字)と発音練習</p> <p>3 第1課～</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6 ～第2課</p> <p>7 中間テスト・第3課～</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12 ～第6課</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書:『教養初級中国語』郁文堂(春学期・秋学期共通)		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語Ⅱ(総合1)(総合2) 中国語Ⅱ(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の中国語Ⅰ(総合1)・中国語Ⅰ(総合2)に続く入門基礎のクラスです。必須基礎文法事項をおさえます。</p> <p>中国語Ⅱ(総合1)・中国語Ⅱ(総合2)は同じ日本人教員が週1回、2時限連続で担当します。</p> <p>必須基礎文法事項を逐次学んでいながら、課文によって文章読解力を、練習によって作文力を養成し、初修外国語としての中国語学習の基盤を作る。</p>		<p>1 第7課～</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7 中間テスト・第12課～</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12 ～第15課</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中国語Ⅰ(総合1)・中国語Ⅰ(総合2)に同じ。		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語Ⅰ(入門)(会話) 中国語Ⅰ(入門・会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>実用的な短い対話を通して話す力と聞く力を身につけるクラスです。発音の徹底指導と聞き取り訓練を中心に、「耳」と「口」を駆使し、ペアワークなどを通じて音声言語の運用能力を身に付けることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 第1課 2. 第2課 3. 第3課 4. 第4課 5. 第5課 6. 中間テストと復習 7. 第6課 8. 第7課 9. 第8課 10. 第9課 11. 第10課 12. 総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：「 新版 例解中国語入門你問我答」白帝社		出席、積極性、中間テスト、期末テストにより評価します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語Ⅱ(基礎表現)(会話) 中国語Ⅱ(基礎表現・会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引続き発音指導と聞き取り訓練を行うとともに、会話訓練を取入れ、基礎的な会話の完成を目指します。</p> <p>授業には積極的参加し、大きな声を出すようにして下さい。教員はすべて標準的な中国語を話すネイティブスピーカーですので、正確な発音、適切な速度、豊かな表現力など吸収するよう努力して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の復習 第11課 2. 第12課 3. 第13課 4. 第14課 5. 第15課 6. 中間テストと復習 7. 第16課 8. 第17課 9. 第18課 10. 第19課 11. 第20課 12. 総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：「 新版 例解中国語入門你問我答」白帝社		出席、積極性、中間テスト、期末テストにより評価します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語Ⅲ(総合)(講読) 中国語Ⅲ(総合・講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読解を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、それに肉付けをするかたちで、また中国語学的なセンスを磨くことにより、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。</p> <p>読解は、もちろん「読む」ことだけを意味するわけではなく、同時に自分から「発信する」力にフィード・バックする学習でもあるので、語句や文型を自分のものとするべく繰り返し練習することが必要です。</p>		<p>教科書(第1課～第8課)を各クラスの進度に合わせて学習します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語見たり聞いたり15章』光生館		出席、発表、試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語Ⅳ(総合)(講読) 中国語Ⅳ(総合・講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読解を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、それに肉付けをするかたちで、また中国語学的なセンスを磨くことにより、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。</p> <p>読解は、もちろん「読む」ことだけを意味するわけではなく、同時に自分から「発信する」力にフィード・バックする学習でもあるので、語句や文型を自分のものとするべく繰り返し練習することが必要です。</p>		<p>教科書(第9課～第15課)を各クラスの進度に合わせて学習します。</p> <p>クラスの進度によっては、補充教材として、生の中国語の文章を用意して、さらなる読解訓練を行います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語見たり聞いたり15章』光生館		出席、発表、試験による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語Ⅲ(会話1、2) 中国語Ⅲ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は(会話・LL教室)と共通の教科書を用いるが、使用する部分は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成語の用法 語句の活用 自由会話 <p>授業の前半で成語と新出表現(語句)を用いた作文を行う。</p> <p>学生は授業に臨む前にそれぞれにつき文を作り、教員から添削指導を受ける。</p> <p>授業の後半で自由会話の練習を行う。それぞれ自分の状況に応じた、適切な説明ができるようになることを目的とするが、最初のうちは、教科書巻末の「参考答案」を参照しながら回答してもよい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方法に関するガイダンス 2. 第一課 3. 第二課 4. 第三課 5. 第四課 6. 第五課 7. 第六課 8. 予備日(小テストまたは補助教材) 9. 第七課 10. 第八課 11. 第九課 12. 第十課 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語実習コース』		出席率と試験成績により評価する。 三回欠席で不合格にする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語Ⅳ(会話1、2) 中国語Ⅳ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の方法等は全て中国語Ⅲ(会話)に準じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第十一課 2. 第十二課 3. 第十三課 4. 第十四課 5. 第十五課 6. 予備日(小テストまたは補助教材) 7. 第十六課 8. 第十七課 9. 第十八課 10. 第十九課 11. 第二十課 12. 予備日(小テストまたは補助教材) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語実習コース』		出席率と試験成績により評価する。 三回欠席で不合格にする。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語Ⅲ(会話1、2) 中国語Ⅲ(会話)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業は以下の方法で行う。</p> <p>予習：単語プリント＋音読3回以上</p> <p>授業：①単語のクイック・レスポンス ②本文のチャンキング&リピート ③本文の逐次通訳 ④本文のシャドーイング ⑤会話文のペアワーク ⑥参考文の音読リピート ⑦参考文のディクテーション</p> <p>復習：本文・参考文の音読3回以上</p> <p>以上の訓練は全て耳と口を鍛えることが目的なので、授業中はインストラクターからの指示がない限り、原則として教科書を見ることはできない。非常に集中力を要する授業になるが、明らかな効果が期待できるので、がんばってついてくるように。なお、試験は全て口頭により行い、筆記試験はない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方法に関するガイダンス 2. 第一課 3. 第二課 4. 第三課 5. 第四課 6. 第五課 7. 第六課 8. 予備日(小テストまたは補助教材) 9. 第七課 10. 第八課 11. 第九課 12. 第十課 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語実習コース』		出席率と試験成績により評価する。二三回欠席で不合格にする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語Ⅳ(会話1、2) 中国語Ⅳ(会話)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の方法等は全て中国語Ⅲ(会話・LL教室)に準じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第十一課 2. 第十二課 3. 第十三課 4. 第十四課 5. 第十五課 6. 予備日(小テストまたは補助教材) 7. 第十六課 8. 第十七課 9. 第十八課 10. 第十九課 11. 第二十課 12. 予備日(小テストまたは補助教材) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語実習コース』		出席率と試験成績により評価する。二三回欠席で不合格にする。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ボランティア論 ボランティア論	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ボランティアの諸様相について検証し、基本的ボランティアの組織(NPO・NGO)活動を研究。 原義である自主性・無償性・社会性と歴史的意義と活動を現代社会の中で実施検証していくフィールドワークである。</p> <p>歴史的・社会的変遷と関連事項(宗教・医学)の探索と解明。 産業社会と人間生活の方向性の接点を解明し、本来人間が保持している感情(優しさ・介護心・いたわり)の表現と活用の意義を理解し、社会的位置(小地域的・組織的・国際的)の研究と組織的な協力関係や団体のマネジメント能力の確保について領域とする。</p> <p>オムニバス講座</p>		<p>1 講座ガイダンス・班編成</p> <p>2 歴史的考察・世界・日本</p> <p>3 学内講師1) 和田(災害を想定して、自然の中での生活体験)</p> <p>4 パネルディスカッション(班)</p> <p>5 パネルディスカッション2(班)</p> <p>6 外来講師1) 手話</p> <p>7 学内・フィールドワーク</p> <p>8 老人体験・介助研究(草加市)</p> <p>9 救急法</p> <p>10 外来講師2) 河野</p> <p>11 外来講師3) 河野</p> <p>12 天野 貞祐初代学長の言葉について</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布		出席重視・レポート提出	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋)	現代世界論	担当者	佐藤 勤治
02年度以前(秋)	現代世界論		
講義目標		授業計画	
<p>この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近な具体的テーマに沿って受講生とともに深く考える場とし、専門研究への足がかりとなることを目的とする。</p> <p>現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。</p>		<p>1 佐藤勤治 総論：</p> <p>2 岡村圭子： <u>ローカル文化とグローバル文化を結ぶもの</u></p> <p>3 永田小絵： <u>通訳／翻訳におけるディスコミュニケーション</u></p> <p>4 工藤律子 (ゲストスピーカー)：ジャーナリスト、 「ストリートチルドレンを考える会」代表 <u>第三世界の子どもたち：ストリートチルドレン・人身売買</u></p> <p>5 上村幸治 <u>日中関係の今後</u></p> <p>6 浅山佳郎 <u>外国人が日本語を学ぶ理由：「日本語の値段」をめぐって</u></p> <p>7 二宮哲 <u>「言語の死」</u></p> <p>8 佐藤勤治 <u>タイガーウッズは黒人か？人種／民族／先住民概念をめぐって</u></p> <p>9 有吉広介 <u>日・中・韓、儒教世界の現代親子関係</u></p> <p>10 田口雅徳 <u>E-mailはコミュニケーションを豊かにするか？</u></p> <p>11 浦部浩之 <u>民主主義は世界に定着するか？ 国連選挙監視団の一員として</u></p> <p>12 松丸壽雄 <u>現代世界とわたしたち</u></p>	
講義概要			
<p>言語文化学科所属教員に、それぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。担当教員の専門分野は、哲学、言語学、歴史、社会学、地域研究、政治学、心理学などである。第4回目では、ジャーナリスト工藤律子氏を招いて、子どもたちをとりまく状況について講演していただく。工藤氏は、メキシコを中心にしてストリートチルドレン支援運動をおこなっているほか、アジアの人身売買問題などについても広く取材執筆活動をおこなっている。</p>			
受講生への要望			
<p>各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。</p>			
評価方法			
<p>各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。</p>			
テキスト、参考文献			
<p>各担当者が指示する。 参考文献： 工藤律子『ストリートチルドレン：メキシコシティの路上に生きる』(岩波ジュニア新書)</p>			

03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	言語文化概論 言語文化概論	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：外国語学部共通の教育目標は、特定の外国語の学習を通じて、そ（れら）の外国語の話される共同体の文化と社会構造を、日本語および日本の文化・社会構造と比較しつつ、知ることである。その際、言語と、文化すなわち生活・行動・思考の様式とは、密接な関係にあるということが、自明のこととして前提されている。本講義の目的は、この前提、すなわち言語と文化の相互関係を概括的に論じることである。</p> <p>概要：言語と文化の相互関係を見るにあたり、当然それらの担い手・主体である民族を中心にすえる必要がある。けれども、同じ（ような）言語を話し、同じような生活を営み、同じように行動し、思考する人々を民族と言うことについては、今日事実と理論の両面から疑問が生じている。人々が出会い、ふれ合い、共同の生活を営む中で、共通の言語と文化が形成される。しかし、生活環境の変化による移動や、生活領域と手段の奪い合いによって、今日のように民族・言語・文化が多様化したのである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 伝え合い（コミュニケーション）とはどういうものか？ 2. コトバによる伝え合いとコトバによらない伝え合いとはどのように異なるのか？ 3. コトバによる伝え合いの手段であるとともに産物である言語とはどういうものか？ 4. 世界には、どんな言語がどのように分布しているか？ 5. 人種・語族・民族という概念の共通点と相違は？ 6. 民族は歴史的にどのように形成されてきたか？ 7. 文化はどのように形成されてきたか？日本の文化とは？ 8. 宗教はどのように人々の行動様式に作用するのか？ 9. 「民族紛争」の問題をどのように考えるべきか？ 10. はたらきかけ合い（社会的相互行為）と伝え合いの原則とは？ 11. コトバはことがらをありのままに表現することはできない。ウソとコトバの魔術とはどういうものか？ 12. 平和で豊かな国際社会を築くための伝え合いと関わり合いは、どうあるべきか？ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高崎通浩『民族対立の世界地図』（中公新書ラクレ 42・43） アチャー他編『世界民族言語地図』（東洋書林） 『マイクロソフトエンカルタ総合大百科2005』ほか		随時レポートを課し、各自の実績に基づく自己評価を基本にして、最終評価をする。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	比較思想概論 比較思想概論	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本を含めた諸文化を支えてきた宗教思想・哲学・思想の比較を通して、諸地域文化の成立根拠の理解を得て、それをもとにして現代における諸文化の思想傾向を把握する力を育てることを目的とする。</p> <p>世界の宗教を比較しながら、宗教とは何かを考えることになるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要の解説 2. 宗教とは 3. 東洋の宗教 4. 東洋の宗教 5. 東洋の宗教 6. 東洋の宗教 7. 西洋の宗教 8. 西洋の宗教 9. 西洋の宗教 10. 宗教を比較する 11. 実地の比較の試み 12. 実地の比較の試み 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポート	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本文化論 a 日本文化論	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大航海時代の日本学は、ヨーロッパ人は第三者の視点で、当時(室町時代後期から江戸時代初期)の日本の政治状況、文化、思想、宗教、生活状況、風俗に関して、客観的かつ具体的に記述したものである。これを紹介しつつ、現代と(時には古代日本にも目を向けながら)比較して日本文化の特質を確認していくと共に、近代日本の明治期に入って、東西両洋文化がどのように地球規模で交流してきたかを、講述する。ビデオテープ(45分もの)を援用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人はなぜ宗教を必要としないか 2. 日本人の性癖(ヨーロッパ人から見た日本人) 3. 大航海時代はどのようにして始まったか 4. 大航海時代の日本の実情 5~11 イエズス会の日本研究と日本の文化(建築、絵画、音楽、衣服、経済、天文学、医学など) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本史小百科『キリシタン』(東京堂出版)		筆記試験	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本文化論 b 日本文化論	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大航海時代(16~17世紀ごろ)の日本文化の中でとくに精神文化面をとりあげる。生活習慣、価値観、死生観、宗教行事、音楽、礼法、女性の生き方、など。と同時に、日本の中世末の社会情勢、戦国時代の日本人の行動を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の風土 2. 「する文化」と「なる文化」 3. 永平寺の雲水の修行(大禅問答) 4. 比叡山千日回峰 5. キリスト教の修道生活 6. 日本人の礼法(ヴァリニャーノの『日本巡察記』から) 7. 日本の国宝絵巻(日本人の描く浄土の世界) 8. 安土城復元と信長の世界 9~10. 「忠臣蔵」の魅力 11. 華道と茶道の発祥(キリスト教と町衆の文化) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		筆記試験	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本語研究概論 a 日本語研究概論	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教育を視野にいれて、ひろく日本語にかかわるさまざまな分野を概観することを目的とする。それぞれの分野をふかくあつかうことはできないが、ここから専攻科目としての各日本語学および日本語教育学関係の授業へつながるものであることをめざしたい。春学期では、日本語それ自体にかんする各研究分野から、基礎的でかつ典型的ないくつかのトピックをとりあげる。</p> <p>テキストとしてはプリントをもちいるが、履修者には、必ず授業前にそれを読み、また関連する参考図書を読んでくることをもとめる。授業は、教師からの発問にたいして、学習者が予習をもとに解答すること、またそれにたいして教師がコメントをくわえること、という形式ですすめる予定である。</p> <p>またこちらから思料と課題をあたえて、グループ討議をおこなうことを求める場合もある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 日本語の音声(1) 3. 日本語の音声(2) 4. 日本語の文字(1) 5. 日本語の文字(2) 6. 日本語の構造(1) 7. 日本語の構造(2) 8. 日本語の構造(3) 9. 日本語の語彙と意味(1) 10. 日本語の語彙と意味(2) 11. 日本語の語彙と意味(3) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントをもちいる。		試験の結果によって評価する。出席をくわえるばあいもある。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本語研究概論 b 日本語研究概論	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教育を視野にいれて、ひろく日本語にかかわるさまざまな分野を概観することを目的とする。</p> <p>秋学期は、日本語をとりまく時間的空間的環境の問題および社会言語学とかかわる日本語の研究分野から、基礎的でかつ典型的ないくつかのトピックをとりあげる。前者は近年しばしば問題としてとりあげられる言語政策とかかわるものであり、後者は、最近の日本語教育のあらたな方法を理解するための基礎的な知識となる。</p> <p>春学期同様、テキストとしてはプリントをもちいるが、履修者には、必ず授業前にそれを読み、また関連する参考図書を読んでくることをもとめる。授業は、教師からの発問にたいして、学習者が予習をもとに解答すること、またそれにたいして教師がコメントをくわえること、という形式ですすめる予定である。</p> <p>またこちらから思料と課題をあたえて、グループ討議をおこなうことを求める場合もある。</p>		<p>ガイダンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本語の歴史(1) 日本語の歴史(2) 日本語の位置(1) 日本語の位置(2) 日本語の方言(1) 日本語の方言(2) 日本語の使用者(1) 日本語の使用者(2) 10. 日本語のコミュニケーション(1) 11. 日本語のコミュニケーション(2) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントをもちいる。		試験の結果によって評価する。出席をくわえるばあいもある。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン・ラテンアメリカ文化論 a スペイン・ラテンアメリカ文化論	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラテンアメリカは貧困、ゲリラ、環境破壊などの様々な問題を抱えているが、同時に魅力あふれる地域でもある。本講義では、大半の受講生がこの地域にまだ馴染みがないことを前提に、ラテンアメリカの社会や人々に関する基本的事項を取り上げ、地域の全体像をつかめるようにしたい。</p> <p>具体的には右欄のとおり話を展開していく。まず春学期には、ラテンアメリカの風土、伝統的生活、スペインによる植民地化とそれにともなう社会の形成やイベリア・ラテン文化の浸透、独立以降の近代化の過程について概観する。そして現代のラテンアメリカ社会が抱える諸問題を知り、それらがいかに歴史や文化に構造的に根ざしているかについて考えてみる。</p> <p>そのうえで秋学期には、あらためてラテンアメリカの政治・経済・社会・国際関係の諸問題をもう少し掘り下げて学び、彼ら自身が、そして日本を含む国際社会がそれらにどう向き合っていくべきかを考える。</p> <p>(秋学期の欄に続く)</p>		<p>I. ラテンアメリカの環境と生活</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アンデス山脈の環境と生活 (垂直統御とジャガイモ) 2. アンデスの先住民共同体と鉱山開発 3. アマゾン低地の環境と生活 (氾濫原農業と焼畑) 4. アマゾンの開発と森林破壊 <p>II. ラテンアメリカの人と社会</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. スペインによる植民地化と社会の形成 6. ラテンアメリカの人種と民族 7. ラテンアメリカの家族関係・人間関係 8. ラテンアメリカの宗教・価値観・行動規範 <p>III. 現代ラテンアメリカ社会の抱える諸問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 貧困と開発 10. 過剰都市化と環境問題 11. 社会格差と暴力・紛争 12. 民主主義の模索 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験 (これに出席状況を加味する)。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン・ラテンアメリカ文化論 b スペイン・ラテンアメリカ文化論	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(春学期の欄からの続き)</p> <p>なお、秋学期には現代スペインの政治・経済・社会の概要についても取り上げるつもりである。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>基本的な事柄から話を始めるのでこの地域に関する基礎知識は不要であるが、単なる個別テーマの羅列ではないので、各回の授業のつながり、相互連関には十分注意し、継続して出席してほしい。自然環境から歴史、文化、思想、政治経済にわたる幅広い事柄を包括的・総合的に捉えて、はじめて「地域の理解」が可能となる。自分の関心分野を狭く決めつけないことも強く勧めておきたい。</p> <p>なお、本講義は全体でひとつの流れを構成しているので、できるだけ1年間を通じて履修してほしい。それができない場合は春学期のみの履修とすることを望む(秋学期のみの履修はできれば避けてほしい)。</p>		<p>IV. スペイン・ラテンアメリカの政治と社会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スペインの権威主義体制 (フランコ体制) 2. ラテンアメリカのポピュリズム体制 3. ラテンアメリカの軍事政権 4. スペインとラテンアメリカの民主化 <p>V. スペイン・ラテンアメリカの経済と開発</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 欧州地域統合とスペイン 6. ラテンアメリカ社会の貧困・経済的不平等 7. ラテンアメリカと国際経済 (貿易・投資・債務) 8. ラテンアメリカの地域統合 <p>VI. 世界の中のスペイン・ラテンアメリカ</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 貧困克服と対ラテンアメリカ援助 (国際協力) 10. グローバル秩序と民主主義支援 11. スペインとラテンアメリカの連帯と協力 12. 日本とラテンアメリカの関係 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験 (これに出席状況を加味する)。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	現代中国論 a 現代中国論	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国が目覚ましい経済成長を続け、世界の大国になりつつある。同時に、経済の先行きや社会の安定に疑問を示す声や、ナショナリズムの台頭を懸念する声も出てきた。過剰なエネルギー消費や環境問題、人口問題についても国際社会の関心を集めている。</p> <p>本教科では、そうした現代中国の経済成長の実態と背景、躍進にいたった経緯と原因について考察する。同時に、21世紀の中国の行方についても展望したい。</p> <p>授業ではまず、アヘン戦争以来の近代史を改めて読み直し、歴史的な背景について考える。同時に国際社会との関係、位置づけについても考える。</p> <p>中国は社会主義革命を行った上で、冷戦終結後に市場経済に転換した。中国型市場経済の特徴を調べるとともに、農村問題、台湾問題、社会構造の変化についても分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 現代中国の実像 2 アヘン戦争 清朝崩壊 3 日本の登場、日中戦争 4 終戦 国共内戦 5 新中国 社会主義化の道 6 反右派 大躍進 権力闘争 7 朝鮮戦争 中ソ関係、米中関係 8 文化大革命 9 日中国交正常化 10 改革開放、現代化 11 天安門事件 12 前期まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>〔教材〕岩波新書『中国近現代史』 岩波新書『中国路地裏物語—市場経済の光と影』 〔参考図書〕岩波新書『中華人民共和国史』</p>		出席点、期間中小レポート、期末試験	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	現代中国論 b 現代中国論	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 市場経済導入 2 拝金主義 社会事情 3 構造変化 単位崩壊 4 農村の変化 5 政治体制改革 6 人口環境エネルギー科学問題 7 沿海と内陸 8 台湾香港 9 チベットなど少数民族問題 10 国際関係(米中、中露など) 11 日中関係 12 前後期まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	英語演習 (現代社会) 英語 V (総合英語・現代社会)	担当者	J. Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will focus on modern social issues in a changing world. It will present to students situations reflecting social trends that will serve as a basis for cross-cultural discussions. Students will have many opportunities to exchange ideas and express opinions.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions with explanation of the grading system and student requirements. 2. The differences between eastern and western teaching styles will be discussed in this class. 3. Students will be asked to generate topics which affect them in our world today. 4. The main topic of this class will be dating and marriage customs in Japan and western countries. 5. The differences in life styles between students and their parents will be the topic in this class. 6. This session will revolve around reading patterns and students' favorite books. 7. Modern health topics affecting university students will be discussed in this class. 8. Students will give three minute presentations on various topics. 9. Storytelling techniques will be used to generate conversations among students. 10. Modern career opportunities for students will be the focus of this class. 11. The main topic of this class will revolve around summer travel plans. 12. Midterm examination. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Impact Values</i> : Day, Yamanaka and Shaules Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, class participation, homework and tests.	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英語演習 (現代社会) 英語 V (総合英語・現代社会)	担当者	J. Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will focus on modern social issues in a changing world. It will present to students situations reflecting social trends that will serve as a basis for cross-cultural discussions. Students will have many opportunities to exchange ideas and express opinions.		<ol style="list-style-type: none"> 1. This class will focus on leisure activities and attitudes toward work and family life. 2. The changing roles of men and women in the United States and Japan will be the topic of this class. 3. In this class students will learn to read and understand English newspapers. 4. Students will continue to work with English newspapers to further proficiency. 5. This will be the last class using English newspapers with a review for the upcoming test. 6. Test on previous three lessons using English newspapers. 7. Students will give presentations explaining some aspect of Japanese culture. 8. Problems of non-Japanese people living in Japan will be the focus of this class. 9. Storytelling techniques, part 2, will be used to generate discussions in this class. 10. The topic of this class will be environmental problems. 11. Communication activities using music will be the focus of this class. 12. Final examination. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Impact Values</i> : Day, Yamanaka and Shaules Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, class participation, homework and tests.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語演習(ビジネス英語) 英語V(総合英語・ビジネス英語)	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a higher-level conversation course class with students taking part in discussions and using an advanced text book. This is an interesting course bound to challenge the students and the teacher as well. The discussions will a high level and about interesting topics. Aspects of the course will include brief look at cross-cultural communication relevant to the speaking English.</p> <p>The will also be a business section where students will discuss how cross cultural communication and business practices might overlap in the modern society.</p> <p>There will be projects and assignments throughout the semester.</p>		<p>The schedule for this semester will be based on the chapters of the book and in what order the students would like to do them.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>“Intermediate Headway” by Liz and John Soars Published by Oxford Press</p>		<p>1) Attendance and class participation 2) Evaluation of assignments. 3) Presentation and discussion test.</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語演習(ビジネス英語) 英語V(総合英語・ビジネス英語)	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a higher-level conversation course class with students taking part in discussions and using an advanced text book. This is an interesting course bound to challenge the students and the teacher as well. The discussions will a high level and about interesting topics. Aspects of the course will include brief look at cross-cultural communication relevant to the speaking English.</p> <p>The will also be a business section where students will discuss how cross cultural communication and business practices might overlap in the modern society.</p> <p>There will be projects and assignments throughout the semester.</p>		<p>The schedule for this semester will be based on the chapters of the book and in what order the students would like to do them.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>“Intermediate Headway” by Liz and John Soars Published by Oxford Press</p>		<p>1) Attendance and class participation 2) Evaluation of assignments. 3) Presentation and discussion test.</p>	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語演習 (ビジネス英語) 英語V (総合英語・ビジネス英語)	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To provide a foundation for spoken and written English used in a wide variety of business contexts.</p> <p>2. To develop overall communication ability by focusing on integrated practice of the four skills -- listening, speaking, reading and writing.</p> <p>3. To consolidate and build vocabulary for use in business and general contexts.</p> <p>The course book provides a wide range of activities for practice of listening, speaking, reading and writing. The course book will be supplemented by articles from newspapers and magazines and video material for further practice.</p>		<p>1. Course explanation. Course book unit 1: Customers</p> <p>2. Course book unit 1 continued</p> <p>3. Course book unit 2: Companies</p> <p>4. Course book unit 2 continued/related activities</p> <p>5. Course book unit 3: Travel</p> <p>6. Course book unit 3 continued/related activities</p> <p>7. Course book unit 4: Troubleshooting</p> <p>8. Course book unit 4 continued/related activities</p> <p>9. Course book unit 5: Company History</p> <p>10. Course book unit 5 continued/related activities</p> <p>11. Course book unit 6: Retailing</p> <p>12. Course book unit 6 continued/related activities</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Coursebook: 'First Insights into Business' by Sue Robbins (Longman)		Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語演習 (ビジネス英語) 英語V (総合英語・ビジネス英語)	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To provide a foundation for spoken and written English used in a wide variety of business contexts.</p> <p>2. To develop overall communication ability by focusing on integrated practice of the four skills -- listening, speaking, reading and writing.</p> <p>3. To consolidate and build vocabulary for use in business and general contexts.</p> <p>The course book provides a wide range of activities for practice of listening, speaking, reading and writing. The course book will be supplemented by articles from newspapers and magazines and video material for further practice.</p>		<p>1. Course book unit 7: Products</p> <p>2. Course book unit 7 continued/related activities</p> <p>3. Course book unit 8: People</p> <p>4. Course book unit 8 continued/related activities</p> <p>5. Course book unit 9: Business Environment</p> <p>6. Course book unit 9 continued/related activities</p> <p>7. Course book unit 10: Finance</p> <p>8. Course book unit 10 continued/related activities</p> <p>9. Course book unit 11: Corporate Responsibility</p> <p>10. Course book unit 11 continued/related activities</p> <p>11. Course book unit 12: Competition</p> <p>12. Course book unit 12 continued/related activities</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Coursebook: 'First Insights into Business' by Sue Robbins (Longman)		Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語演習(日英通訳翻訳) 英語V(総合英語・日英通訳翻訳)	担当者	柴原 智幸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>すでに「知識」として習得している英語を、活用できる「技能」に出来るだけ転化していくのが、本講義の目的である。週2コマのうち、おおむね1コマを通訳、もう1コマを翻訳に当てる。</p> <p>様々な素材を宿題として翻訳し、それに対して検討を加える一方、通訳を通して訳出のスピードにも焦点を当てる。</p> <p>シャドウイング・英文筆写・暗唱などを通して英語を内在化させ、それを活用して通訳を行う。またその成果を翻訳にもフィードバックさせる。</p> <p>また、メッセージを汲み取る訓練の一環として日本語での音読、要約、スピーチなど、さらにメッセージを伝える訓練の一環としての日本語・英語でのプレゼンテーションなども取り入れることを予定している。</p> <p>非常に密度の濃い授業になるため、受講者はTOEIC 730点以上を取得していることが望ましい。しかしこれは必要条件であり十分条件ではない。何よりも求められるのは積極的に授業に参加し、英語の「トレーニング」を積むという姿勢である。</p>		<p>第1回目に授業のガイダンスをおこない、最初の課題を指定する。その結果をみてその後の進度を決定する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞、雑誌、スピーチなどを中心に適宜指示する。		授業参加と試験成績によって評価する。欠席3回で不合格とする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語演習(日英通訳翻訳) 英語V(総合英語・日英通訳翻訳)	担当者	柴原 智幸
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語演習 スペイン語V(総合)	担当者	J.I.ドメネク・アロンソ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業はできる限りスペイン語で行いスペイン語でのコミュニケーションに慣れてもらいます。基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。ビデオ教材等を使用し、スペインおよびラテンアメリカ文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。</p>		<p>1～2、3種類の過去形 3～4、Gustar 形動詞 5～6、命令法 7、未来形 8、比較級・最上級 9、進行形 10、再帰動詞 11～12、関係代名詞を使った文章</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材としてテキストは使用せず、コピーを配布します。		試験 70% 授業中評価 30%	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語演習 スペイン語V(総合)	担当者	J.I.ドメネク・アロンソ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業はできる限りスペイン語で行いスペイン語でのコミュニケーションに慣れてもらいます。基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。ビデオ教材等を使用し、スペインおよびラテンアメリカ文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。</p>		<p>1、指示形容詞 2、指示代名詞 3～4、条件文 5～6、過去完了形 7、復習 8～9、直接話法、間接話法 10～12、接続法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材としてテキストは使用せず、コピーを配布します。		試験 70% 授業中評価 30%	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語演習 スペイン語V(総合)	担当者	G. Tヨシカワ
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a conversation oriented course. However, there will be many opportunities to review grammar, improve pronunciation, build new vocabulary, learn about the Latino culture in several countries and practice conversation a lot.		The class will consist in reading the material presented by the teacher. Learn new vocabulary. The students will roll play the dialogs characters or perform monologues. Write exercises in class, answer questions about the dialogs. Translate some phases and write compositions. Some homework will be require.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The teacher will provide printed material, DVD, CD and other audiovisual.		1.Oral participation in class 2.Exercises and homework 3.Attendance 4. Final examen	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語演習 スペイン語V(総合)	担当者	G. Tヨシカワ
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a conversation oriented course. However, there will be many opportunities to review grammar, improve pronunciation, build new vocabulary, learn about the Latino culture in several countries and practice conversation a lot.		The class will consist in reading the material presented by the teacher. Learn new vocabulary. The students will roll play the dialogs characters or perform monologues. Write exercises in class, answer questions about the dialogs. Translate some phases and write compositions. Some homework will be require.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The teacher will provide printed material, DVD, CD and other audiovisual.		1.Oral participation in class 2.Exercises and homework 3.Attendance 4. Final examen	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語演習 スペイン語Ⅴ(総合)	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。</p>		<p>Plan de estudio sujeto a cambios.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Presentación del curso, evaluación de nivel. Encuesta sobre el plan de estudio. 2. México: información general. 3. El muralismo mexicano 4. Frida Kahlo 5. Intercambio de opiniones. 6. Cine hispano. 7. Cine español. 8. Debate sobre películas. 9. Argentina: información general. 10. Música argentina. 11. Jorge Luis Borges. <p>Chile: Información general.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		50%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、残りの50%を2回の試験によって行う。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語演習 スペイン語Ⅴ(総合)	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。</p>		<p>Plan de estudio sujeto a cambios.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Chile: Pablo Neruda. 2. Análisis de sus poemas. 3. Isabel Allende. 4. Costa Rica: información general. 5. Parques Nacionales en Costa Rica. 6. Cuba: información general. 7. Che Guevara y Cuba 8. España: Información general. 9. Picasso, Dalí. 10. Gaudí 11. Presentación oral. Presentación oral. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		50%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題と口頭発表、残りの50%を2回の試験によって行う。	

03年度以降(春)	スペイン語演習	担当者	兒島 峰
02年度以前(春)	スペイン語Ⅴ(総合)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>A fin de lograr los objetivos propuestos para este curso, se observaran algunas reglas. En la clase evitaremos el uso del idioma japonés, la comunicación será únicamente en español. Por esta razón se recomienda a los alumnos matriculados que es necesario llevar un diccionario. También es indispensable su atención y entusiasmo para participar en forma activa en las clases. El método de evaluación es por un examen final y la participación en la clase.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋)	スペイン語演習	担当者	兒島 峰
02年度以前(秋)	スペイン語Ⅴ(総合)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>A fin de lograr los objetivos propuestos para este curso, se observaran algunas reglas. En la clase evitaremos el uso del idioma japonés, la comunicación será únicamente en español. Por esta razón se recomienda a los alumnos matriculados que es necesario llevar un diccionario. También es indispensable su atención y entusiasmo para participar en forma activa en las clases. El método de evaluación es por un examen final y la participación en la clase.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語演習 スペイン語V(総合)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業ではスペイン語で書かれた、実際の新聞記事、評論などを教材にして、翻訳の訓練をおこなうことにしたい。多様なスペイン語の文章に触れ、重要表現を確実に抑え語彙を増強することで、スペイン語を通じた正確な情報収集能力の養成を目的としたい。</p> <p>履修学生は、A4版一枚程度の論説、記事を翻訳し、担当者に提出することを二週に1度、計6回繰り返す。授業では、論説・記事の内容について、語彙、表現法、および内容の理解に必要な背景知識を学習する。また、その際、小テストを行い、スペイン語力の定着をはかることにする。</p> <p>計六回の繰り返しのうち、一回は文字教材ではなく、ドキュメンタリーのナレーションを教材にしたい。聞き取りとその翻訳を上記と同様に課題とする。聞き取り作業による学習については、今年度初めて試みるので、担当者が若干戸惑うことがあるとおもうが、協力をお願いしたい。</p> <p>最後に自分で選んだ評論や記事(インターネット上にあるものでもかまわない)を翻訳して提出してもらう。</p>		<p>二週1セットの前半 前回部分の小テスト(一回目はない) 教材の配布 時間をとって一部翻訳作業を行わせる。 わからなかった部分について、グループに分けて履修生間で検討する。 語彙で注意したいものを指摘する。 表現法で注意したいものを指摘する。 背景知識で重要なものを説明する。 質問を受ける <u>土曜日夜までにメールで担当者に送信</u></p> <p>二週1セットの後半 全文解説 模範解答の提示 語彙、表現法のポイント整理 小作文 質問を受ける</p> <p>最終回は総合小テストもおこなう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業でプリントを渡す。		6回的小テスト、最後の翻訳評価の総計をもって評価とする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語演習 スペイン語V(総合)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業ではスペイン語で書かれた、実際の新聞記事、評論などを教材にして、翻訳の訓練をおこなうことにしたい。多様なスペイン語の文章に触れ、重要表現を確実に抑え語彙を増強することで、スペイン語を通じた正確な情報収集能力の養成を目的としたい。</p> <p>履修学生は、A4版一枚程度の論説、記事を翻訳し、担当者に提出することを二週に1度、計6回繰り返す。授業では、論説・記事の内容について、語彙、表現法、および内容の理解に必要な背景知識を学習する。また、その際、小テストを行い、スペイン語力の定着をはかることにする。</p> <p>最後に自分で選んだ評論や記事(インターネット上にあるものでもかまわない)を翻訳して提出してもらう。また、前期同様一回は聞き取り作業を計画するかもしれない。</p>		<p>二週1セットの前半 前回部分の小テスト(一回目はない) 教材の配布 時間をとって一部翻訳作業を行わせる。 わからなかった部分について、グループに分けて履修生間で検討する。 語彙で注意したいものを指摘する。 表現法で注意したいものを指摘する。 背景知識で重要なものを説明する。 質問を受ける <u>土曜日夜までにメールで担当者に送信</u></p> <p>二週1セットの後半 全文解説 模範解答の提示 語彙、表現法のポイント整理 小作文 質問を受ける</p> <p>最終回は総合小テストもおこなう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業でプリントを渡す。		6回的小テスト、最後の翻訳評価の総計をもって評価とする。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スペイン語演習 スペイン語Ⅴ(総合)	担当者	G. Tヨシカワ
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a conversation oriented course. However, there will be many opportunities to review grammar, improve pronunciation, build new vocabulary, learn about the Latino culture in several countries and practice conversation a lot.		The class will consist in reading the material presented by the teacher. Learn new vocabulary. The students will roll play the dialogs characters or perform monologues. Write exercises in class, answer questions about the dialogs. Translate some phases and write compositions. Some homework will be require.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The teacher will provide printed material, DVD, CD and other audiovisual.		1.Oral participation in class 2.Exercises and homework 3.Attendance 4. Final examen	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スペイン語演習 スペイン語Ⅴ(総合)	担当者	G. Tヨシカワ
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a conversation oriented course. However, there will be many opportunities to review grammar, improve pronunciation, build new vocabulary, learn about the Latino culture in several countries and practice conversation a lot.		The class will consist in reading the material presented by the teacher. Learn new vocabulary. The students will roll play the dialogs characters or perform monologues. Write exercises in class, answer questions about the dialogs. Translate some phases and write compositions. Some homework will be require.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The teacher will provide printed material, DVD, CD and other audiovisual.		1.Oral participation in class 2.Exercises and homework 3.Attendance 4. Final examen	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語演習(中国文化と日本) 中国語Ⅴ(総合・中国文化と日本)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語学習において発音、基本文型の習得が重要であることはいうまでもない。だが、この段階の教材は発音あるいは基本文型学習のためのものであり、現実には使用されている中国語とは質的に異なる場合が多い。教材では比較的に明快、あるいは短文であったものが、新聞、雑誌、公文書、書簡、文学作品などで実際に使われている中国語はその語彙、文体など実に多様である。このレベルになると学習者個々の努力と習熟が必要となり、特に長文を読みこなす力を養わなくてはならない。その一助として本科目では中国人が通常使用する文章を大量に読むことによって、多数の語彙文型に成れ親しむ事を目的としている。また一目瞭然の教材中国語に対して内容のある中国語長文を読むことによって中国文化、中国的発想、表現法に対する理解を深めたい。</p>		<p>1、窟縮可、初府縮可才僥樓圭隈</p> <p>2、貫“謬”傍軟</p> <p>3、“妥媾妥移”嚙“妥媾妥覆”</p> <p>4、貫“郭奮銘”霧軟</p> <p>5、“蟻嘉惹姥”葎焚担音傍“嘉蟻惹姥”</p> <p>6、耐參奮葎爺</p> <p>7、槻寄輝脂、溺寄輝灼</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席、レポート、試験による	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語演習(中国文化と日本) 中国語Ⅴ(総合・中国文化と日本)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語学習において発音、基本文型の習得が重要であることはいうまでもない。だが、この段階の教材は発音あるいは基本文型学習のためのものであり、現実には使用されている中国語とは質的に異なる場合が多い。教材では比較的に明快、あるいは短文であったものが、新聞、雑誌、公文書、書簡、文学作品などで実際に使われている中国語はその語彙、文体など実に多様である。このレベルになると学習者個々の努力と習熟が必要となり、特に長文を読みこなす力を養わなくてはならない。その一助として本科目では中国人が通常使用する文章を大量に読むことによって、多数の語彙文型に成れ親しむ事を目的としている。また一目瞭然の教材中国語に対して内容のある中国語長文を読むことによって中国文化、中国的発想、表現法に対する理解を深めたい。</p>		<p>8、醇、秩、渚、瓔、單</p> <p>9、“郭傾阻宅?”才“低肇陳隅?”</p> <p>10、貫“陳戰、陳戰”傍軟</p> <p>11、貫“揖崗”、“弗元”欺“粹伏”、“弋純”</p> <p>12、辦遊音麻泣遊麻</p> <p>13、貫“查溜笛忽藍”咫傍軟</p> <p>14、才付</p> <p>15、“俳憲”嚙“俳返”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席、レポート、試験による	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語演習 (中国現代社会) 中国語Ⅴ (総合・中国現代社会)	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国人の社会と文化、生活や中国語にまつわる話などに触れた文章を読み、生きた中国を理解することを目的とする。</p> <p>中国人が通常よく使う表現の、比較的長い文章を大量に読むことにより、多くの語彙、文型にも慣れ親しむようにしたい。</p> <p>こうした文章を通じて、その背景にある中国人の発想、表現法、社会事情などに対する理解も深めたい。</p> <p>テキストとして、中国人の書いた随筆を用意する。中国語の発音、縁起かつぎや迷信、女性の社会的地位、貨幣制度やシルクロードなどをテーマにしたものを使う予定にしている。</p> <p>中国の新聞、雑誌なども教材として利用し、政治や経済、外交といった問題に触れた時事中国語に慣れてもらうことも考えている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教材配布・学習指導の方法 2 从《施氏食獅史》談起 3 同 4 “年年有魚(余)”与“碎碎平安” 5 同 6 “向前看”与“向錢看” 7 同 8 道是无情(情)却有情(晴) 9 同 10 蒼頡造字、夜有鬼哭 11 同 12 敬惜字紙与測字算命 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は第1回授業で配布 日中辞典、各種中中辞典、各種事典などを利用		出席点、期末試験	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語演習 (中国現代社会) 中国語Ⅴ (総合・中国現代社会)	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 性別歧視与“女”字旁 2 同 3 貝幣、銅錢与金銀 4 同 5 絲綢与絲綢之路 6 同 7 状元、举人、秀才 8 同 9 說“氣” 10 同 11 応用文 12 同 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語演習(通訳・翻訳) 中国語Ⅴ(通訳・翻訳)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では中国語の連続ドラマ「涉外保母」を用いて字幕翻訳の実践を行います。中国語の自然な会話を聞く力を養うとともに、日本語への翻訳を学んでいきます。</p> <p>上海で外国人家庭に家政婦として派遣された三人の中国人女性の物語です。教材として用いるVCDには中国語および英語の台詞が使われ、さらに中国語の字幕がついています。</p> <p>毎週十分間程度の字幕翻訳が宿題になりますので、自宅で十分な予習時間がとれることが参加の条件になります。また、自分の担当部分の発表があるため、原則として欠席はできません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 第一話 3. 第二話 4. 第三話 5. 第四話 6. 予備日 7. 第五話 8. 第六話 9. 第七話 10. 第八話 11. 第九話 12. 第十話 	
テキスト、参考文献		評価方法	
VCD「涉外保母」。 必要に応じて音声または文字教材を提供する。		翻訳の質と出席率によって評価します。 出席率60%以下で不合格となります。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語演習(通訳・翻訳) 中国語Ⅴ(通訳・翻訳)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続きですが、中途で参加しても問題ありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第十一話 2. 第十二話 3. 第十三話 4. 第十四話 5. 第十五話 6. 予備日 7. 第十六話 8. 第十七話 9. 第十八話 10. 第十九話 11. 第二十話 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
VCD「涉外保母」。 必要に応じて音声または文字教材を提供する。		毎回、宿題を提出してもらいます。翻訳の質によって評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語演習(応用作文と講読) 中国語Ⅴ(総合・応用作文と講読)	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界に類を見ないほど長きにわたって連綿と「書き記す」歴史をもつ中国語の世界にあつては、書面語と口語の並存、蓄積される膨大な常套表現、紛れ込む地域差等々、その読解にあたって必要とされる準備的知識と障碍となるノイズが想像を越えるほどに大きい。</p> <p>さらに、日本語を母語とする者にとって、日中同形語をはじめとして日中で様々に交叉する要素を通して、ややもすると組み易しと誤解して種々に読み誤りを繰り返し、結果としていわば一つの虚構を描いてしまう危険すらある。</p> <p>中国語を学ぶ者にとって、学校文法にとどまらぬ文法研究に併せ多方面の文化コードに通じて読み解いていく、という本来的な文献読解の姿勢が強く望まれる。</p>		<p>中国の通俗的な小説を要約改編し、その前半を受講生の発表を通して読み進めていく。</p> <p>各章に現れる注意すべき語彙・文法事項、心得ておくべき文化背景を取り上げ、かつ各章テーマを絞って工具書(辞典類・事典類等参考にする補助的書物・資料)を紹介し、以って受講生の読解力を養成する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		出席、発表、試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語演習(応用作文と講読) 中国語Ⅴ(総合・応用作文と講読)	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界に類を見ないほど長きにわたって連綿と「書き記す」歴史をもつ中国語の世界にあつては、書面語と口語の並存、蓄積される膨大な常套表現、紛れ込む地域差等々、その読解にあたって必要とされる準備的知識と障碍となるノイズが想像を越えるほどに大きい。</p> <p>さらに、日本語を母語とする者にとって、日中同形語をはじめとして日中で様々に交叉する要素を通して、ややもすると組み易しと誤解して種々に読み誤りを繰り返し、結果としていわば一つの虚構を描いてしまう危険すらある。</p> <p>中国語を学ぶ者にとって、学校文法にとどまらぬ文法研究に併せ多方面の文化コードに通じて読み解いていく、という本来的な文献読解の姿勢が強く望まれる。</p>		<p>中国の通俗的な小説を要約改編し、その後半を受講生の発表を通して読み進めていく。</p> <p>各章に現れる注意すべき語彙・文法事項、心得ておくべき文化背景を取り上げ、かつ各章テーマを絞って工具書(辞典類・事典類等参考にする補助的書物・資料)を紹介し、以って受講生の読解力を養成する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		出席、発表、試験による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	中国語演習(ビジネス中国語) 中国語V(総合・ビジネス中国語)	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国経済の急成長は素材、エネルギーの需要を膨らませ、現在、世界の市場を揺さぶる程の影響力を持つに至りました。こうした中国経済のグローバル化を背景に、現在、中国語を自由に操れるビジネスマン(ビジネスウーマン)の育成が急速に求められています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を修得すると共に、ビジネス業務をスムーズに遂行するための正確且つ的確な「契約書」や「仕様書」等の「ビジネス文書」の書き方を学習します。併せて、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、ビジネス業務全般の基礎知識を理解することを目指します。</p> <p>実際の授業では、毎回「ビジネス文書」を作成すると同時に、全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 日中貿易概説/商談の基礎 アポイントの取得(一) 中国語のビジネスレター 2 業務取引の申し込み/アポイントの取得(二) 3 引き合いに関する商談(一)/見積書の送付依頼 4 引き合いに関する商談(二) サンプル送付の返事 5 オファーを巡る話し合い 6 製品紹介のレター 7 商品の紹介/オファーシート(一) 8 オファーシート(二) 9 カウンタービット(一) 契約書の送付 10 カウンタービット(二) 契約書(一) 契約内容 11 コミッションについての取り決め(一) 契約書(二) 支払方法 12 コミッションについての取り決め(二) 実習とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回配布するプリント ・『実習ビジネス中国語—商談編』白水社 		出席率、及び定期試験の成績を総合して評価します。総合成績が60点以上で単位取得。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	中国語演習(ビジネス中国語) 中国語V(総合・ビジネス中国語)	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国経済の急成長は素材、エネルギーの需要を膨らませ、現在、世界の市場を揺さぶる程の影響力を持つに至りました。こうした中国経済のグローバル化を背景に、現在、中国語を自由に操れるビジネスマン(ビジネスウーマン)の育成が急速に求められています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を修得すると共に、ビジネス業務をスムーズに遂行するための正確且つ的確な「契約書」や「仕様書」等の「ビジネス文書」の書き方を学習します。併せて、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、ビジネス業務全般の基礎知識を理解することを目指します。</p> <p>実際の授業では、毎回「ビジネス文書」を作成すると同時に、全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 貿易業務の仕組みと業務の流れについて 2 オーダーの商談(一)/契約書の付属文書 3 オーダーの商談(二)/契約書の変更 4 支払条件(一)/信用状開設の督促 5 支払条件(二)/信用状の期限延期(一) 6 船積み期日(一)/信用状の期限延期(二) 7 船積み期日(二)/船積通知とドキュメントの送付 8 パッキングの取り決め(一)/保険料の間合せ 9 パッキングの取り決め(二) 品質に対するクレームの申し立て 10 インシュランス(保険)の取り扱い(一) クレームへの返事 11 インシュランス(保険)の取り扱い(二) 12 実習とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回配布するプリント ・『実習ビジネス中国語—商談編』白水社 		出席率、及び定期試験の成績を総合して評価します。総合成績が60点以上で単位取得。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	日本思想史 a 日本思想史	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。</p> <p>2. 古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する (a)。近世の思想についての概略を理解する (b)。</p> <p>3. 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。</p> <p>4. 「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。</p> <p>かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成もあるので、意欲的に参加されたい。日本語を母語としない学生は、少なくとも「<u>上級日本語Ⅱ</u>」の単位を取得していること。古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいてほしい。</p>		<p>1 講義の進め方の説明</p> <p>2 思想史の考え方について (丸山眞男を手掛かりに)</p> <p>3 思想と経済的社会構成体について</p> <p>4 日本の近代化について (竹内好を手掛かりに)</p> <p>5 ヨーロッパから見た日本の伝統 (加藤周一を手掛かりに) / レポート (日本の近代化について)</p> <p>6 古事記の世界</p> <p>7 仏教の思想</p> <p>8 キリスト教の思想と日本への伝来 1</p> <p>9 キリスト教の思想と日本への伝来 2</p> <p>10 歴史意識の「古層」について 1</p> <p>11 歴史意識の「古層」について 2</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文など。		配布プリント類による / 参考文献は、適宜紹介する。	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	日本思想史 b 日本思想史	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期参照。</p> <p>春学期の「日本思想史 a」を履修していることが望ましい。</p> <p>「日本思想史 b」のみを履修する場合、指定した文献を読むように指示する。</p>		<p>1 儒学について</p> <p>2 性善説・性悪説等について (討論)</p> <p>3 朱子学について 1</p> <p>4 朱子学について 2</p> <p>5 近世思想史概観 / 見取り図作成</p> <p>6 近世の思想 (貝原益軒『大疑録』を読む 1)</p> <p>7 近世の思想 (貝原益軒『大疑録』を読む 2) / 気思想についてレポート</p> <p>8 近世の思想 (武士道について 1)</p> <p>9 近世の思想 (武士道について 2)</p> <p>10 幕末維新期の思想 (民衆の思想)</p> <p>11 近世から近代へ</p> <p>12 近代思想史概観</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本文化・芸能論 a 日本文化・芸能論	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化とは、「ある特定の間人集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて文化である。</p> <p>日本という文化単位は、主にその歴史的・地理的要因から種々様々な文化を持ち、その中には他国の文化と共通するものもあれば、他に見られない独特なものもある。それらを一望するのは難しいことであるが、本講義は映像資料を多用しながら、芸能という側面から日本文化全体を貫く価値観・ものの考え方を見ていく。なぜなら、芸能は物の形としては残らないが、その振る舞いは文化の根底に潜む無意識や、行動の構造をよく示しているからである。</p> <p>春学期は日本という文化の中で人々が「目に見えない存在」とどう対峙してきたかを、「神」と「米」を手掛かりに探るのがテーマである。</p> <p>なお、6～7月に歌舞伎の鑑賞(参加費 1500円程度)を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入 日本とは?文化とは? 2 日本文化の根底にあるもの 「見えないもの」に対する意識 3 神の出現と芸能① 春日若宮のおん祭 4 神の出現と芸能② 八重山の祭と芸能 I 5 神の出現と芸能③ 八重山の祭と芸能 II 6 神の出現と芸能④ 岩手県の鹿踊・剣舞 7 神の出現と芸能⑤ 「自然」と「神」、「魂」と「力」の問題 8 田植の習俗と芸能① 中国地方の花田植 9 田植の習俗と芸能② 東北の田植踊り I 10 田植の習俗と芸能③ 東北の田植踊り II 11 田植の習俗と芸能④ 能登のアエノコト 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室でその都度指示する		数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本文化・芸能論 b 日本文化・芸能論	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化とは、「ある特定の間人集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて文化である。</p> <p>日本という文化単位は、主にその歴史的・地理的要因から種々様々な文化を持ち、その中には他国の文化と共通するものもあれば、他に見られない独特なものもある。それらを一望するのは難しいことであるが、本講義は映像資料を多用しながら、芸能という側面から日本文化全体を貫く価値観・ものの考え方を見ていく。なぜなら、芸能は物の形としては残らないが、その振る舞いは文化の根底に潜む無意識や、行動の構造をよく示しているからである。</p> <p>秋学期は日本という文化の中で人間同士が互いの関わりをどう捕らえてきたか、「恋」と「歴史」を題材に考えていくのがテーマである。</p> <p>なお 11～12月に落語・能または文楽の鑑賞(参加費 2000円程度)を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入 日本とは?文化とは? 2 日本文化における人間関係 対峙する「恋」、振り返る「歴史」 3 日本文化における「恋」の諸相① 「弧悲」・性愛 4 日本文化における「恋」の諸相② 愛執・男色 5 日本文化における「恋」の諸相③ 恋愛の観念 6 芸能における「恋」の表現① 民俗芸能 7 芸能における「恋」の表現② 歌舞伎 8 芸能における「歴史」の表現① 語り…狂言 9 芸能における「歴史」の表現② 語り…落語 10 芸能における「歴史」の表現③ 語り…節談説教 11 日本文化における人間関係 個人の対峙・集団の対峙・過去と現在の対峙 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室でその都度指示する		数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本近現代史 a 日本近現代史	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと認識しているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問い返ってくる答えをみると、日本人がこの戦争をどうとらえているか、さまざまな問題が浮かび上がってくる。戦後 60 年になろうとしているが、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。</p> <p>この戦争をとらえるために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。その上で、教育や社会の状況も含めて、この戦争の全体像を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2 真珠湾からか、コタバルからか 3 被害の問題①—空襲は何を示すか 4 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 5 加害の問題①—731 部隊とは何か 6 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 7 加害の問題③—強制連行と従軍慰安婦 8 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 10 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 11 兵士と民衆③—荷担と抵抗をめぐって 12 まとめとして—戦争の全体像を考える 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、基本的に論述の形式で試験を実施する	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本近現代史 b 日本近現代史	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「15 年戦争」は、戦後 60 年になろうとする今日でも、日中間で問題になっているように、日本の社会に大きな影響を与えている。そこには、この戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、という問題がからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が、この戦争の処理や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。中国や韓国の人々から戦後補償が、今、求められる背景には、この戦後の歴史がある。日本の政府が、また民衆が、戦後史の中でこの戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 沖縄戦・本土決戦と戦争の終わり方の特徴 2 一億総ざんげ論から日本国憲法まで 3 東京裁判をめぐって 4 サンフランシスコ講和のもった問題 5 内外での補償・賠償をめぐって 6 日本とドイツの戦後補償 7 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8 日中国交回復への道のり 9 ベトナム戦争と国民の戦争認識の変化 10 アジアの民衆からの戦後補償要求 11 戦後 50 年の国会決議をめぐって 12 過去の戦争と現代の戦争 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、基本的に論述の形式で試験を実施する	

03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋)	日本文学	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学(言語芸術作品)とは、本来読んであるいは聴いて楽しめればそれでいいものである。むしろ楽しみ方には色々な道があろうが、文学が表現される時、その楽しみ方があらかじめ指示されているわけではない。</p> <p>むしろ、時代や社会の状況に応じて表現の意図には制約があったはずだが、我々がそれを受け止める時に、個人で楽しむ分にはなんら気にする必要はない。であるならば、なぜ大学の講義で文学を取り上げなければならないのか？</p> <p>その目的の一つは、様々な文学を受け止めることによって言語表現を豊かにするために、その方法を獲得することである。もう一つは文学がどう表現されたかを理解することで、文化の生成の有り様を理解することである。本講義の力点は後者にある。</p> <p>今年度は日本文学の特徴の一つである「恋」の諸相を文学史の中から拾い上げていく。</p> <p>必要に応じて薄目の文庫本の購入を指示し、諸君に読破を要求することになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入 日本文学とは何か？日本文学の時代 2 古代文学の「恋」① 記紀万葉の恋 3 古代文学の「恋」② 物語の恋 4 古代文学の「恋」③ ウタの恋 5 中世文学の「恋」① 能の「恋」 6 中世文学の「恋」② お伽草子の「恋」 7 近世文学の「恋」① 浮世草子・仮名草子・浄瑠璃 8 近世文学の「恋」② 洒落本・人情本 9 近代文学の「恋」① 鴉外・漱石 10 近代文学の「恋」② 透谷・鉄幹 11 現代文学の「恋」 セカチュー、その他 12 まとめ 大正・昭和・平成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室でプリントを配布、または購入を指示		数回の小レポート、学期末の試験もしくはレポート	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本経済論 a 日本経済論	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◆講義目的、講義概要 現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠であるそのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。</p> <p>◆評価方法 学期末試験の結果(通年講義は春期・秋期の合計)で評価する。相対評価方法を採用。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 戦後民主化政策と経済改革 3. 戦後経済復興対策 4. ドッジ・ラインとシャープ勧告 5. 朝鮮戦争と日本経済 6. 高度成長時代の到来 7. 高度成長の構造 8. 高度成長の精神的土台 9. 高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉(1) ドル・ショック 11. 高度成長の終焉(2) オイル・ショック 12. 日本経済の構造転換 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主に統計表などのプリントを配布。			

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本経済論 a 日本経済論	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1970年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく構造転換し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、70年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた10年」について論述し、そのうえで最近における日本経済の再建論議の可否を議論してみたい。</p> <p>◆評価方法 学期末試験の結果(通年講義は春期・秋期の合計)で評価する。相対評価方法を採用。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. スタグフレーションとトリレンマ 2. レーガノミクス 3. グローバル化の波 4. 日本経済のバブル化 5. バブル経済の発生原因 6. バブル崩壊と複合不況 7. 「失われた10年」(1) 8. 「失われた10年」(2) 9. 景気対策か構造改革か(1) 10. 景気対策か構造改革か(2) 11. 「第三の道」論 12. まとめ日本経済の現状 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主に統計表などのプリントを配布。			

03年度以降(春) 02年度以前(秋)	日本政治外交史 a 日本政治外交史	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治史を講義している。本年は、戦前日本の政治と外交を論ずることで、この国の越し方を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 近代日本の基本問題 3. 明治維新 4. 明治6年の政変—内治優先主義 5. 明治憲法体制の成立(1) 6. 明治憲法体制の成立(2) 7. 明治憲法体制の構造 8. 明治初期の外交 9. 東アジアの国際環境 10. 大陸国家への道(1)—日清戦争— 11. 大陸国家への道(2)—日露戦争— 12. 日露戦後の日本の政治と外交 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に定めないが、講義中に必要に応じて参考文献を指示する。ノートを確実にとり、復習することが望ましい。		定期試験と平常試験によって判定する。詳細については講義中に指示する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本政治外交史 b 日本政治外交史	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治史を講義している。本年は、戦前日本の政治と外交を論ずることで、この国の越し方を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 「藩閥支配」から政党政治へ(1) 3. 「藩閥支配」から政党政治へ(2) 4. 第1次世界大戦と日本外交(1) 5. 第1次世界大戦と日本外交(2) 6. ワシントン体制と日本(1) 7. ワシントン体制と日本(2) 8. 政党政治の展開(1) 9. 政党政治の展開(2) 10. ワシントン体制の崩壊—満州事変— 11. 軍部の時代 12. 「帝国」の破局 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に定めないが、講義中に必要に応じて参考文献を指示する。ノートを確実にとり、復習することが望ましい。		定期試験と平常試験によって判定する。詳細については講義中に指示する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像 a) 日本研究特殊講義 A(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。</p> <p>この能楽の全体像を、現役能楽師の視点から平易に説明していきます。</p> <p>また、一作品を教材として、他の芸能にどのような影響を与えたかを考察します。</p> <p>春期は、能楽の知識を主に全体像を捉えます。「能楽」への理解度を深める目的のため、通年受講を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 能楽の紹介 ② 能楽の概説 ③ 能楽の流れ ④ 能楽を演じる各役 ⑤ 能舞台について ⑥ 能の演技について(実演) ⑦ 能の演目について I ⑧ 能の演目について II(実演) ⑨ 夢幻能と現在能 ⑩ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 I ⑪ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 II ⑫ まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピーを配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像 b) 日本研究特殊講義 A(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平安時代の末期に生き、悲劇のヒーローとして膾炙されている「源義経」のその生涯は能の作品に多く取り上げられています。そのうちの「安宅」を教材として、作品の解釈・鑑賞、さらに他の芸能(歌舞伎・映画)にどのように転化していったかを、ビデオ鑑賞を取り入れ比較・検討します。</p> <p>秋期からの受講者のため、簡略な能の知識も視野に入れますが、より深い理解のために、春期からの通年受講を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 源義経の生きた時代 I ② 源義経の生きた時代 II ③ 能のなかの源義経 ④ 能「安宅」の解釈と鑑賞 I ⑤ 能「安宅」の解釈と鑑賞 II ⑥ 能「安宅」の解釈と鑑賞 III ⑦ 歌舞伎「勸進帳」の作品鑑賞 I ⑧ 歌舞伎「勸進帳」の作品鑑賞 II ⑨ 黒澤明監督作品における「安宅」 ⑩ 「安宅」と「勸進帳」の比較 I ⑪ 「安宅」と「勸進帳」の比較 II ⑫ まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピーを配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本語文法論 a 日本語文法論	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教育のための日本語文法をまなぶ。目標は2つある。1つは、基礎的かつ体系的な日本語文法の知識を獲得することである。もう1つは、日本語教育のなかでであろう個別の文法的な問題を解決するための技術、つまり言語を規則としてかんがえることのできる能力を養成することである。</p> <p>外国語として日本語を学習するひとびとへの教育のためには、われわれが小中学校で学習してきた「国文法」では不足する。日本語教育のための文法は、他の言語の文法システムをもつ人にとっても理解可能な汎用性のたかいものでなければならず、また文を産出することのできる規則でなければならない。こうしたことを前提としてふまえたうえで、日本語教育のための文法体系をまなぶ。</p> <p>春学期は、活用を中心とする形態論、および単文の命題レベルの統語論、および述語の後接要素の文法をあつかう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと総論 2. 形態論(1)語 3. 形態論(2)活用 4. 後接要素(1)全体と可能 5. 後接要素(2)恩恵と方向 6. 後接要素(3)ヴォイスと変化 7. 後接要素(4)アスペクト 8. 命題の構造(1)述語と格 9. 命題の構造(2)その他の格助詞 10. 命題の構造(3)連用修飾 11. 命題の構造(4)連体修飾 12. 春学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントをもちいる。		試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめるばあいがある。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本語文法論 b 日本語文法論	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教育のための日本語文法をまなぶ。目標は2つある。1つは、基礎的かつ体系的な日本語文法の知識を獲得することである。もう1つは、日本語教育のなかでであろう個別の文法的な問題を解決するための技術、つまり言語を規則としてかんがえることのできる能力を養成することである。</p> <p>外国語として日本語を学習するひとびとへの教育のためには、われわれが小中学校で学習してきた「国文法」では不足する。日本語教育のための文法は、他の言語の文法システムをもつ人にとっても理解可能な汎用性のたかいものでなければならず、また文を産出することのできる規則でなければならない。こうしたことを前提としてふまえたうえで、日本語教育のための文法体系をまなぶ。</p> <p>秋学期は、疑問・テンスとモダリティ、および複文と談話にかんする文法をあつかう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと春学期のまとめ 2. 疑問 3. テンス 4. モダリティ(1)現実制御 5. モダリティ(2)認識表示 6. 終助詞ととりたて 7. 複文(1)並列節 8. 複文(2)従属節 9. 複文(3)連体節と補足節 10. 談話(1)主題 11. 談話(2)指示と省略 12. 秋学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントをもちいる。		試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめるばあいがある。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本語音声学 a 日本語音声学	担当者	城田 俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語の子音、母音、音節、単語をいかに発音するかを調音音声学の立場から詳しく述べるのが本授業の目的である。母国語の音声の作り方を正しく知ることは、自分の母国語を磨くだけでなく、外国語の音を正しく認識し、正確に発音することに役に立つ。また、外国人に日本語を教える場合、発音の教育の仕方がわかり、発音の欠陥がどこにあるかを見出す手がかりをつかむことができる。このような立場から、日本語音声の全般にわたって解説を行う。発音は実践的行為である。授業では実際に発音練習を行うので積極的参加が望まれる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 言葉と音:音声学と音韻論、単音と音素、意味を区別する音としない音、共通語と方言 調音(1):はく息と吸う息、音声器官と調音器官、各調音器官の説明 調音(2):調音点、調音方法(閉鎖、摩擦、破擦、弱い閉鎖、はじき、鼻音等) 子音(1):子音と母音、子音の種類、子音の調音、無声、有声、口蓋化、非口蓋化 子音(2):閉鎖音、調音点による閉鎖音の分類、弱い閉鎖音 子音(3):摩擦音、調音点による摩擦音の分類、弱い摩擦音 子音(4):破擦音、鼻音、はじき音 子音(5):子音の発音練習 母音(1):母音の種類、前母音、後母音、狭母音、広母音、中開き母音、鼻音化母音 母音(2):母音の諸相 母音(3):母音の発音練習 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:城田俊『日本語の音—音声学と音韻論』ひつじ書房。参考文献は授業の進行状況に従い、その都度指示する。</p>		<p>期末試験 40%、出席 30%、授業への参加態度 30%</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本語音声学 b 日本語音声学	担当者	城田 俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的に音節によって言語音を認識する日本人にとり、音節の概念は重要である。この音節がいままでいかなる体系をなして存在し、その体系の中で、いかなる新しい音節が生まれてきたかを解説する。これが今後いかに発展するかを見極めるのもまた重要である。</p> <p>我々が学ぶヨーロッパの諸言語と異なる日本語の音声上の特徴は、高低アクセントにまずある。共通語のアクセント体系を実際に発音しながら、身につけることをここでは行う。なぜこのような体系ができたのか、その機能を統語機能と意味機能に分けて解説する。</p> <p>音素の概念は、人文科学に新しい地平線を切り開いた。構造主義を成立させたこの概念を日本語に則して詳しく説明するのも本授業の目的の一つである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 音節:音節とは何か、短音節と長音節、音節の種類、引く音、つまる音、はねる音 音節体系:音節体系の変化、100音節体系と新しい音節体系 アクセント(1):強弱アクセントと高低アクセント、固定アクセントと自由アクセント アクセント(2):共通語のアクセント体系(1) アクセント(3):共通語のアクセント体系(2) アクセント(4):共通語のアクセント体系の練習 音素論(1):音素とは何か、定義、音素論と人文科学 音素論(2):100音節体系における子音音素 音素論(3):新しい音節体系における子音音素 音素論(4):母音音素、4母音体系と5母音体系 日本語教育能力検定試験における音声問題の解説 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>城田俊『日本語の音—音声学と音韻論』ひつじ書房。参考文献は授業の進行に従い適宜指示する。</p>		<p>期末試験 40%、出席 30%、授業への参加態度 30%</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本語史 a 日本語史	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には、外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果が現れ、どのように日本語を生成発展させてきたのだろうか。本講は、時代時代の代表的作品の中から、どのように日本語の変遷が迎えられるか、言葉の転換期に日本人識者はどのような対応をみせたかを、作品を通して確認していく。ほぼ研究が完成している音韻史を軸にして日本語の歴史を概観する。現代語の源流である中世末期(室町時代)の日本語から講述し、春学期には古代日本語～近世に至るまで、秋学期は、現代語に至るまでを講義する。</p> <p>(備考) 言語学(日本語学)および日本史の講義を受講していることが望ましい。同時進行でも可。</p>		<p>1 室町時代という時代—現代日本語の源流 2～3 古代の日本語—(中国文明受容第1期)漢字漢文の恩恵と日本語 4 『竹取物語』の意義—語源への関心 5～6 中古の日本語—王朝文化と女性の貢献 7～8 『源氏物語』の意義—新語の発明と表現の拡大 9 中世の日本語—説話文学・筆記物にみる男子の世界・口語の発明と表現の飛躍 10 中世末期の日本語—(中国文明受容第2期)禅宗の影響・公家文化の地方伝播 11～12 まとめと展望</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
国語学会編『国語史資料集』(武蔵野書院)		レポート	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本語史 b 日本語史	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
		<p>1～2 安土桃山時代(キリシタン時代の影響)—はじめての国語辞書と日本語文法書・日本語教育の方法と成果 3 近世前期の日本語—上方文化の作品と言葉 4～5 近世後期の日本語—江戸文化の作品と言葉 6～7 近代の日本語—明治期の翻訳文化と新しい日本語の発明・対訳辞書の試み・言文一致運動の意義 8 大正・昭和前期の日本語教育の試み—童謡への情熱と期待 9～10 昭和後期(第二次世界大戦後)—国語教育への容喙・当用漢字の制定 11～12 現代日本語の実態の把握と 21世紀の日本語への展望</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
国語学会編『国語史資料集』(武蔵野書院)		レポート	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	対照言語学 a 対照言語学	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>① 第二言語習得の理論を概観したのち、日本語と他の言語の共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。</p> <p>具体的なクラス運営</p> <p>① クラスの形態は講義と演習(学生による誤用分析)を中心とする。</p> <p>② 秋学期には学生による課題発表を中心とした。</p>		<p>1. オリエンテーション 対照研究とは? 誤用分析とは? 言語類型論と対照研究 言語学習における転移とは</p> <p>2. 音のしくみ</p> <p>3. 語順</p> <p>4. 形容詞</p> <p>5. 指示代名詞</p> <p>6. 人称代名詞</p> <p>7. 動詞</p> <p>8. テンスとアスペクト</p> <p>9. 日本語の構造(主題・解説 v s 主語・述部)</p> <p>10. ヴォイス</p> <p>11. 授受表現</p> <p>12. モダリティ</p> <p>13. その他、「原因」「理由」(推量)等さまざまな表現</p> <p>上記の項目は授業で取り上げる予定の項目であり、学生の興味、希望によっては変更される。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献はクラスで紹介する。テキストは特に指定しない。基本的にはプリント配布を中心とする。		① テスト ②課題発表 ③ 出席率 ④クラス態度	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	対照言語学 b 対照言語学	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		引き続き、上記の項目について講義+演習の形で進める。授業形態としては、秋学期は学生の人数にもよるが、課題発表が中心となる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本語教授法 I a 日本語教授法 I	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>将来、日本語教育に従事してみたい、海外で、或は、ボランティアで日本語を教えてみたいと考える学生を対象にしたコースである(但し、言語教育という観点からは、他言語の教育にも応用され得る)。 言語学習及び習得理論の紹介。外国語教授法の概観。発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える。具体的な教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を紹介したのち、実際に教案・教材を作成してもらう。基本的には極めて実践的な授業である。課題研究についてはグループワークを行なうが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般にわたるかなり広範囲な内容になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとコースデザイン(レディネス分析とニーズ分析) 2. 学習理論・言語習得理論 3. 外国教授法の流れ 4. オーティオリソナル v s コミュニカティブ・アプローチ 5. 教材・教具論 <課題:教科書評価>グループ内での報告 6. 技能別指導法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本語の音声教育 (2) 聴解指導 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 ①プリント ②『実践日本語教授法』 中西家栄子他 バベル出版 ③その他さまざまな参考文献は授業中に紹介</p>		<ol style="list-style-type: none"> ①課題提出 ②前期・後期テスト ③出席率 	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本語教授法 I b 日本語教授法 I	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<ol style="list-style-type: none"> 6. 技能別指導法 <ol style="list-style-type: none"> (3) 文字指導 (4) 読解指導<課題:読解教材の作成> (5) 作文指導 (6) 文法/文型の指導(例:初級・中級文型) (7) 会話指導 <ドリルの作成> ドリル課題 - グループでの検討 コミュニケーション活動の紹介 <ol style="list-style-type: none"> (8) 文法(文型)の指導 導入方法 コミュニケーション活動の作成 <課題:上記活動の作成> 7. クラス活動全体の展開 教案の書き方 - 導入からまとめまで クラスマネージメント(例:誤用の訂正方法) 8. <課題:教案の作成>とクラス内でのグループ発表 9. テスト作成法 評価 <p>上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本語教授法Ⅱ 日本語教授法Ⅱ	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教授法Ⅱ(担当者・中西家栄子)に准ずる。講義目的、講義概要および各回の内容、さらに評価方法とテキストについてはその項を参照のこと。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本語教授法Ⅱ 日本語教授法Ⅱ	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なう準備教育であり、演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業となる。日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、授業の進行を客観的に観察する。観察を通じ、各人が教室活動、指導法について具体的に評価・検討する。模擬授業は少なくとも2.5回程度ある。</p>		<p>1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 — 復習 ④動詞の活用と分類 — 復習 ⑤ドリル作成 — 復習 ⑥授業観察の方法</p> <p>2回目より 担当者による模擬授業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初級：『みんなの日本語』を中心に 参考文献：①「日本語の教え方の秘訣」スリーエーネットワーク ②「中・上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク</p>		<p>①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート (授業観察のまとめと自己分析) ④出席</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（春）	日本語学 a	担当者	城田 俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国文法は中学、高校の教科として教えられるべきものとされながら、現代語に関してはあまり教えられていない。日本人が知るべきものとされているが教えられないのはなぜか。日本人は母国語の文法を知らないまま社会に出て行く。このような状態でよいのかという反省の上になつてこと授業は展開される。まず、国文法が持つ諸概念を詳しく検討し、其の本質を明らかにし、それが持つ矛盾や難解さをいかに乗り越えたらよいかを考えていきたい。そのうえで、どうしたら、日本人の共通理解としての、等身大の日本語文法が構築できるかを説明する。日本語の音声に関してもある程度の説明を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語のオトの研究:アイウエオ、五十音図、直音と拗音清音と濁音、拡大五十音図、はねる音、つまる音等 2. 日本語にいくつ音節があるか:英語、ロシア語等の音節、日本語の音節、音節と音節文字 3. 音節と単音:アルファベットの導入、音声学による把握、頭のおとと中心のおと、直音節と拗音節の本質 4. 閉鎖体系と開放体系(1):母音の無声化と無声子音の結合の出現、新しい音節の発生 5. 閉鎖体系と開放体系(2):日本語音節体系の発展動向、将来の日本語 6. 国文法の基本概念:品詞分類、自立語と付属語、体言と用言、助詞、助動詞、活用 7. 活用とは何か(1):そのまま使えるかたち、終止形、連体形、命令形 8. 活用とは何か(2):そのまま使えないかたち、仮定形、未然形 9. 活用とは何か(3):両機能が並存するかたち、連用 10. 活用なしで日本語文法は記述できる 11. 国文法から日本語文法へ 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の進行状況によりその都度指定する。		期末試験 40%、出席 30%、授業への参加態度 30%	

03年度以降（秋）	日本語学 b	担当者	城田 俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>活用というわかりにくい概念、矛盾を含む助詞、助動詞という考え方を採らずに、外国人に対する日本語教育にも用いられる新しい日本語文法のアウトラインとこれから進むべき道を明らかにするのがこの講義の目的である。英語、その他のヨーロッパ諸言語の文法と共通の語形変化（コンジュゲーション）という観点から、日本語に則して、文法を記述すると、語尾形、語幹形、結合形、文形という形態がみとめられてくる。これら諸形態の意味、用法を説明する。また、流行の方法でなく、伝統的な手段を用いて新しい日本語の文論（シンタクス）をいかに記述したらよいかという問題に触れる。格についても考察を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい日本語文法(1):語尾のかたち(1):現在形、過去形等 2. 新しい日本語文法(2):語尾のかたち(2):テ形、汎用形等 3. 新しい日本語文法(3):語幹のかたち(1):使役形、受身形、可能形等 4. 新しい日本語文法(4):語幹のかたち(2):否定形、マス形等 5. 新しい日本語文法(5):結合のかたち(1):テ形+イル/アル/オク/ミル等 6. 新しい日本語文法(6):結合のかたち(2):テ形+ヤル/クレル/モラウ 7. 新しい日本語文法(7):文のかたち(1):ノダ文 8. 新しい日本語文法(8):文のかたち(2):ダロウ、カモシレナイ、ニチガイナイ、ヨウダ、ラシイ等 9. 新しい日本語文法(9):主語、述語、日本語に主語がない、二重ガ格 10. 新しい日本語文法(10):連用修飾語と連用補語 11. 新しい日本語文法(11):連体修飾語 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度指定する。		期末試験 40%、出席 30%、授業への参加態度 30%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋)	日本語教育論	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教師になることを目的とした学生のみを対象としたコースではなく、日本語、日本語教育、しいては語学教育全般にわたって広く興味を持っている学生に受講してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 外国人に日本語を教えるとは？ 3. 日本語を外国語として概観する。 4. 日本語の基本的な仕組みを知る。 5. 世界の中における日本語教育の現状を知る。 		<p>次の項目について、各2～3回の授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション — 日本語教育の現場を見る (ビデオ) 2. 日本語教育とは？ 日本語教育と国語教育の違いについて 3. 日本語教育の歴史 4. 日本語のしくみとその指導のポイント <ul style="list-style-type: none"> ①言語としての日本語 <ul style="list-style-type: none"> 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味 5. 授業の展開 — ビデオ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
① 『はじめての日本語教育・1』高見澤孟、他 アスク講談社		1. テスト 2. 宿題提出 3. 出席率 (欠席4回以上はFとする)	

03年度以降（春）	日本語教育特殊講義（英文文献で読む日本語論 a）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. この特殊講義は講義の部分もあるが、大部分は全員が参加する演習の形式で進められる。</p> <p>2. テキストの英文を正確に読解し内容をまとめる。</p> <p>3. 担当部分の英文を担当者があらかじめその要約をつくりクラスで配布できるように準備する。</p> <p>4. テキストの内容に基づき日本語学習上での問題点を考えていく。</p> <p>5. 考察した問題点や特徴を日本語の全体像の中に位置づけ、知識の体系化を図る。</p> <p>6. シラバスに記したものと実際の授業とでは多少前後することがある。また、新たなテーマを加えることがある。</p> <p>授業への積極的な参加が望まれる。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>① 発表担当の分担、いかなる方法で勉強をすすめるかの説明。</p> <p>② Introduction を読む</p> <p>-</p> <p>2. 2回目以降はテキストの内容に沿って進める。毎回7～8頁ほど進める</p> <p>内容項目の詳細はオリエンテーション時に紹介する。</p> <p>(2) Earlier thinking on transfer</p> <p>(3) Some fundamental problems in the study of Transfer</p> <p>(4) Discourse</p> <p>(5) Semantics</p> <p>(6) Syntax</p> <p>(7) Phonetics, Phonology, and writing systems</p> <p>(8) Nonstructural factors in transfer</p> <p>(9) Looking back and looking ahead</p> <p>(10) Implications for teaching</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Language Transfer – Cross-linguistic influence in language learning</i> T. Odlin Chambridge Applied Linguistics</p>		<p>① 課題（まとめ） ② 試験の得点</p> <p>③ 出席率（欠席4回以上はF評価とする）</p>	

03年度以降（秋）	日本語教育特殊講義（英文文献で読む日本語論 b）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>① Recent Research in Reading Japanese as a Foreign Language</p> <p>② Studies on L2 writing Instruction in the past and present</p> <p>時間があれば、秋学期にあつては、春学期の残りおよび上記の小論を読んでいきたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

02年度以前(秋)	現代思想	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>他者理解の可能性と成立根拠を究明すべく、日本の思想のみならず、理解対象である相手の文化的基盤としての思想を広く理解できる幅広く柔軟な受容能力を高めることを目的とする。</p> <p>日本の現代諸思想、東洋の諸思想そして西洋の現代諸思想の理解と比較を通じて、諸文化の基礎である思想的および宗教的基盤を理解する。これを基にして、我々の置かれている現代の危機的諸状況を的確に把握し、人類の選択すべき方向を考察する手がかりを得る。</p> <p>今年は他者理解の問題と同時に無限性の問題にも触れる。</p>		<p>1 講義概要の説明。2 現代が抱える問題の提示。3 現代が抱える問題の提示。4 その問題への思想的アプローチの仕方(1)。5 その問題への思想的アプローチの仕方(2)。6 その問題への思想的アプローチの仕方(3) 7 その問題への思想的アプローチの仕方(4) 8 グループ分け 9 および10までは、各グループの自主的な調査研究検討の時間。</p> <p>1 1 第一グループの研究発表 1 2 その質疑応答 1 3 第二グループの研究発表 1 4 その質疑応答 1 5 第三グループの研究発表 1 6 その質疑応答 1 7 第四グループの研究発表 1 8 その質疑応答 1 9 第五グループの研究発表 2 0 その質疑応答 2 1 第六グループの研究発表 2 2 その質疑応答 2 3 および2 4 は私の講評と研究発表をふまえて、さらにどういう見方考え方ができるかを探る、総括的探究。</p> <p>場合によってグループ数が多いときには、各時間中に発表と質疑がなされることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席と自分たちの研究への取り組み方と、そしてレポートの結果により評価。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	自然言語処理 a 自然言語処理	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然言語」といっている。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものである。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付けることを目標とする。</p> <p>本講義は、自然言語処理の基礎技術について解説する。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学ぶ。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面 2 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性 3 自然言語処理の予備知識 4 形態素解析(1) 形態素解析の原理と方法 5 形態素解析(2) 日本語と英語の形態素解析実験 6 単語処理 単語の同定、単語の統計処理 7 構文解析(1) 文脈自由文法、句構造文法 構文解析システムの原理 8 構文解析(2) 構文解析の原理と実験 9 言語処理の知識源(1) 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 10 言語処理の知識源(2) コーパス、言語データベースの構造と使い方 11 言語の統計処理 コーパスからさまざまな知識の抽出技術 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。 		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	自然言語処理 b 自然言語処理	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につけることを目標とする。</p> <p>本講義では、自然言語処理の基礎理論だけでなく、世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介する。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行う。そして、現在の自然言語処理システムの問題点を検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 意味論： 自然言語の意味論、フレーム理論 2 意味解析： 意味解析の方法と実験 3 文脈解析： 談話構造、照応問題の対処法 4 知識の表現法 5 文書処理(1) 文章の校正・推敲支援 6 文書処理(2) 自動要約の原理、換言処理、要約システム構造 7 機械翻訳(1) 機械翻訳の処理方式と原理 8 機械翻訳(2) 機械翻訳システムの使用と評価 9 曖昧性の解消モデル 10 情報検索における言語処理技術 11 自然言語処理の今後 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。 		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋)	通訳翻訳論	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>■講義目標 通訳・翻訳の理論と実践について理解を深めることを目的とします。</p> <p>■講義概要 通訳・翻訳に関する研究について、さまざまな角度から概観します。</p> <p>■受講生への要望 テキストがないので、授業には必ず出て講義を聴いてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ダイダンス・翻訳の歴史 2. 日本における翻訳と翻訳論 3. 翻訳の規範について 4. 現代の翻訳論 5. 翻訳と通訳－共通点と相違点 6. 通訳の歴史 7. 通訳研究の歩み 8. 通訳訓練の方法 9. 実務としての通訳 10. 通訳の実例研究 11. 通訳者の倫理 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
インターネット上に講義資料をダウンロードできるサイトを開設しています。下記にアクセスして履修している講義名をクリックし、必要な資料を入手してください。 http://www.geocities.jp/nagatasae/		出席率と期末試験によって評価します。 出席点5割、試験点5割です。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	プログラミング論 a (プログラミング論・自然言語処理入門) 情報コミュニケーション研究特殊講義 A (プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6 イベント駆動型プログラム 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文 11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を指示する。 		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	プログラミング論 b (プログラミング論・自然言語処理入門) 情報コミュニケーション研究特殊講義 A (プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返し替えプログラミングの技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方ははじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成 4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え 5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6 文字列の表示 7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11 再帰というプログラミング手法 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論) 情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能をフルに活用できるベントドリブン型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の中で、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2 Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3 イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 4 簡単なプログラム作成(1):講義と実習 アプリケーション開発手順、文字の入出力 5 簡単なプログラム作成(2):講義と実習 四則演算 6 簡単なプログラム作成(3):講義と実習 キャッシュレジスター 7 選択のあるプログラム作成(1):講義と実習 アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8 選択のあるプログラム作成(2):実習 多くの選択のあるプログラムの処理 9 選択のあるプログラム作成(3):実習 オプションボタン、チェックボタンの利用 10 選択のあるプログラム作成(4):実習 リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 11 繰り返しのあるプログラム作成(1):講義と実習 If と Go To、For Next を用いた繰り返し 12 繰り返しのあるプログラム作成(12): 講義と実習 Case 文、While 文 13 総合問題作成:実習 いろいろなコントロールを用いて問題を作成する 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論) 情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図形の処理(1):講義と実習 直線を描く、曲線を描く 2 図形の処理(2):講義と実習 円を描く、色を塗る 3 図形の処理(3):講義と実習 Windows の画像処理、タイマーの利用 4 図形の処理(4):講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5 音声・動画の処理:講義と実習 音声を録音する、音声を再生する 6 配列とコントロール配列:講義と実習 一次元配列、コントロール配列の利用 7 プルダウンメニュー:実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8 ファイルの利用(1):講義と実習 テキストファイルの読み込み 9 ファイルの利用(1):講義と実習 画像ファイルの読み込み 10 ファイルの利用(1):講義と実習 シーケンスファイルの作成 11 ファイルの利用(1):講義と実習 シーケンスファイルの読み込みと利用 12 インターネットの利用:講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論) 情報・コミュニケーション研究特殊講義A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者	高柳 敏子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>はじめに、コンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観する。続いて、シミュタを利用して、仮想のコンピュータとその上で動くアセンブラ言語(COMET IIおよびCASL II)のプログラミングおよび実習を通じて、ノイマン型コンピュータの動作や制御の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>ノイマン型コンピュータは1945年にvon Neumannによって提案され、実現されたプログラム内蔵方式の電子計算機であるが、現在大型機からパソコンに至るまで身の周りで稼動しているもののほとんどがノイマン型であり、見かけの進化に対してコンピュータの内部構造は50年前とほとんどかわらない。基本原理は相変わらずプログラム内蔵方式、二進法、逐次制御であり、その基本およびプログラミングの原理を理解するには、上述のような素朴で原始的なコンピュータと言語がむしろ向いている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、コンピュータの歴史(1) ハードウェア、ノイマン型、世代論と記憶素子 2 コンピュータの歴史(2) ソフトウェア、プログラミング言語、オペレーティングシステム 3 ノイマン型コンピュータの構成とCOMET II 五大装置、 語・ビット構成、アドレッシング、命令語、レジスタ 4 情報の表現(2) 整数と2の補数表記、2進法、16進法 5 CASL IIプログラミング(1) CASL IIの命令 (アセンブラ、マクロ、機械)、プログラム形式 6 CASL IIプログラミング(2) ロード・ストア命令、 加減算命令、定数と領域の確保 7 CASL IIシミュタとその実行(3) プログラムの入力、編集、アセンブル、実行、記憶 8 CASL IIプログラミング(4) 乗除算処理、ソフト演算 9 CASL IIプログラミング(5) 比較演算、分岐処理 10 CASL IIプログラミング(6) 繰り返し処理 11 CASL IIプログラミング(7) 情報の表現(2) 文字の内部表現とその扱い 12 CASL IIプログラミング(8) 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>随時必要な資料を提示する。</p> <p>参考書：『CASL IIプログラミング』ITEC、2001</p>		<p>定期試験、2回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論) 情報・コミュニケーション研究特殊講義A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者	高柳 敏子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ここでは、上記「プログラミング論a」の既習すなわちノイマン型のコンピュータの基礎を理解していることが前提になる。</p> <p>その上で主にコンパイル言語C++をプログラミング言語として使用し、プログラミングの基礎から、問題解決のためのアルゴリズムの実現へと、講義内容意を加速的に広げていくことにより、プログラミングによりどのようなことが可能か、どのような手法が実際に使われているのか等が理解される。</p> <p>Windowsマシンの応用ソフトを使用している限り、中でどのような手法が使われているか等をほとんど意識することもなく、一般には便利さのみに頼って利用するが、改めてソフトの内部にも思いを寄せてみることでできよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 アセンブラとコンパイル 例題プログラムの翻訳、関係編集、実行 2 C++言語とは 基本事項、文、ブロック、コメント、整数の四則演算 3 C++プログラミング(1) 情報の表現(1) 実数 4 C++プログラミング(2) 判断・分岐、関係式、関係演算子、論理演算子 5 C++プログラミング(3) 繰り返し処理、配列 6 C++プログラミング(4) 情報の表現(2) 文字と文字列 7 C++プログラミング(5) 関数、メインプログラムとサブプログラム 8 C++プログラミング(6) 関数の作成と利用 9 プログラミングの応用(1) 基本的な整列 10 プログラミングの応用(2) 探索処理 11 プログラミングの応用(3) ファイル処理 12 プログラミングの応用(4) 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>随時必要な資料を提示する。</p> <p>参考書：K.Jamsa 著、春木良且訳『C++超入門』第3版、アスキー出版、1999</p>		<p>定期試験、2回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	異文化間コミュニケーション論 a 異文化間コミュニケーション論	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「あなたにとって異文化とはなにか」と訊ねられたとき、わたしたちはどう答えるだろうか。逆に「あなたの文化はなに？」と問われたらどうか。</p> <p>異文化間コミュニケーション論では、「遠い国」「違うコトバ」だけを扱うわけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも「異文化」は見つけられる。</p> <p>本講義では、異文化間コミュニケーション研究の歴史の変遷を概観しつつ、さまざまな文化的差異に目をむける。そこから、なぜ身近な異文化に注目することが重要なのかを考えていく。それゆえ本講義の最終的目標は、異文化間コミュニケーションのスキルを上達させることではない。文化が「同じ/異なる」ということはどういうことか、また、異文化間コンフリクトがいかんにして生じるのかを考えることである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 異文化と自文化 ——あなたにとって「異文化」とは？ 3. 文化とコミュニケーション(1) ——ノイズ、メディア、メッセージ 4. 文化とコミュニケーション(2) ——コンテキストとステレオタイプ 5. 異文化間コミュニケーション研究の歴史(1) 6. 異文化間コミュニケーション研究の歴史(2) 7. 異文化へのまなざし(1) 8. 異文化へのまなざし(2) 9. 内なる異文化(1) 10. 内なる異文化(2) 11. 内なる異文化(3) 12. 内なる異文化(4) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート(講義の内容によっては、事前連絡のない大幅な遅刻は「欠席」とみなします)	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	異文化間コミュニケーション論 b 異文化間コミュニケーション論	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自分とは異なるひとびとの習慣や世界観は、とても興味深い。しかし好奇の目を向ける対象は、憧れになる反面、嫌悪の対象にもなることがある。そして大きな誤解や偏見のもとに、いずれかの感情が増幅され、極端なエキゾチシズムや憎悪が引き起こされることもある。</p> <p>「異文化への(からの)まなざし」はきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をとおして「真の異文化理解とはどういうことか」を模索する。これが本講義のねらいである。もちろんこの難問に単純な答えなどない。しかし、異文化関係が抱える問題、その問題についての考え方や、そこで試みられている解決法を知るなかから、異文化共生や異文化理解の糸口が見つかるかもしれない。</p> <p>春学期の「異文化間コミュニケーション論 a」も合わせて履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ステレオタイプを分析する 3. 「日本」の表象(1) 4. 「日本」の表象(2) 5. 自文化中心主義と異文化(1) 6. 自文化中心主義と異文化(2) 7. 自文化中心主義と異文化(3) 8. 相互行為分析と異文化研究 ——異文化と自文化のあいだ 9. 多文化主義とはなにか 10. 多文化主義をめぐる論争 ——文化的差異の承認をめぐる 11. 多文化主義がかかえるジレンマ 12. 多文化教育のこころみ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート(講義の内容によっては、事前連絡のない大幅な遅刻は「欠席」とみなします)	

03年度以降（春）	認知科学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問である。したがって、その研究領域は非常に広範囲におよぶ。本講義では、まず、認知とはなにかを述べ、次に、知覚機能や記憶、思考、言語、脳の働き、推論、空間認知などについて説明する。本講義を通して多面的に人間の「知」のしくみや機能を理解してほしい。</p> <p>受講者数によっては演習形式で授業を進める。その際には、受講者に何らかの資料をまとめてもらい、発表してもらう予定でいる。</p>		<p>授業計画は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 認知科学の対象と領域 3. 知覚① 4. 知覚② 5. 空間の認知 6. 記憶の種類 7. 記憶のしくみ 8. 記憶と脳 9. 記憶の誤り 10. 思考と言語① 11. 思考と言語② 12. 思考と推論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席とレポート発表、試験などにより総合的に評価する</p>	

03年度以降（秋）	認知科学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため講義目的などは春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	人間関係とカウンセリング a カウンセリング論	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。</p> <p>前期では、まずカウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的技法について学ぶ。特にカウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講生が50名以上の場合抽選による。出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 カウンセリングとは何か (定義・目的) 2 カウンセラーの役割と資格 3 カウンセラーの世界 (相談機関) 4 クライアント中心カウンセリング (1) 5 クライアント中心カウンセリング (2) 6 精神分析的カウンセリング 7 認知行動カウンセリング 8 傾聴の理論 9 傾聴の実習 10 ロールプレー実習 (1) 11 ロールプレー実習 (2) 12 教育、産業、医療とカウンセリング 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新版カウンセリングと心理テスト』林潔他著、ブレーン出版		評価方法は講義、グループ・ワークに関する小テスト、レポートおよび出席状況による。	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	人間関係とカウンセリング b カウンセリング論	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>後期ではカウンセリングの関連領域であるパーソナリティ、人間関係、発達心理等について学習する。</p> <p>ここでは、パーソナリティ理論、人間関係と性格との関連、乳幼児期から老年期までの発達の諸問題について理解する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講生が50名以上の場合抽選による。出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 パーソナリティの定義 2 パーソナリティの類型論と特性論 3 パーソナリティの形成と変容 4 文化とパーソナリティ 5 発達とパーソナリティ 6 葛藤の理論 7 欲求不満 (フラストレーション) 8 防衛機制 9 ストレス・マネージメント 10 グループ・ワーク (1) 11 グループ・ワーク (2) 12 人間理解とカウンセリング 	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する。		評価方法は講義、グループ・ワークに関する小テスト、レポートおよび出席状況による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	情報・コミュニケーション研究特殊講義(人間行動論 a) 情報・コミュニケーション研究特殊講義 A(人間行動論)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化・地域・思考の異なる人間が複雑に絡み合い、協調し共生していかななくてはならないのが現代社会といえる。人間相互の意思の疎通の在り方や問題点を克服する為に、改めて、行動を通しての時代や地域・行動を通しての生活と社会・行動を通しての意識と行動。変化の激しい世の中において人間生活の諸問題を多角的に捉え、人間について考えていくこととする。</p> <p>能力の発達段階時の様々な問題・課題 家庭・学校・塾・地域社会・企業・・・組織 健全者と障害を持つ人・男と女・子供と大人・</p>		<p>4/13 (青柳) ガイダンス・コミュニケーション能力の発 育と発達 20 共時性・自己性 組織における家庭生活 27 情報社会での意思疎通 5/11 災害時の人間行動と問題点 18 現代コミュニティの持つ諸問題 25 社会構造とコミュニケーション機能 6/ 1 学校教育におけるコミュニケーション機 能とその課題 8 民主主義教育の成立自治活動の発展 15 学力重視の教育と教師-生徒関係の変化 22 学校教育の荒れと教育改革の課題 29 新教育課程下におけるかだい・・・ゆとり 7/ 6 (青柳)</p>	
講義はオムニバスで・青柳 多恵子 安井 一郎 梶野 克之 松原 祐 で実施			
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が提示		出席状況・レポート 各担当者毎に出た評価を換算	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	情報・コミュニケーション研究特殊講義(人間行動論 b) 情報・コミュニケーション研究特殊講義 A(人間行動論)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化・地域・思考の異なる人間が複雑に絡み合い、協調し共生していかななくてはならないのが現代社会といえる。人間相互の意思の疎通の在り方や問題点を克服する為に、改めて、行動を通しての時代や地域・行動を通しての生活と社会・行動を通しての意識と行動。変化の激しい世の中において人間生活の諸問題を多角的に捉え、人間について考えていくこととする。</p> <p>能力の発達段階時の様々な問題・課題 家庭・学校・塾・地域社会・企業・・・組織 健全者と障害を持つ人・男と女・子供と大人・</p>		<p>9/29 (梶野) スポーツ人類学から見たコミュニケーション 10/ 5 近代スポーツの成立とコミュニケーション /12 フットボールの伝播とコミュニケーション /19 現代スポーツ現象とコミュニケーション /26 競技種目の特性とコミュニケーション 11/ 2 (松原) スキー指導における日本とオーストリア の比較① / 9 // ② /16 (実技) アリーナにおいてスポーツ指導の 実習 /30 サッカーにおける日本・欧州・南米の比較① 12/ 7 // ② /14 スポーツ指導をめぐるフリートーキング /21 (青柳)</p>	
講義はオムニバスで・青柳 多恵子 安井 一郎 梶野 克之 松原 祐 で実施			
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が提示		出席状況・レポート 各担当者毎に出た評価を換算	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	情報コミュニケーション研究特殊講義(CAEL) 情報コミュニケーション研究特殊講義B(CAEL)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週 3 時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらおう。但し、毎週水曜日の昼休み 12:30-13:00 に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらおう。水曜日の予定は右の通り。リーディングはUnits 51-80を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルの PowerWords を学習する。受講対象は全学部の2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。春学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<p>1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回小テスト 4 第2回小テスト 5 第3回小テスト 6 第4回小テスト 7 第5回小テスト 8 第6回小テスト 9 第7回小テスト 10 第8回小テスト 11 第9回小テスト 12 第10回小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-C の評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	情報コミュニケーション研究特殊講義(CAEL) 情報コミュニケーション研究特殊講義B(CAEL)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週 3 時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらおう。但し、毎週水曜日の昼休み 12:30-13:00 に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらおう。水曜日の予定は右の通り。リーディングはUnits 51-80を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルの PowerWords を学習する。受講対象は全学部の2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。秋学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<p>1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回小テスト 4 第2回小テスト 5 第3回小テスト 6 第4回小テスト 7 第5回小テスト 8 第6回小テスト 9 第7回小テスト 10 第8回小テスト 11 第9回小テスト 12 第10回小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-C の評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	情報・コミュニケーション研究特殊講義(コーパス言語学入門) 情報・コミュニケーション研究特殊講義B(コーパス言語学入門)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教育のための、コンピュータをもちいた言語分析の方法をまなぶ。</p> <p>よってコンピュータはあくまで道具であり、それ自体が目的となるものではない。授業の目的は、基本的に日本語教育のためのコーパス言語学にある。</p> <p>授業は、教員が簡単なモデルを提示したあと、簡単な練習問題をだすので、それを受講生が実習するという形式を原則とする。</p> <p>さらに簡単なコーパスの設計と組み立て、それを利用した簡単な研究を課題としてあたえるので、履修者には、課題をこなして、発表することがもとめられる。</p> <p>なお、コンピュータについての専門的な知識はまったく必要ないが、日本語分析についての知識は、あるほうがのぞましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータとDOS 2. テキストファイル 3. コーパスの設計と構築 4. データのダウンロード 5. テキスト処理・検索(1) 6. 中間発表(コーパスの設計)(1) 7. 中間発表(コーパスの設計)(2) 8. テキスト処理・検索(2) 9. テキスト処理・検索(3) 10. 形態素解析 11. 最終発表(コーパスによる分析)(1) 12. 最終発表(コーパスによる分析)(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講後指示する。		発表と出席で評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域文化論 ia (ラテンアメリカ) —カリブ海地域概説 地域文化論 i (ラテンアメリカ) —カリブ海地域概説	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ラテンアメリカ文化の特徴について、ラテンアメリカが米国以北とどの点で違うのか、本当に違うのかについて考えてみたい。米国におけるラティーノについても今年度は必ず複数時間をとって扱いたいと思う。ある意味では、ラテンアメリカ社会が米メキシコ国境を越えて米国にまで入り込んでいるからである。</p> <p>ラテンアメリカ・カリブ海地域の地理、歴史、文化、社会、政治の概要については、スペイン・ラテンアメリカ文化論の授業が別に用意されている。</p> <p>また、日本とラテンアメリカとの関わりについても検討課題としたい。日本に住むラテンアメリカ出身者の多くは日系人というカテゴリーに属していると考えられがちだが、米国であればラティーノそのものではないのか？さらに、日本におけるラテンアメリカイメージの再検討も必要とされるだろう。「明るくお祭り好きの、情熱」のラテンアメリカというイメージはどのようにしてできあがり、それは正しいのだろうか？</p> <p>この授業を通じて受講生のラテンアメリカ認識が少しでも深まればいいと思っている。</p>		<p><u>現代ラテンアメリカの概要</u> (米国と向き合う、「ほかの道」の模索)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術、音楽、映画、文学を通じたラテンアメリカへの接近 ・キューバ革命からチリ革命、サンディニスタ、ベネズエラ・チャベス政権までのラテンアメリカ現代史の流れ <p><u>ラテンアメリカの誕生</u> (「二つのアメリカ」の誕生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1492年の意味：先住民社会と植民地化 「アメリカの発明」 ・19世紀：ボリバルの夢 ・20世紀：『アリエル』、メキシコ革命 <p><u>アジア/日本とラテンアメリカ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン ・ラテンアメリカにおける中国系・日系移民 ・日本人にとってのラテンアメリカ <p><u>米国の「ラティーノ」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プエルトリコ (領域内のスペイン語世界) ・米メキシコ国境、チカーノ運動 ・ラティーノの誕生 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で示す。		授業への積極的参加 小テスト、レポート	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域文化論 ib (ラテンアメリカ) —メキシコ米関係史 地域文化論 i (ラテンアメリカ) —メキシコ米関係史	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メキシコ革命勃発から一世紀たとうとするいま、長年政権を担当してきた PRI (制度的革命党) から PAN (国民行動党) に政権が移ったことに象徴されるように、メキシコ国家は新たな方向へ舵をきったように思われる。</p> <p>さて、ではどの点が新しいのだろうか？革命は否定されたのだろうか？対米関係のありかたは、こうした問題を考える際、最も重要な論点のひとつである。この講義では、外交史ではなく北部国境地域史からの視座を大切にしながら、米国との関係を軸にメキシコ革命の性格を考えていきたい。</p>		<p>おおよそ、次のような順番で講義を進めていきたい。具体的テーマには変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本における「メキシコ革命」研究の状況整理 2) 現代メキシコのうごき (サパティスタ蜂起と NAFTA 発効・フォックス政権の誕生、憲法改正など) から論点を抽出 3) 革命前史 1910年まで メキシコ独立とテキサス共和国の成立/米メキシコ戦争/メキシコ北部の米国経済圏編入/最後の先住民戦争 4) 革命過程 1910年から1938年まで サパタ/マデロ政権の成立とマデロ暗殺/パンチョ・ビリャと米国の干渉/米国への移民/カルデナス期 5) 革命文化と米国文化 1920年代以降 壁画運動/フリーダ・カーロ/「革命インディヘニズム」など 6) 「メキシコ革命」研究の現状 	
テキスト、参考文献		評価方法	
一次資料(西、英、日)なども用意したい。		授業への積極的参加 小テスト、レポート	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域文化論 iia 地域文化論 ii (スペイン)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。</p> <p>主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心にみていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。</p> <p>またスペイン語史上重要な文献や作品を実際に読むことになるので、あるレベル以上のスペイン語力が要求される。</p> <p>タイトルは通年同じであるが、1テーマ数回の授業なので、春・秋片方のみでも問題はない。</p>		<p>① Glosas Emilianenses ② Jarchas ③ Cantar de Mio Cid ④ Las Siete Partidas ⑤ Libro de Buen Amor ⑥ El Conde Lucanor ⑦ Gramática de la Lengua Castellana</p> <p>以上の作品を軸に授業を進行する。なお、扱う順序やこれ以外の作品については初回の授業で具体的に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域文化論 iib 地域文化論 ii (スペイン)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
上記参照		上記参照	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域文化論 iiiia 地域文化論 iii (中国)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>嶄鯖耐怛(麼勳頁查怛)壓海豚伏試才伏恢試強嶄侘攪、冽弄 旺音僅窟婢阻淫淒疾撰、脂卍、槓扮准晚、囂互吉壓坪嶄忽鏡 蒙議樓沒獵晒。</p> <p>勳由議嶄忽獵晒頁嶄忽繁右酷議娼舞夏源。云仁殼議縮 僥朕議頁斑僥樓宀壓僥樓查囂、戾互查囂邦岜議掛扮，孀校 序匯化阻盾啞彭励認定獵芋煽霽議嶄忽勳由獵晒噉樓沒。</p>		及1指 敢准議軟坤 及2指 維定才便槓議樓沒 及3指 卯幢議喇晒 及4指 坏稀 及5指 坏炏准 及6指 屎坨噴励綴雜菊 及7指 極伶准 及8指 嶄拍准 及9指 嶄剩准議樓沒 及10指 嶄剩准郭吳 及11指 富方耐怛議定准 及12指 需中噉棋人議撰沒	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席、レポート、試験による	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域文化論 iiib 地域文化論 iii (中国)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>嶄鯖耐怛(麼勳頁查怛)壓海豚伏試才伏恢試強嶄侘攪、冽弄 旺音僅窟婢阻淫淒疾撰、脂卍、槓扮准晚、囂互吉壓坪嶄忽鏡 蒙議樓沒獵晒。</p> <p>勳由議嶄忽獵晒頁嶄忽繁右酷議娼舞夏源。云仁殼議縮 僥朕議頁斑僥樓宀壓僥樓查囂、戾互查囂邦岜議掛扮，孀校 序匯化阻盾啞彭励認定獵芋煽霽議嶄忽勳由獵晒噉樓沒。</p>		及1指 脂灼議撰沒 及2指 軟兆付樓降式軟兆圭隈 及3指 捲蔑議耐怛蒙尤 及4指 咬奮煽霽箸霧 及5指 掴臼咬奮蒙尤(1) 及6指 掴臼咬奮蒙尤(2) 及7指 嶄忽繁議肖廖耐沒獵晒 及8指 嶄忽繁議住宥耐沒獵晒 及9指 捲蔑、咬奮議鋤蕊 及10指 囂互、佩葎議鋤蕊(1) 及11指 囂互、佩葎議鋤蕊(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席、レポート、試験による	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域経済論 ia 地域経済論 i (ラテンアメリカ)	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. まず授業の導入として、ラテンアメリカ政治経済社会構造の特質を、アジア、アフリカとの比較において理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。</p> <p>2. ついでラテンアメリカ地域の政治経済社会の歴史的変遷過程を辿り、植民地前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、政治経済構造の変容について理解する。</p> <p>3. こうした考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な政策課題を明らかにする。そしてこれらの政策課題に対する各国政府や国際機関の取り組みについて紹介する。</p> <p>4. ラテンアメリカにおける開発に関する代表的な思想、理論、政策について、中心-周辺理論、構造学派、従属論、持続可能な開発論を中心に解説する。</p> <p>5. さいごに日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代の下での日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について受講生全員で考え、討論する。主として講義形式で進め、テーマに応じてディスカッションをとり入れる。</p>		<p>1. ラテンアメリカ概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較</p> <p>2. 第1章 ラテンアメリカ経済の歴史的変遷過程 第1節 時期区分 ラテンアメリカ経済史時期区分</p> <p>3. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期（-15世紀末）コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観</p> <p>4. 第3節 植民地期（15世紀末-19世紀初め）</p> <p>5. 第4節 独立期（19世紀初め-19世紀半ば）</p> <p>6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば-1929年恐慌）</p> <p>7. 第6節 工業化から地域統合に至る時期（1929年恐慌-現在）</p> <p>8. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>9. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>10. 第3章 ラテンアメリカにおける開発の思想・理論</p> <p>11. 第3章 ラテンアメリカにおける開発の思想・理論</p> <p>12. 第4章 日本とラテンアメリカの関係 移民・経済関係を中心に</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 今井圭子編著 『ラテンアメリカ 開発の思想』 日本経済評論社 2004年。</p>		<p>授業中にリアクション・ペーパーなどを課し提出してもらう。 学期末にレポート提出。以上を合わせて評価する。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域経済論 ib 地域経済論 i (ラテンアメリカ)	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。まずラテンアメリカ経済を全体的に把握（マクロ経済）し、その特質と問題点について考察したうえで、主要な経済問題の実態と政策課題を分析する。主要な経済問題としては、つぎのような課題を取り上げる。経済開発と政治体制、経済のグローバル化とラテンアメリカの構造調整政策、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済成長と所得格差・雇用問題、開発と環境、持続可能な発展—コスタリカ・モデルなど。</p> <p>2. ラテンアメリカの開発をめぐる思想と理論について、代表的な思想家を取りあげながら学ぶ。ポリーバル（独立と内発的発展の思想）、アルベルディ（人的開発重視の自由経済思想）、プレビッシュ（中心-周辺論）、カルドーゾ（従属論、貧困対策）、ノーベル平和賞受賞者アリアス（非武装平和・積極的中立と持続可能な開発の思想）、同メンチュウ（先住民解放の思想）。</p> <p>3. 日本とラテンアメリカの関係について、移民、外交、貿易、投資、経済協力等の文献を読みながら考察する。講義、関連文献購読、ディスカッション等の形で授業を進める。</p>		<p>1. 序 ラテンアメリカ経済概観</p> <p>2. 第1章 ラテンアメリカ経済の現状と特質 第1節 マクロ経済概況</p> <p>3. 第2節 経済開発と政治体制—経済発展と民主化</p> <p>4. 第3節 経済のグローバル化とラテンアメリカの構造調整政策</p> <p>5. 第4節 WTOと経済統合・自由貿易協定</p> <p>6. 第5節 経済成長と所得格差・雇用問題</p> <p>7. 第6節 持続可能な発展—環境と開発</p> <p>8. 第2章 ラテンアメリカにおける開発の思想 第1節 ポリーバル（内発的発展の思想） 第2節 アルベルディ（人的開発重視の自由思想） 第3節 プレビッシュ（中心-周辺論） 第4節 カルドーゾ（構造学派、貧困対策）</p> <p>10. 第5節 アリアス（非武装平和・持続可能な開発） 第6節 メンチュウ（先住民解放・地域共同体の思想）</p> <p>11. 第3章 日本とラテンアメリカの関係 移民、外交に関する文献購読</p> <p>12. 第3章 貿易、投資、経済協力—日本の対ラテンアメリカ政策のあり方（ディスカッション）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>今井圭子編著『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004年。今井・堀坂・斉藤共著『民主化と経済発展—ラテンアメリカABC3国の経験』上智大学、1997年。</p>		<p>授業中に課したリアクション・ペーパーとさいごの授業までに提出するレポートを合わせて評価する。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域経済論 iia 地域経済論 ii (アジア)	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、オーストラリアを中心に上げる。但し、オーストラリアを理解するために必要な場合は、他のアジア太平洋諸国についても言及する。</p> <p>近年、オーストラリアは、先進国の中でトップクラスの好調な経済運営を続ける国として、また、自国およびアジア太平洋地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、さらに、多様な文化の維持、発展に努め、世界で最も人気の高い移住先国、留学先としても知られている。しかし、同国は70年代中期から80年代にかけては、経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであった。また、かつては名だたる保護貿易主義国であり、有色人種移民を排除する人種差別国家でもあった。オーストラリアがこのような政策転換を行った理由は何か。新政策はどのような変化をもたらしてしてきたのか。この講義では、このような課題について、経済的視点を中心に据えながら、自然環境、歴史条件、文化的背景、政治社会体制、地政学的環境など、多様な切り口から解明する。これらの切り口の中で、春学期においては、自然条件、歴史条件、および、1970年代初頭までの、文化的背景について取り上げる予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的。地域研究の意義。ビデオ教材によるオーストラリア社会概観。 2 総論：オーストラリア社会構造変化の大きな流れ(1) 3 総論：オーストラリア社会構造変化の大きな流れ(2) <p><注意> この「総論」は、年間を通じるこの講義の基本的なメッセージ(仮設)を述べるもので特に重要。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 歴史：流刑囚労働と羊毛産業の発展 5 歴史：金発見とその影響(1) 6 歴史：金発見とその影響(2) 7 歴史：平等主義、仲間主義の起源。 ：19世紀に30年続いた好況 8 歴史：1890年代の恐慌とその影響 9 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(1) 10 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(2) 歴史：経済ナショナリズム 11 文化：エトス、アイデンティティ問題 12 文化：アボリジニ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント中心。なお、テキストとしては使用しないが、次の書物は講義を理解する上で有用。竹田いさみ。森健編『オーストラリア入門』東大出版会 2005年(第5刷)</p>		定期試験	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域経済論 iib 地域経済論 ii (アジア)	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的と概要については春期「地域経済論 iia」を参照。秋期では、春期に引き続き、多文化社会化政策、政治社会体制、対外経済政策、産業構造変化、日豪関係などを切り口としてオーストラリアを分析する。なお、この講義は事実上、1年間で完結しているため、春期の講義を履修しておくこと。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 前期講義の復習を兼ねたオーストラリア歴史概観 2 移民政策の変化 3 女性進出と家族 4 多文化主義社会化政策導入の経緯 5 反多文化主義の流れ 6 政治システム 7 1970年代以前の主要政策体系 8 ホーク＝キーティング労働党政権の政策(1) 9 ホーク＝キーティング労働党政権の政策(2) 10 ハワード保守連立政権の政策(1) 11 ハワード保守連立政権の政策(2) 12 日豪関係 	
テキスト、参考文献		評価方法	
(春期「地域経済論 iia」に同じ)		(春期「地域経済論 iia」に同じ)	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域経済論 iiiia 地域経済論 iii (中国)	担当者	駒形 哲哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、その動向が、今や世界の経済に大きなインパクトをもたらすようになった中国経済を中心に論ずる。今年度は、通論的な地域経済論とは趣を変え、東アジアの経済成長と中国の体制移行をとともによく体現していると考えられる「中小企業」「産業集積」を切り口に、論じていく予定である。雇用の場、起業家の自己実現の場、市場の変化へ迅速で弾力的な対応が可能な供給者として、中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在である。ただし、現在の中国では、中小企業の役割・性質は市場経済におけるそれにとどまらず、移行期に固有の役割や問題を含んでいる。そこでこの講義では、中国における中小企業の現状、政策と問題点について、主に実際に調査を行なった個別事例にもとづきながら論じていく。</p>		<p><中国の中小企業></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ中小企業なのか?①—計画から市場へ 2. なぜ中小企業なのか? ②—中小企業と民営企業 3. なぜ中小企業なのか?③—グローバル化の下で 4. 村の経済と企業①—人民公社と農村改革 5. 村の経済と企業②—対外開放と市場経済化 6. 村の経済と企業 ③—公的所有の限界と社会変容 7. 産業のつながりと中小零細企業 ①—アジア最大の市場 8. 産業のつながりと中小零細企業 ②—地域産業連関 9. 産業のつながりと中小零細企業 ③—持続的発展の課題 10. 体制改革と「産業集積」 ①—世界の自転車産地・中国 11. 体制改革と「産業集積」 ②—国有企業の分解と民営企業の形成 12. 体制改革と「産業集積」 ③—北上する産地と東アジア 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>拙著『移行期・中国の中小企業—産業発展と地域変容』(仮題) 税務経理協会, 2005年(刊行予定) その他必要に応じて資料を配布する。</p>		<p>毎回の出席と学期末の試験の結果による。</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	地域経済論 iiib 地域経済論 iii (中国)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、今や世界の一つの極をなすようになった中国・東アジア経済の現状を実態にそくして論ずる。今年度は、通論的な地域経済論とは趣を変え、東アジアの経済成長と中国の体制移行をとともによく体現していると考えられる「中小企業」を切り口に、論じていく予定である。雇用の場、起業家の自己実現の場、市場の変化への迅速で弾力的な対応が可能な供給者として、中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在であり、現在の東アジアにおける国際分業のありようにも中小企業は大きな影響を与えている。そこでこの講義では、移行期にある中国における中小企業の現状、政策と問題点を、中国大陸のほか、台湾・韓国など、東アジア諸地域の中小企業の状況も参照しつつ論じていく。可能であれば、東アジア・中国経済論 a とあわせて履修されたい。</p>		<p><中国の中小企業と東アジアの中小企業></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国：東アジア経済と中小企業 2. 中国：商品経済のエッセンスとネットワーク 3. 中国：商品経済のエッセンスと 計画経済の成果との結合 4. 中小企業金融の現実① 5. 中小企業金融の現実② 6. 台湾：中小企業中心の経済発展① 7. 台湾：中小企業中心の経済発展② 8. 台湾：中小企業中心の経済発展③ 9. 韓国：財閥体制と中小企業 10. 韓国：財閥体制の解体と中小企業① 11. 韓国：財閥体制の解体と中小企業② 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>駒形哲哉『移行期・中国の中小企業—産業発展と地域変容』(仮題) 税務経理協会, 2005年(刊行予定) その他必要に応じて資料を配布する。</p>		<p>毎回の出席と学期末の試験の結果による。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	比較社会論 a 比較社会論	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>どの社会もそれぞれ独自の人間関係のあり方、それを基礎にした組織、またそのような関係や組織についての認識の仕方をもっている。これを理解してゆくために、ほぼどの社会にもその存在が認められている、最小単位としての「家族」を取り上げ、る。この「家族」をさまざまな側面から検討してゆくことによって、その社会の特質を理解しようとする。</p> <p>「家族」は婚姻によって成立する。そこでさまざまな社会の婚姻慣習とその意味を考え、それを基礎に形成された「家族」について、その構成、成員間の関係、単位としての性格などを考えてゆく。そこにそれぞれの社会の特質を理解する鍵が得られる。</p>		<p>左の目的に沿って、婚姻慣習を取り上げ、そのさまざまな実態と、社会におけるその意味とを考えてゆく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはない。参考文献は随時紹介する。また必要な文献や資料はコピーして配布する。</p>		<p>試験およびレポートを予定しているが、受講者の数によって考慮する。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	比較社会論 b 比較社会論	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上に同じ。</p>		<p>家族について、その構成、成員間の関係、単位としての性格、あるいは社会のなかでの位置など、実例を通して考えてゆく。いくつかの論文については、読んで発表してもらうことにする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>読んで発表してもらう論文を何篇か用意してある。それはコピーして配布する。他の参考文献については随時紹介する。</p>		<p>試験およびレポートを予定しているが、受講者の数によって考慮する。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活a) 地域研究特殊講義A(森林地域における風土と生活)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、日本の森林と対比しながら熱帯雨林の生態や開発態様を参考にして、人間と風土との関わりを地理学的視点から明らかにしていく。</p> <p>熱帯雨林を取り上げ、熱帯林が存在するアジア、アフリカ、中南米など個々の地域を取り上げながら、熱帯林の生態と開発問題を検討し、地域的、地球的視点から、環境、文化、経済に及ぼす影響を考察する。また、熱帯林の保全のために、どのようなオプションが有効なのかを検討し、環境NGOなどのこれまでに果たしてきた役割について考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義を受講するにあたっての心構えと、講義方法・講義内容についてのオリエンテーション 2. 一次生産者としての森林の重要性 3. 世界の森林・日本の森林－温量指数と乾燥指数 4. 熱帯林地域の自然環境の特質 5. 熱帯林の森林としての構造－熱帯雨林と季節林 6. マングローブ林の生態 7. 熱帯林の動植物と食物連鎖－生物学的多様性 8. 熱帯雨林の土壌 9. 熱帯雨林の生態と環境保全機能 10. 熱帯林の開発の過程と破壊の核心地域 11. 様々な開発形態と開発速度 12. 薪炭材の生産と伝統的な焼畑耕作 	
テキスト、参考文献		評価方法	
クリス・C. パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会		定期試験等による	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活b) 地域研究特殊講義A(森林地域における風土と生活)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、日本の森林と対比しながら熱帯雨林の生態や開発態様を参考にして、人間と風土との関わりを地理学的視点から明らかにしていく。</p> <p>熱帯雨林を取り上げ、熱帯林が存在するアジア、アフリカ、中南米など個々の地域を取り上げながら、熱帯林の生態と開発問題を検討し、地域的、地球的視点から、環境、文化、経済に及ぼす影響を考察する。また、熱帯林の保全のために、どのようなオプションが有効なのかを検討し、環境NGOなどのこれまでに果たしてきた役割について考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口爆発と集落再編計画 2. 商業的木材生産による森林破壊 3. プランテーション経営と牧畜業 4. ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊 5. 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下 6. 熱帯雨林破壊による気候変化と地球の温暖化 7. 熱帯雨林破壊の経済・環境・文化の損失 8. 熱帯雨林における「森林の民」の苦境と、森林文化の崩壊 9. 熱帯林破壊をくい止める可能な解決策 10. 持続可能な森林利用－エコツーリズムの試み－。 11. 森林の民から学ぶべきこと－NGOの架け橋。 12. まとめ－再考：人間と自然のかかわり。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
クリス・C. パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会		試験等による	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民族と文化 a) 地域研究特殊講義 A(カリブ海域の民族と文化)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私の研究対象であり、実地調査も行っているカリブ海域社会について、概括的な知識を得ると同時に、その特質を知る。</p> <p>カリブ海域は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまず、その歴史をある程度時間をかけて明らかにする。その後、その歴史を基礎にした複雑な民族構成、民族間の関係を述べ、さらにカリブ海域の特徴とされるクレオール語を中心とした複雑な言語および言語構成について明らかにする。最終的には「クレオール」という言葉で示される意味について、その特質を考えることができるように話をしていきたい。</p>		カリブ海域の概略、歴史、民族などの話をする。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		試験およびレポートを考えているが、受講者の数によって考慮する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民族と文化 b) 地域研究特殊講義 A(カリブ海域の民族と文化)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
上に同じ。		民族について若干残りの話をし、次いで言語について述べる。独特な言語の形成、社会における複雑な言語構成、それらの言語間の関係などを明らかにする。それ以外の文化に触れる余裕があれば触れ、それらを通して文化の特質、文化や社会の問題点などにも言及する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		試験およびレポートを考えているが、受講者の数によって考慮する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域社会文化論特殊講義 a (東西文化を結ぶもの) 地域研究特殊講義 A (東西文化を結ぶもの)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) 西アジア地域、とくにイスラーム勃興以降の時代について、歴史と社会を考察しながら、「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい</p> <p>今日の「東洋」という概念は、「西洋」の主観が生み出した産物だが、ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。</p> <p>(講義概要) 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、ひとつのトピックにほぼ3回ずつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。</p>		<p>1 A ; キリスト教の広がり と アジア世界。 その1</p> <p>2 同 その2</p> <p>3 同 その3</p> <p>4 B ; イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。 その1</p> <p>5 同 その2</p> <p>6 同 その3</p> <p>7 C ; 十字軍・レコンキスタとその時代。 その1</p> <p>8 同 その2</p> <p>9 同 その3</p> <p>10 D ; 2つの旅行記 (マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ) と 当時の世界。 その1</p> <p>11 同 その2</p> <p>12 同 その3</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		レポートによる	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域社会文化論特殊講義 b (東西文化を結ぶもの) 地域研究特殊講義 A (東西文化を結ぶもの)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) 地域社会文化論特殊講義 a と同じ。b ではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と、それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。</p> <p>(講義概要) 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、ひとつのトピックにほぼ3回ずつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。</p>		<p>1 E ; 大航海時代とその後。アジアと近代ヨーロッパの出会い。 その1</p> <p>2 同 その2</p> <p>3 同 その3</p> <p>4 F ; 西アジアにおけるさまざまな近代化。 その1</p> <p>5 同 その2</p> <p>6 同 その3</p> <p>7 G ; 帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。 その1</p> <p>8 同 その2</p> <p>9 同 その3</p> <p>10 H ; 旧ソ連諸国や旧ユーゴスラビア諸国における民族・宗教意識。 その1</p> <p>11 同 その2</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		レポートによる	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニックヒストリーa) 地域研究特殊講義A(英語圏のエスニックヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◆講義目的、講義概要 (前期)ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつつユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究(多数派英国人側に視点を置いた英国史研究)の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。</p> <p>1回から12回までの講義は下記テキストを使用して行う。13回以後はテキストはありません。尚、秋学期の三分は講義形式でなくビデオの合評会形式で行う。</p> <p>評価は前後期各1回の筆記試験とビデオの感想文(枚数不問)によって決定する。課題ビデオの選定は受講者の顔ぶれをみて決める。尚、出席をとるかとりらないかも受講者の人数をみて決めたい。</p> <p>◆評価方法 筆記試験により評価を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 儀式殺人告発の神話 2. 中世英国のユダヤ人社会 3. 諸侯・騎士・教会・都市とユダヤ人との関係 4. 中世英国ユダヤ人金融の潜在的機能とユダヤ人追放命令 5. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290~1656年 6. 千年王国思想とユダヤ人再入国 7. 17~18世紀英国の外国貿易とユダヤ人 8. 英国人地主貴族社会への同化現象 9. ドイツ系ユダヤ移民の流入によって生じた貧民問題 10. 19世紀末~20世紀初め、移民排斥と反ユダヤ暴動発生メカニズム 11. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ 12. 現代英国ユダヤ人社会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『英国ユダヤ人』佐藤唯行(1995年、講談社選書1600円)			

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニックヒストリーb) 地域研究特殊講義A(英語圏のエスニックヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◆講義目的、講義概要 (後期)英国内にくらす代表的マイノリティーである黒人、インド・パキスタン系、アイルランド系の歴史と現状を探ることで、これまで見えてこなかった英国社会の特質を明らかにする。</p> <p>尚、3回程、ビデオ作品の合評会形式の授業を行う。</p> <p>◆評価方法 筆記試験とビデオ合評会のプレゼンテーションによって評価を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 映画で学ぶ英国ユダヤ人問題 「炎のランナー」を素材として1920年代の英国の大学を舞台とするユダヤ人・非ユダヤ人の関係を探る。 2. 映画で学ぶ英国黒人問題 「祖国と女王のために」を素材として1980年代英国における黒人問題を考える。 3. 映画で学ぶユダヤ人差別問題 「紳士協定」を素材としてユダヤ人差別のメカニズムを考える。 4. 現代英国の非白人集団、文化人類学的理解の枠組。 5. 在英黒人史、18世紀黒人サーヴァントと英国下層階級との交際・結託。 6. 絵画史料の中にみられる黒人イメージ17~19世紀、その1 絵画を中心に。 7. 絵画史料の中にみられる黒人イメージ17~19世紀、その2 版画を中心に 8. 在英黒人史、法的地位をめぐる論争。 9. 西インド系黒人の英国定住。 10. 在英アイルランド人史 その1。 11. 在英アイルランド人史 その2。 12. 現代英国のパキスタン系について。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回講義レジメを配布		試験等による	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域社会文化論特殊講義(ラテンアメリカの歴史 a) 地域研究特殊講義A(ラテンアメリカの歴史)	担当者	G. T. ヨシカワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will cover the Latin American history from 12th to 15th Century. It is the Classical Period of the Mesoamerican region with Maya culture and Aztec Empire, the Wari Culture and Inca Empire in the South American region. We will study the economical and political areas during the first semester. During the second semester we will view the social, cultural (art, architecture, religion, etc.) and other fields of the same cultures and empires.</p>		<p>We will begin reviewing briefly the Pre-classical and Pre-Incas cultures to understand the historical process developed previously in the regions. The students will have to read materials in Spanish, English and Japanese. The students may have to look for more information to produce their own presentation in class. It has to be in PowerPoint. The students are going to answer several quizzes and prepare time charts during the semester. We will conduct class debates and discussion in Spanish and Japanese.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printed material, Internet web pages provide by the teacher		<ol style="list-style-type: none"> 1. Several quizzes during the semester 2. Student PowerPoint presentation in class 3. Attendance 4. Final test 	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域社会文化論特殊講義(ラテンアメリカの歴史 b) 地域研究特殊講義A(ラテンアメリカの歴史)	担当者	G. T. ヨシカワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will cover the Latin American history from 12th to 15th Century. It is the Classical Period of the Mesoamerican region with Maya culture and Aztec Empire, the Wari Culture and Inca Empire in the South American region. We will study the economical and political areas during the first semester. During the second semester we will view the social, cultural (art, architecture, religion, etc.) and other fields of the same cultures and empires.</p>		<p>We will begin reviewing briefly the Pre-classical and Pre-Incas cultures to understand the historical process developed previously in the regions. The students will have to read materials in Spanish, English and Japanese. The students may have to look for more information to produce their own presentation in class. It has to be in PowerPoint. The students are going to answer several quizzes and prepare time charts during the semester. We will conduct class debates and discussion in Spanish and Japanese.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printed material, Internet web pages provide by the teacher		<ol style="list-style-type: none"> 1. Several quizzes during the semester 2. Student PowerPoint presentation in class 3. Attendance 4. Final test 	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術a) 地域研究特殊講義A(アラブ文化・芸術)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>9・11テロを契機に、西側社会ではイスラーム文明、その大要を成すイスラーム教への関心が深まった。本講義では、イスラーム教理解を第一義の目標としながら、アラブ・文化芸術に甚大な影響を与えた同教の「神秘主義(Sufism)」を取り上げる。</p> <p>毎時間の講義は(1)『Atlas of the Islamic World since 1500』(by Francis Robinson)の購読(2)神秘主義の連禱(ズィクル)はじめアラブ社会(アラブ人の生活や芸術)のビデオ紹介の2部構成とする。</p>		1 (イントロダクション) イスラーム教預言者ムハンマドの生涯の解説など	
		2 テキストの購読。Part One「Revelation and Muslim History」The spread of Islam 622-1000	
		3 同上 The spread of Islam 622-1000 続	
		4 同上 The spread of Islam 622-1000 続	
		5 同上 The spread of Islam 622-1000 続	
		6 同上 The spread of Islam 622-1000 続	
		7 同上 The nomad invasions	
		8 同上 The nomad invasions 続	
		9 同上 The nomad invasions 続	
		10 同上 The nomad invasions 続	
		11 同上 The shaping of Islamic life :the law	
テキスト、参考文献		評価方法	
R.A ニコルソン著『イスラームの神秘主義』(平凡社、1996年)		出席率とレポートによる	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術b) 地域研究特殊講義A(アラブ文化・芸術)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>9・11テロを契機に、西側社会ではイスラーム文明、その大要を成すイスラーム教への関心が深まった。本講義では、イスラーム教理解を第一義の目標としながら、アラブ・文化芸術に甚大な影響を与えた同教の「神秘主義(Sufism)」を取り上げる。</p> <p>毎時間の講義は(1)『Atlas of the Islamic World since 1500』(by Francis Robinson)の購読(2)神秘主義の連禱(ズィクル)はじめアラブ社会(アラブ人の生活や芸術)のビデオ紹介の2部構成とする。</p>		1 同上 The shaping of Islamic life :the law 続	
		2 同上 The shaping of Islamic life :the law 続	
		3 同上 The shaping of Islamic life :the law 続	
		4 同上 The shaping of Islamic life :the law 続	
		5 同上 The shaping of Islamic life :mysticism	
		6 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続	
		7 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続	
		8 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続	
		9 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続	
		10 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続	
		11 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続	
		12 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続	
テキスト、参考文献		評価方法	
R.A ニコルソン著『イスラームの神秘主義』(平凡社、1996年)		出席率とレポートによる	

03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史) 地域研究特殊講義B(地中海世界の歴史)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◆講義目的</p> <p>本講座は、副題に「地中海世界の歴史」と銘打ち、新しい21世紀以降の人間の文明の歴史の行方とその意味を問うべく、これまで大きな役割果たしてきた地中海地域世界の歴史を総括し、諸文明の出会いの場、歴史の舞台としての地中海世界の意味を改めて考えることを目的とする。</p> <p>◆講義概要</p> <p>本年度は特に、「歴史と神話」に焦点を絞り、両者が密接な関係をもって考えられていたことを具体的な神話をもとに考察する。講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画、LDなどできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出るようなアットホームな雰囲気できじんまりと進めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> はじめに 歴史を学ぶ意味、地中海世界への視点を提起する。 神話と歴史 歴史と神話がどのように実際に関係していたか？ テーベ伝説圏の神話(1) ディオニュソス信仰とペンテウスの非元気 テーベ伝説圏の神話(2) オイディプスの悲劇と「知ること」の意味 アテナイ伝説圏の神話(1) アテナイ建国神話 アテナイ伝説圏の神話(2) テセウスとアテナイ民主政。 アルゴス伝説圏の神話(2) ミケーネ世界とアトレウス家の悲劇 アルゴス伝説圏の神話(2) トロイア戦争とその歴史性 アルゴス伝説圏の神話(3) アルゴス伝説圏の神話(4) ローマの建国神話とアイネイアス 神話と考古学 各地の遺跡と伝承 おわりに 神話の現代的意味 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、参考文献は初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布する。		学期末のレポートと1~2回の小報告に、出席点を加味して総合的に評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	比較文化論特殊講義(日中文化比較論 a) 比較文化論特殊講義 A(日中文化比較論)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国と日本の現代における生活文化の比較検討をおこない、それぞれの特質を明らかにすることを目的とする。</p> <p>類似した内容に関する日本語と中国語の資料を用意するので、それを授業前に読んでおくことをもとめる。そのうえで授業では、随時、中国語または日本語をもちいて、資料内容の説明とそこからかんがえられる問題についてのディスカッションをおこなう。</p> <p>履修者は、日本語と中国語を両方とも授業中にもちいるという前提で、積極的に参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国と日本の家 3. 中国と日本の恋愛 4. 中国と日本の育児 5. 中国と日本の食事 6. 中国と日本の教育 7. 中国と日本の音楽 8. 中国と日本の遊び 9. 中国と日本の友人関係 10. 中国と日本の酒 11. 中国と日本の町並み 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用する。		出席・レポート・試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	比較文化論特殊講義(日中文化比較論 b) 比較文化論特殊講義 A(日中文化比較論)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>进入 21 世纪, 全球化进一步发展, 人们接近与交往的日益频繁, 日本和中国比已往任何一个时期或时代, 都需要加深了解沟通和增加信任。对这两个民族来说排除情绪化因素, 互相沟通了解和增加信任, 恐怕了解对方的 GNP 更重要。</p> <p>对不同文化的比较研究, 能够使人们开阔视野, 更好的理解和尊重与自己完全异质的文化, 同时也能够对自身的文化有更深刻的了解。了解不同文化之间的共同性和差异性, 不仅是解决日中之间存在问题的基本所在, 更是避免冲突以使日中和平友好发展的前提之一。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 - 2 周 “四合院”与“榻榻米” 3 - 4 周 “红楼梦”与“源氏物语” 5 - 6 周 “人情世故”与“义理人情” 7 - 8 周 “名”与“耻” 9 - 10 周 社会集团和现代化 11 - 12 周 日中称谓语比较 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用する。		出席・レポート・試験による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化) 比較文化論特殊講義A(グローバリゼーションと文化変容)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>それぞれ異なった文化を比較することによって、何が見えてくるだろうか。文化Aと文化Bとを「比較する」ということは、どのようなことか。そして、文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのだろうか。</p> <p>本講義では以上のような問題意識をもって、すすめていく。キーワードは「グローバリゼーション」と「ローカル文化」である。</p> <p>1980年代、グローバリゼーションはローカル文化を破壊する力を持つと思われてきた。しかし近年、民族独立運動や自文化中心主義的な動きの活発化とグローバル化とは、同時に起こる現象であることも注目されるようになってきた。このグローバル化/ローカル化の同時性に着目しながら、「異文化を比較すること」について考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ——異文化を比較すること 2. 「われわれ」と「かれら」の境界 3. ローカルなものの生成とグローバリゼーション 4. 異文化を比較する(1) ——時間と空間 5. 異文化を比較する(2) ——フォーマット化 6. 異文化を比較する(3) ——【ローカル】vs.《ローカル》 7. 異文化を比較する(4) ——他者性とコミュニケーション 8. 比較可能性と文化相対主義(1) 9. 比較可能性と文化相対主義(2) 10. 異文化の翻訳可能性について(1) 11. 異文化の翻訳可能性について(2) 12. 異文化の翻訳可能性について(3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート(毎回、講義に関連した小レポートを課す)	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容) 比較文化論特殊講義A(グローバリゼーションと文化変容)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、春学期に引き続きグローバリゼーションとローカル文化を扱うが、とくに「文化の融合」あるいは「文化変容」という現象に注目したい。具体的な事例について、資料映像・記事などを用いつつ、多角的な視点からディスカッションする。</p> <p>右の授業計画に挙げた具体例は、あくまで予定であり、履修者の関心・希望によっては、変更あるいは追加もありうるので、授業内のディスカッションには積極的に参加してもらいたい。</p> <p>なお、履修を希望する学生は、できるだけ春学期の「比較文化論特殊講義」もあわせて履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. グローバル社会における文化変容 ——グローカリゼーションと文化 3. 異文化を比較する(1) 上方落語と江戸落語 4. 異文化を比較する(2) 未定 5. 異文化を比較する(3) 未定 6. 異文化を比較する(4) 未定 7. 文化の融合(1) ——衣食住 8. 文化の融合(2) ——大衆文化 9. 文化の融合(3) ——アジアにおけるキリスト教 10. 文化の融合(4) ——未定 11. Glocalization(1) ——地域文化の復興 12. Glocalization(2) ——作られた「伝統」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート(毎回、講義に関連した小レポートを課す)	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際関係概論 a 国際関係概論	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっています。第一部は、国際関係論の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明します。そして第二部では冷戦時代の国際政治を概観します。</p> <p>なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく予定です。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けます。</p> <p>本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えてください。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けていますので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)(第1・2週) 2. 国際関係の特質～国際関係論どのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？(第3・4週) 3. 国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？(第5・6週) 4. 中間試験実施(第7週) 5. 冷戦～冷戦どのように始まり、その後どのように展開したのか？(第8・9週) 6. 相互依存と国際関係～グローバリゼーションは国際関係にどんな変化をもたらしたのか？(第10・11週) 7. 核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？(第12週) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の講義で詳しい参考文献リストを配布します。		中間試験と学期末のブックレポートによる評価。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際関係概論 b 国際関係概論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>変化が激しい現代の国際社会を把握し、自らの視点と判断力を養うために不可欠な国際関係の基礎知識と分析方法を習得する。特に、国際社会の様々な主体(国家、国際機関、NGO など)の関係を、その構造やコミュニケーションのあり方などを中心に多角的に学ぶ。</p> <p>講義は以下の2つのパートから構成される。</p> <p>(1)冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説する。</p> <p>(2)冷戦崩壊後(ポスト冷戦期)の国際社会で起こっている事象(ヒト・モノ・カネ・情報のグローバリゼーションにかかわる現象)を取り上げ、歴史的背景、現状分析、国際関係へのインパクトなどを盛り込みながら、国際社会の構造変化について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは-国家と国際社会 2. 冷戦の構造(1) 構造 3. 冷戦の構造(2) 起源 4. 冷戦の構造(3) 特徴 5. 冷戦の展開(1) 戦争(1) 6. 冷戦の展開(2) 戦争(2) 7. 冷戦の展開(3) 崩壊 8. ポスト冷戦期の国際社会(1) 9. ポスト冷戦期の国際社会(2) 10. ポスト冷戦期の国際社会(3) 11. ポスト冷戦期の国際社会(4) 12. ポスト冷戦期の国際社会(5) <p>(初回の授業時に詳細な授業計画を配布する)</p> <p>* なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献は各授業で紹介する。		学期末半ば提出のレポートと学年末試験の成績に基づく。レポートはワープロ指定で2000字以上。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際関係概論 a 国際関係概論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>変化が激しい現代の国際社会を把握し、自らの視点と判断力を養うために不可欠な国際関係の基礎知識と分析方法を習得する。特に、国際社会の様々な主体(国家、国際機関、NGOなど)の関係を、その構造やコミュニケーションのあり方などを中心に多角的に学ぶ。</p> <p>講義は以下の2つのパートから構成される。</p> <p>(1) 冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説する。</p> <p>(2) 冷戦崩壊後(ポスト冷戦期)の国際社会で起こっている事象(ヒト・モノ・カネ・情報のグローバル化にかかわる現象)を取り上げ、歴史的背景、現状分析、国際関係へのインパクトなどを盛り込みながら、国際社会の構造変化について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは-国家と国際社会 2. 冷戦の構造(1) 構造 3. 冷戦の構造(2) 起源 4. 冷戦の構造(3) 特徴 5. 冷戦の展開(1) 戦争(1) 6. 冷戦の展開(2) 戦争(2) 7. 冷戦の展開(3) 崩壊 8. ポスト冷戦期の国際社会(1) 9. ポスト冷戦期の国際社会(2) 10. ポスト冷戦期の国際社会(3) 11. ポスト冷戦期の国際社会(4) 12. ポスト冷戦期の国際社会(5) <p>(初回の授業時に詳細な授業計画を配布する)</p> <p>* なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献は各授業で紹介する。		学期末半ば提出のレポートと学年末試験の成績に基づく。レポートはワープロ指定で2000字以上。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際関係概論 b 国際関係概論	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっています。第一部は、国際関係論の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明します。そして第二部では冷戦時代の国際政治を概観します。</p> <p>なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく予定です。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けます。</p> <p>本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えてください。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けていますので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か?(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)(第1・2週) 2. 国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か?(第3・4週) 3. 国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか?(第5・6週) 4. 中間試験実施(第7週) 5. 冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか?(第8・9週) 6. 相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか?(第10・11週) 7. 核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか?(第12週) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の講義で詳しい参考文献リストを配布します。		中間試験と学期末のブックレポートによる評価。	

03年度以降(春)	国際機構論 a	担当者	松田 幹夫
02年度以前(春)	国際機構論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は、国際組織への法的アプローチ。 講義概要は、おもな国際組織のみを重点的にとりあげる。可能な限り日本との関係について言及するのが特色。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 2 国際組織の歴史 3 国際連盟の成立と解散 4 国際連盟の構造と機能 5 委任統治 6 P C I J 7 国連の成立 8 国連加盟国 9 国連の構造と機能 (1) 10 国連の構造と機能 (2) 11 国連の集団安保体制 12 PKO 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。 参考文献は、毎回配布するレジюме末尾に掲げる。</p>		<p>定期試験(論述式) 参照一切不可</p>	

03年度以降(秋)	国際機構論 b	担当者	松田 幹夫
02年度以前(秋)	国際機構論		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 信託統治と非自治地域 2 ICJ(1) 3 ICJ(2) 4 世界人権宣言の成立まで 5 国際人権規約の成立以後 6 冷戦期からポスト冷戦期にかけての国連 7 NATO 8 欧州統合への動き 9 欧州統合の始まり 10 EC 11 EU(1) 12 EU(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03年度以降(春)	地球環境論 a (地理学)	担当者	犬井 正
02年度以前(春)	地球環境論 (地理学)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー地理学とは 2. 環境の諸要素(1) 気候環境 3. 環境の諸要素(2) 緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素(3) 植生 5. 熱帯地域(1) 熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域(2) 熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域(3) 熱帯林の保全 8. 沙漠地域(1) 自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 亜寒帯森林地域(1) タイガの中の生活 11. 亜寒帯森林地域(2) タイガの開発と保全 12. まとめ 	
テキスト		評価方法	
山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験等	

03年度以降(秋)	地球環境論 b (地理学)	担当者	犬井 正
02年度以前(秋)	地球環境論 (地理学)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地形環境を概観し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し、自然生態系と社会生態系の枠組みを理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の諸要素ー地形環境 2. 山地地域(1) 山地の自然環境 3. 山地地域(2) 高度帯の利用と伝統的生業 4. 山地地域(3) 山地資源の開発と観光化 5. 地中海森林地域の特性 6. 地中海地域の生活様式ー西欧文化の原点 7. 温帯草原地域の自然特性 8. 温帯草原地域の開発と環境問題 9. 温帯混合林地域(1) 高密度都市化地域の特性 10. 温帯混合林地域(2) 産業革命と都市域の拡大 11. 世界の環境問題 自然生態系と社会生態系の概念 12. まとめ 自然環境の保全と保護 	
テキスト		評価方法	
山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験等	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地球環境論 a (植物学) 地球環境論 (植物学)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 日本人と日本の文化を考える基礎となるはずの日本の自然環境を理解することを目的とする。</p> <p>講義概要 ヒトの活動が大きく地球環境を改変してきたが、その様子を知るために、主として北半球各地の環境の異同を身近な植物や動物を例に説明する。</p>		<p>次の内容の講義を数回ずつ行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 エコシステムとは 2 世界の気候帯 3 植生と文化 4 世界遺産条約 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		テスト、レポートで評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地球環境論 b (植物学) 地球環境論 (植物学)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 地球規模で自然をどのように守るために我々はどうすべきかを考える。</p> <p>講義概要 日々のニュースの中から、保護に関する出来事を紹介しつつ、学生諸君にも考えてもらう。</p>		<p>次の内容の講義を数回ずつ行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然保護運動 2 ワシントン条約 3 ラムサール条約 4 世界遺産条約 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		テスト、レポートで評価する。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	地球環境論 a (太陽系) 地球環境論 (太陽系)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<p>☆我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。他の惑星とは異なり、地球上では諸環境のお蔭で生物が誕生・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の実状を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。</p> <p>☆『地球環境論 a』(太陽系)で、このお蔭の内容を知り、地球を率先して愛おしみ慈しむ意識が少しでも湧いて来ればと思います。</p> <p>☆視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>☆関連する内容の英文も時折読みます。</p> <p>☆主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で先を考え、且つ勇気をもって実行して下さい。実行を伴ってこそ環境論を学んだ意味が活かされます。</p>			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<p>☆ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『現代天文学要説』内海和彦、田辺健茲、吉岡一男 著・朝倉書店)</p>		<p>☆主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう評価用紙 (宿題・Quiz) の中身です。</p>	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	地球環境論 b (太陽系) 地球環境論 (太陽系)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<p>※『地球環境論 b』は、上記『地球環境論 a』の知識を前提として講義します。</p> <p>※地球は宇宙を支配する自然法則のもとに存在しています。宇宙で起こっていることは地球にも起こります。月には沢山の Craters があります、小天体衝突の名残です。地球にも Craters が発見されています。地球も宇宙からの訪問を受けているのです。</p> <p>※『地球環境論 b』では宇宙からの訪問の話題を取り上げて、地球を守ることの意味を考えてみます。</p> <p>※視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>※関連する内容の英文も時折読みます。</p> <p>※主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で先を考え、且つ勇気をもって実行して下さい。実行を伴ってこそ環境論を学んだ意味が活かされます。</p>			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<p>※ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『小惑星衝突』日本スペースガード協会 著、Newton Press)</p>		<p>※主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう評価用紙 (宿題・Quiz) の中身です。</p>	

03年度以降(春)	都市・地域計画論 a	担当者	鈴木 隆
02年度以前(春)	都市・地域計画論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、人間の生活および諸活動の場である都市および農村もしくは地域に関わる現象、課題、施策について、日本やヨーロッパの例を取り上げながら学び、都市や地域について考える視点と知識をつけることを目的とする。</p> <p>講義は、都市や地域に関して多様な視点から問題を提起し、それをめぐる既往の研究や議論に言及しながら進めてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 都市の概念 2 団体としての都市 3 団体としての都市(続) 4 団体としての都市(続) 5 団体としての都市(続) 7 小括 7 都市と人口 8 都市と人口(続) 9 都市と人口(続) 10 都市と地域の構造 11 都市と地域の構造(続) 12 都市と地域の構造(続) <p>以上の計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。参考文献は授業の中で紹介する。		主として、試験およびレポートの結果によって評価する。出席状況も考慮する。	

03年度以降(秋)	都市・地域計画論 b	担当者	鈴木 隆
02年度以前(秋)	都市・地域計画論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、人間の生活および諸活動の場である都市および農村もしくは地域に関わる現象、課題、施策について、日本やヨーロッパの例を取り上げながら学び、都市や地域について考える視点と知識をつけることを目的とする。</p> <p>講義は、都市や地域に関して多様な視点から問題を提起し、それをめぐる既往の研究や議論に言及しながら進めてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 都市と地価 2 都市と地価(続) 3 小括 4 都市の賑わいと再生 5 都市の賑わいと再生(続) 6 都市の賑わいと再生(続) 7 都市の賑わいと再生(続) 8 都市の景観とイメージ 9 都市の景観とイメージ(続) 10 都市の景観とイメージ(続) 11 都市の景観とイメージ(続) 12 まとめ <p>以上の計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。参考文献は授業の中で紹介する。		主として、試験およびレポートの結果によって評価する。出席状況も考慮する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際政治論 a 国際政治論	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際政治の現在は著しく日常化し、我々の生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、安全保障や核拡散問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済問題、文化、環境問題などと関係づけて検討する。また、そのために必要な国際政治学の主要な概念や理論についても見ていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際政治学の基本的課題ーグローバル政治の構造ー 2 国際政治の構造的変動ー冷戦構造崩壊の意味ー 3 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー (1) 4 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー (2) 5 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー (1) 6 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー (2) 7 グローバル政治の形成と意義 8 世界政治と安全保障 9 世界政治と経済 10 世界政治と文化 11 世界政治とナショナリズム 12 世界政治と環境問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界政治の原理と変動ー世界的規模の問題群とその解決ー』同文館(テキスト)		試験、レポート(書評)、出欠状況による総合評価。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際政治論 b 国際政治論	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我々の日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際関係の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性などの検討が要求されている。そこで、一方の国際(世界)政治を構成する主体(主権国家や脱国家主体など)と、他方のそれら主体間で構成される国際システムと脱国家間関係システムとから成るグローバル・システムと、の二つの視点から国際(世界)政治の本質と基本的構造に体系的なアプローチを試みていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 戦後国際政治の基本的枠組み 2 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー (1) 3 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー (2) 4 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー (3) 5 国際政治の主体としての主権国家 6 国家と民族・文化 7 国家と経済社会 8 国家と国民(市民) 9 国際システムにおける脱国家主体の地位と機能 10 地域主義と行動主体 11 国家間関係の構造と変容 12 脱国家間関係の構造と変容 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界政治における構造主体と構造』(アジア大学購部ブックセンター)		試験、レポート、出欠状況による総合評価。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	卒業論文 卒業論文	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語文化学科では卒業論文は必修科目ではないが、学生諸君にはできるだけ履修し、論文を書き上げて提出することを勧めている。</p> <p>なぜなら、卒業論文に真摯に取り組んで仕上げることは、物事を論理的に考える方法を獲得し、困難なテーマに取り組んでそれを克服する能力と姿勢を養うためには、とても良い方法だからである。単に単位を修得するためだけではなく、また学生時代の思い出としてではなく、諸君の人生にとって必ずや大きな意味を持つ取り組みになるからである。</p> <p>しかし、諸君の中にはこれを大変安易に捕らえている向きも多く見受けられる。卒業論文は1ヶ月や2ヶ月の準備と作業で書き上げられるほど簡単なものではない。担当教員の指導に従い、頻繁に指導を受けて早い時期から取り組み、きちんとしたものを仕上げたい。提出間際になって突然相談を受けても何もできない。就職活動などは言い訳にはならないことを忘れてはいけない。</p>		<p>卒業論文提出予定者に向けて4月と10月にガイダンスを開催する予定なので、必ず参加すること。</p> <p>普段の指導は担当教員の指示に従うこと。</p> <p>なお、執筆にはパーソナルコンピュータでワードプロセッサ・画像ソフトを用い、きちんとしたデジタルデータを提出することが求められる。操作の習熟が求められるので早い内から準備し、取り組んでほしい。</p> <p>例年、提出当日にコンピュータやプリンタの故障で提出できない学生がいる。早めの提出のために周到な計画を立てることが必要である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示による		学科の申し合わせによる	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	卒業論文 卒業論文	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照			
テキスト、参考文献		評価方法	

2005年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学生用)

外国語学部共通科目 (2003年度以降入学生用)

目 次

※受講定員のある科目は、登録が定員を超えた場合に抽選を行う。授業時間割表を参照する。

時間割 コード	開講期	受講 定員	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
07690	春		総合講座	加藤 億重	水3	5-128	2	1	経・法	1
07691	秋		総合講座	加藤 億重	水3	5-128	2	2	経・法	1
00220	春		情報科学概論a	呉 浩東	金1	1-206	2	1	経・法	2
00221	秋		情報科学概論b	呉 浩東	金1	1-206	2	2	経・法	2
			情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	経・法	3
00138	春	60		長崎 等	月3	5-201				
00042	春	60		東 孝博	月3	5-207				
00058	春	60		金子 憲一	月4	5-207				
00068	春	60		金子 憲一	月5	5-207				
00074	春	60		田中 雅英	火1	5-207				
00093	春	60		田中 雅英	火2	5-207				
00208	春	60		内田 俊郎	木4	5-207				
00253	春	60		松山 恵美子	金2	5-207				
			情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員			2	2	経・法	4
00141	秋	60		長崎 等	月2	5-207				
00044	春	50		金子 憲一	月3	5-101				
00070	秋	60		金子 憲一	月5	5-207				
00076	秋	60		田中 雅英	火1	5-207				
00109	春	60		田中 雅英	火3	5-100				
09040	春	60		二宮 哲	水1	5-201				
00019	秋	50		呉 浩東	水2	5-208				
00184	春	60		内田 俊郎	木2	5-207				
00193	秋	60		内田 俊郎	木2	5-201				
09037	秋	60		内田 俊郎	木3	5-207				
00231	秋	60		松山 恵美子	金2	5-207				
00255	春	60		松山 恵美子	金3	5-201				
00201	春	60	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2	5-100	2	1	経・法	5
00202	秋	60	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2	5-100	2	2	経・法	5
			情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員			2	2	経・法	6
00046	秋	60		東 孝博	月3	5-207				
00060	秋	60		金子 憲一	月4	5-207				
00096	秋	60		田中 雅英	火2	5-207				
00131	秋	60		二宮 哲	水1	5-201				
00021	春	50		呉 浩東	水2	5-208				
00195	春	60		内田 俊郎	木3	5-207				
00210	秋	60		内田 俊郎	木4	5-207				
00239	秋	30	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金3	5-203	2	2	経・法	7
00232	春	30	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金4	5-207	2	1	経・法	7
09308	秋	30	情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	金4	5-203	2	2	経・法	8
00017	春	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	東 孝博	月2	5-203	2	1		9
00048	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	月3	5-101	2	2		10
00111	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	火3	5-100	2	2		11
00025	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用2)	東 孝博	月2	5-203	2	2		9
00156	春	30	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	月2	5-207	2	1		12
00158	秋	30	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	月3	5-209	2	2		12
00172	春	30	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	月2	5-210	2	3	言	13
00191	秋	30	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	月2	5-210	2	4	言	13
00087	春		経済原論a	野村 容康	火1	2-404	2	1	経・法	14
00088	秋		経済原論b	野村 容康	火1	2-404	2	2	経・法	14
00055	春		社会心理学a	田口 雅徳	火4	3-202	2	1		15
00056	秋		社会心理学b	田口 雅徳	火4	3-202	2	2		15

03年度以降（春）	総合講座	担当者	加藤 僖重																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>～日本は諸外国から何を学び、何を伝えたか～</p> <p>講義目的および概要 日本人は海外への好奇心は高く、海外から多くの諸知識を昔から得てきた。 本講義は毎回の講演者が、右に示したように各自の専攻分野において、日本が外国の学問をどのように導入したかを講義する。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>4月13日</td><td>はじめに</td><td>加藤 僖重</td></tr> <tr><td>2</td><td>4月20日</td><td>中国古典</td><td>浅山 佳郎</td></tr> <tr><td>3</td><td>4月27日</td><td>「社会」</td><td>有吉 広介</td></tr> <tr><td>4</td><td>5月11日</td><td>ダンス</td><td>青柳 多恵子</td></tr> <tr><td>5</td><td>5月18日</td><td>会計学</td><td>湯田 雅夫</td></tr> <tr><td>6</td><td>5月25日</td><td>社会主義 1</td><td>辻 康吾</td></tr> <tr><td>7</td><td>6月 1日</td><td>社会主義 2</td><td>辻 康吾</td></tr> <tr><td>8</td><td>6月 8日</td><td>古代日本の国際交流</td><td>飯島 一彦</td></tr> <tr><td>9</td><td>6月15日</td><td>教育制度</td><td>川村 肇</td></tr> <tr><td>10</td><td>6月22日</td><td>基督教</td><td>高橋 正男</td></tr> <tr><td>11</td><td>6月29日</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>12</td><td>7月 6日</td><td>まとめ</td><td>加藤 僖重</td></tr> </table>		1	4月13日	はじめに	加藤 僖重	2	4月20日	中国古典	浅山 佳郎	3	4月27日	「社会」	有吉 広介	4	5月11日	ダンス	青柳 多恵子	5	5月18日	会計学	湯田 雅夫	6	5月25日	社会主義 1	辻 康吾	7	6月 1日	社会主義 2	辻 康吾	8	6月 8日	古代日本の国際交流	飯島 一彦	9	6月15日	教育制度	川村 肇	10	6月22日	基督教	高橋 正男	11	6月29日		未定	12	7月 6日	まとめ	加藤 僖重
1	4月13日	はじめに	加藤 僖重																																																
2	4月20日	中国古典	浅山 佳郎																																																
3	4月27日	「社会」	有吉 広介																																																
4	5月11日	ダンス	青柳 多恵子																																																
5	5月18日	会計学	湯田 雅夫																																																
6	5月25日	社会主義 1	辻 康吾																																																
7	6月 1日	社会主義 2	辻 康吾																																																
8	6月 8日	古代日本の国際交流	飯島 一彦																																																
9	6月15日	教育制度	川村 肇																																																
10	6月22日	基督教	高橋 正男																																																
11	6月29日		未定																																																
12	7月 6日	まとめ	加藤 僖重																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
		テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。																																																	

03年度以降（秋）	総合講座	担当者	加藤 僖重																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>～一冊の本・一つの資料に出会う～</p> <p>講義目的および概要 本講義では毎回の講演者が、各自の専攻分野において、何に惹かれ、何を勉強・研究しているかを講義する。この講義が学生諸君の将来の指針となることを願う。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>9月28日</td><td>はじめに</td><td>加藤 僖重</td></tr> <tr><td>2</td><td>10月 5日</td><td>明治の国際交流</td><td>飯島 一彦</td></tr> <tr><td>3</td><td>10月12日</td><td>スポーツ</td><td>梶野 克之</td></tr> <tr><td>4</td><td>10月19日</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>5</td><td>10月26日</td><td>フリースラント語</td><td>児島 仁士</td></tr> <tr><td>6</td><td>11月 2日</td><td>伊藤仁斎</td><td>浅山 佳郎</td></tr> <tr><td>7</td><td>11月 9日</td><td>教育史</td><td>川村 肇</td></tr> <tr><td>8</td><td>11月16日</td><td>文化人類学</td><td>井上 兼行</td></tr> <tr><td>9</td><td>11月30日</td><td>化学と生活</td><td>塚目 孝裕</td></tr> <tr><td>10</td><td>12月 7日</td><td>シーボルト蒐集品</td><td>和田 浩志</td></tr> <tr><td>11</td><td>12月14日</td><td>スペイン語</td><td>二宮 哲</td></tr> <tr><td>12</td><td>12月21日</td><td>まとめ</td><td>加藤 僖重</td></tr> </table>		1	9月28日	はじめに	加藤 僖重	2	10月 5日	明治の国際交流	飯島 一彦	3	10月12日	スポーツ	梶野 克之	4	10月19日		未定	5	10月26日	フリースラント語	児島 仁士	6	11月 2日	伊藤仁斎	浅山 佳郎	7	11月 9日	教育史	川村 肇	8	11月16日	文化人類学	井上 兼行	9	11月30日	化学と生活	塚目 孝裕	10	12月 7日	シーボルト蒐集品	和田 浩志	11	12月14日	スペイン語	二宮 哲	12	12月21日	まとめ	加藤 僖重
1	9月28日	はじめに	加藤 僖重																																																
2	10月 5日	明治の国際交流	飯島 一彦																																																
3	10月12日	スポーツ	梶野 克之																																																
4	10月19日		未定																																																
5	10月26日	フリースラント語	児島 仁士																																																
6	11月 2日	伊藤仁斎	浅山 佳郎																																																
7	11月 9日	教育史	川村 肇																																																
8	11月16日	文化人類学	井上 兼行																																																
9	11月30日	化学と生活	塚目 孝裕																																																
10	12月 7日	シーボルト蒐集品	和田 浩志																																																
11	12月14日	スペイン語	二宮 哲																																																
12	12月21日	まとめ	加藤 僖重																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
		テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。																																																	

03年度以降(春)	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、アルゴリズムについて学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標 2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算 5 コンピュータの論理回路とデータ表現 6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置(CPU)とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺措置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12 アルゴリズム 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降(秋)	情報科学概論 b	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム(DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 言語処理における情報技術(演習) 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版 随時必要な資料を指示する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降(春)	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション 3 日本語入力とタイピング 4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 5 情報倫理 6 ワードプロセッサとは 7 文書の作成(1) 8 文書の作成(2) 9 文書の作成(3) 10 文書への画像の挿入 11 レポートの作成 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春)	情報科学各論(初級—表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1) —作成 (MS-Powerpoint とは) 10 プレゼンテーション(2) —作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3) —発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(初級—表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1) —作成 (MS-Powerpoint とは) 10 プレゼンテーション(2) —作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3) —発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論（入門）」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論（入門）」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降(春)	情報科学各論(初級-HTML入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWWとLAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストとHTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造とHTML 7 ホームページの作成-テキスト 8 ホームページの作成-イメージ 9 ホームページの作成-リンク 10 ホームページの作成-テーブル・その他 11 ホームページの作成-完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(初級-HTML入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWWとLAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストとHTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造とHTML 7 ホームページの作成-テキスト 8 ホームページの作成-イメージ 9 ホームページの作成-リンク 10 ホームページの作成-テーブル・その他 11 ホームページの作成-完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級—表計算応用1）	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフト (MS-Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA (Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成 (1) 4 関数と計算式を使ったマクロの作成 (2) 5 マクロ用ボタンとマクロの連携 6 第1回目課題作成 7 VBA の利用—簡単なゲームの作成 (1) 8 VBA の利用—簡単なゲームの作成 (2) 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級—表計算応用1）	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフト (MS-Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA (Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成 (1) 4 関数と計算式を使ったマクロの作成 (2) 5 マクロ用ボタンとマクロの連携 6 第1回目課題作成 7 VBA の利用 (1) 8 VBA の利用 (2) 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

03年度以降(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級一表計算応用2)	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は情報科学各論(中級一表計算応用1)の単位を取得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論(中級一表計算応用1)では、Excelの基本的なマクロ機能を学習しながらVBA(Visual Basic for Application)の基本についても触れた。</p> <p>本講義では、VBAをもう一步踏み込んで理解することを目的とする。</p> <p>最終的には、情報科学各論(中級一表計算応用1)で作成したマクロをプログラミングすることで、汎用性のあるものへと完成させていく。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel マクロ機能の復習 2 VBA とは (1) 3 プログラミングの技法 (1) 4 プログラミングの技法 (2) 5 マクロ用ボタンとの連携 6 第1回目課題作成 7 プログラミングの技法 (3) 8 プログラミングの技法 (4) 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-HTML応用1)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることが目標とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(初級)「HTML入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容説明 2 HTMLの復習(簡単なCGIの利用) 3 HTMLの復習(Javaスクリプトの埋め込み) 4 Javaアプレットの概要 5 プログラム練習(グラフィックスイメージの表示) 6 プログラム練習(定数と変数) 7 プログラム練習(for文1) 8 プログラム練習(for文2) 9 プログラム練習(if文) 10 プログラム練習(配列) 11 プログラム練習(Mathオブジェクト) 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-HTML応用2)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることが目標とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(中級)「HTML応用1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Javaの基本構造 2 イベント処理(マウスイベント1) 3 イベント処理(マウスイベント2) 4 イベント処理(キーイベント1) 5 イベント処理(キーイベント2) 6 GUI部品の使用(ボタン・チェックボックス) 7 GUI部品の使用(選択ボックス・スクロールバー) 8 GUI部品の使用(GUI部品のレイアウト) 9 スレッドの利用(イメージの移動) 10 スレッドの利用(色の変化・時計) 11 スレッドの利用(スレッドを利用したゲーム) 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

03年度以降（春）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	金子憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTMLとFTPの復習（1） 3 HTMLとFTPの復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI） 5 JavaScript（1） 6 JavaScript（2） 7 JavaScript（3） 8 JavaScript（4） 9 CGIの利用（1） 10 CGIの利用（2） 11 CGIの利用（3） 12 総合報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。プリントの配布も行う。		授業中に作成する課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。	

03年度以降(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-HTML応用1)	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML入門」に続く中級コースである。HTML入門を受講済みあるいは同等の知識を有する学生を対象に、単にHTML言語の更なる発展を目指すのではなく、CGIやJava Scriptにまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. Webページのネットへのアップロード等 3. プログラミングの考え方 4. Java Script1 5. Java Script2 6. Java Script3 7. Java Script4 8. CGI 9. 情報の収集1 10. 情報の収集2 11. 応用 12. その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-データベース1)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフトウェア(Excel)の基礎をマスターした学生を対象として、Excelを利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの1つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論(初級-表計算入門)を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 データベースについての調査 3 データベースの基本概念 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回目の授業で指示します。		出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-データベース2)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「データベース1」を履修済みの学生を対象として、Accessを利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Accessの基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらう。グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論(中級)「データベース1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Accessの基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリー(1) 6 クエリー(2) 7 グループによるテーブル設計1(ハイレベルエンティティ分析) 8 グループによるテーブル設計2(関係データ分析) 9 グループによるテーブル設計3(テーブル作成) 10 グループによるクエリ設計1(外部スキーマの設計) 11 グループによるクエリ設計1(クエリの作成) 12 グループによるプレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30Hで理解できるアクセス2000』, 実教出版 『図解雑学データベース』, ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-プログラミング論 1)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6 イベント駆動型プログラム 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文 11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を指示する。 		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-プログラミング論 2)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返し替えプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用的なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成 4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え 5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6 文字列の表示 7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11 再帰というプログラミング手法 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降(春)	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降(秋)	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. 物価とインフレーション 10. 失業の問題 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降（春）	社会心理学 a	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。本講義では、こうした点を近年の研究動向を踏まえて、身近な話題を取り入れながら論じていきたい。年間を通じての授業概要は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者認知 2. 自己認知 3. 集団の影響力と社会的行動 4. 自己呈示と自己開示 5. 対人コミュニケーションの心理 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 他者認知：印象形成 4. 他者認知：印象の記憶 5. 他者認知：性格に認知 6. 他者認知：対人魅力 7. 自己認知：自己意識 8. 自己認知：自覚理論と没個性化 9. 自己認知：自己知識 10. 自己認知：自己評価 11. 集団と個人の行動① 12. 集団と個人の行動② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。		出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。	

03年度以降（秋）	社会心理学 b	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的と概要は春学期を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス 2. 自己呈示① 3. 自己呈示② 4. 自己開示 5. コミュニケーションの心理①：説得① 6. コミュニケーションの心理②：説得② 7. コミュニケーションの心理③：言語 8. コミュニケーションの心理④：非言語① 9. コミュニケーションの心理⑤：非言語② 10. コミュニケーションの心理⑥：非言語③ 11. コミュニケーションの心理⑦：CMC 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。		出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。	